

KUMI-WAZA

ユーザーマニュアル

<<タグ対応版>>

for Adobe InDesign
Windows



COMPOSE MASTER
KUMI-WAZA

Adobe®Illustrator®/InDesign®対応
自動組版プラグイン

目次

1	はじめに	1
1.1	本書について	1
1.2	「組技」による自動組版の流れとメリット	1
1.3	動作環境・システム構成	2
1.4	ソフトウェアのライセンス情報について	3
2	用語説明	4
3	各部の名称	5
3.1	各メニューの構成	5
3.1.1	「組技について」メニュー	5
3.1.2	「組技」メニュー	6
3.1.3	「組技 パネル」メニュー	7
3.1.4	「組技 コマンド」メニュー	8
3.2	各ツールの概要	9
3.3	各パネルの構成	10
3.3.1	データ表示 パネル	10
3.3.2	データ項目表示 パネル	12
3.3.3	画像一覧 パネル	13
3.3.4	テンプレート一覧 パネル	15
3.3.5	項目マッピング パネル	16
3.3.6	データファイル パネル	17
3.3.7	制作情報 パネル	17
3.3.8	レイアウト枠 パネル	18
3.3.9	テキストフレーム パネル	19
3.3.10	画像フレーム パネル	19
3.3.11	フィールド パネル	19
3.3.12	あふれ処理 パネル	20
3.3.13	フレーム伸縮 パネル	20
4	組版機能	21
4.1	子組テンプレートの作成と利用	21
4.1.1	項目マッピングパネルを使用して、子組テンプレートを作成する	22

4.1.2	テキストフィールドの作成	23
4.1.3	画像配置用フィールドの作成	23
4.1.4	項目マッピングの解除	23
4.1.5	テンプレート・ファイルの一覧表示	24
4.1.6	テンプレートをドキュメントに配置する	26
4.2	割り付け（流し込み）時のオプション	27
4.2.1	フィールドのオプション	27
4.2.2	テキストフレームのオプション	27
4.2.3	画像フレームのオプション	28
4.2.4	あふれ処理の設定	29
4.2.5	フレーム伸縮の設定	30
4.3	データの表示	31
4.3.1	データの一覧表示	31
4.3.2	データファイルの読み込み	31
4.3.3	データ項目の内容表示	33
4.3.4	制作情報 の表示	33
4.3.5	差異チェック結果による表示フィルタリング	34
4.3.6	データの絞り込み	35
4.3.7	フリーワード検索	36
4.4	画像の表示	36
4.4.1	データとの自動マッチング	36
4.4.2	画像フォルダを指定する	37
4.4.3	画像のサムネイル表示	39
4.4.4	画像を開くアプリケーションを追加する	41
4.4.5	登録したアプリケーションから画像を開く	42
4.5	データの割り付け（流し込み）と更新	43
4.5.1	子組テンプレートヘデータを割り付ける	43
4.5.2	項目データを直接割り付ける	45
4.5.3	更新データをフィールドに反映する	46
4.5.4	データの割り付け先フィールド（アートオブジェクト）を探す	47
4.5.5	アートオブジェクトから割り当てられているデータを探す	49
4.6	画像の配置と差し替え	51
4.6.1	画像一覧パネルから画像を配置する	51
4.6.2	画像の自動配置	51
4.6.3	配置画像の選択設定	51

4.6.4	配置画像の差し替え	51
4.7	レイアウト枠を使用した割り付け（流し込み）	52
4.7.1	レイアウト テンプレートの作成	52
4.7.2	レイアウト枠配置レイヤーについて	54
4.7.3	割り付け順の設定	55
4.7.4	レイアウトテンプレートへのデータの割り付け（流し込み）	56
4.7.5	テンプレート配置オプションの設定による違い	60
4.7.6	地番レイアウトへのデータの割り付け（流し込み）	62
4.8	ペースト機能の拡張	65
4.8.1	データとの関連付けを維持してペーストする	65
4.8.2	テンプレートとしてペーストする	65
4.8.3	項目マッピングを解除してペーストする	66
5	比較機能	67
5.1	データとの差異チェック	67
5.1.1	差異チェックの実行	67
5.1.2	パネル上での色分け表示	68
5.1.3	ドキュメント上での色分け	68
5.1.4	レポート出力	69
5.2	ドキュメント同士の比較	71
5.2.1	レポート出力	71
5.3	データ同士の比較	73
5.3.1	比較元/比較先のデータファイルを指定する	73
5.3.2	パネル上での色分け表示	74
5.3.3	データ表示フィルター	74
5.4	差異チェック除外項目設定	75
5.4.1	除外項目を設定する	75
5.4.2	除外項目設定を外部ファイルへ保存する	75
5.4.3	除外項目設定を外部ファイルから読み込み	75
5.5	除外設定	76
5.5.1	データ表示 パネルでの除外設定	76
5.5.2	データ項目表示 パネルでの除外設定	77
5.5.3	除外設定を外部ファイルに保存する	77
5.5.4	除外設定を外部ファイルから読み込む	78

6	保存.....	79
6.1	構造を削除して複製を保存.....	79
6.1.1	構造を削除して複製を保存.....	79
7	データのエクスポート.....	80
7.1	画面について.....	80
7.1.1	「組技 エクスポート」ダイアログ.....	80
7.2	データの外部ファイル出力 (XML)	81
7.3	データの外部ファイル出力 (CSV)	84
8	データについて.....	86
8.1	CSV データ	86
8.1.1	属性.....	86
8.1.2	固定属性.....	86
8.2	画像定義ファイル.....	87
8.2.1	画像定義ファイルについて.....	87
8.2.2	画像ファイルの複数定義.....	87
8.2.3	画像定義ファイルのファイル名について.....	88

1 はじめに

1.1 本書について

本書は、組技についてご説明するものです。

1.2 「組技」による自動組版の流れとメリット

組技は、Adobe Illustrator/InDesign 用の自動組版プラグインです。組技をインストールすることにより、組版作業の【時間短縮】【ミス低減】を実現するための機能が、組技メニュー、組技コマンド、および組技パネルとして表示されます。図 1 は、一般的な組版作業の流れと、その中で組技がどのような役割を担っているかを示したものです。

組技は、大きく次の 4 つの機能を提供します。

- ① CSV や XML データを読み込み、組版を指定する機能
- ② 各種テキストと画像をワンセットで流し込み、データを指定する機能
- ③ 原稿データと作成中の紙面との差分チェック、データ反映などの便利機能
- ④ 各オブジェクトの座標データとの関連付けを含めたデータエクスポート機能

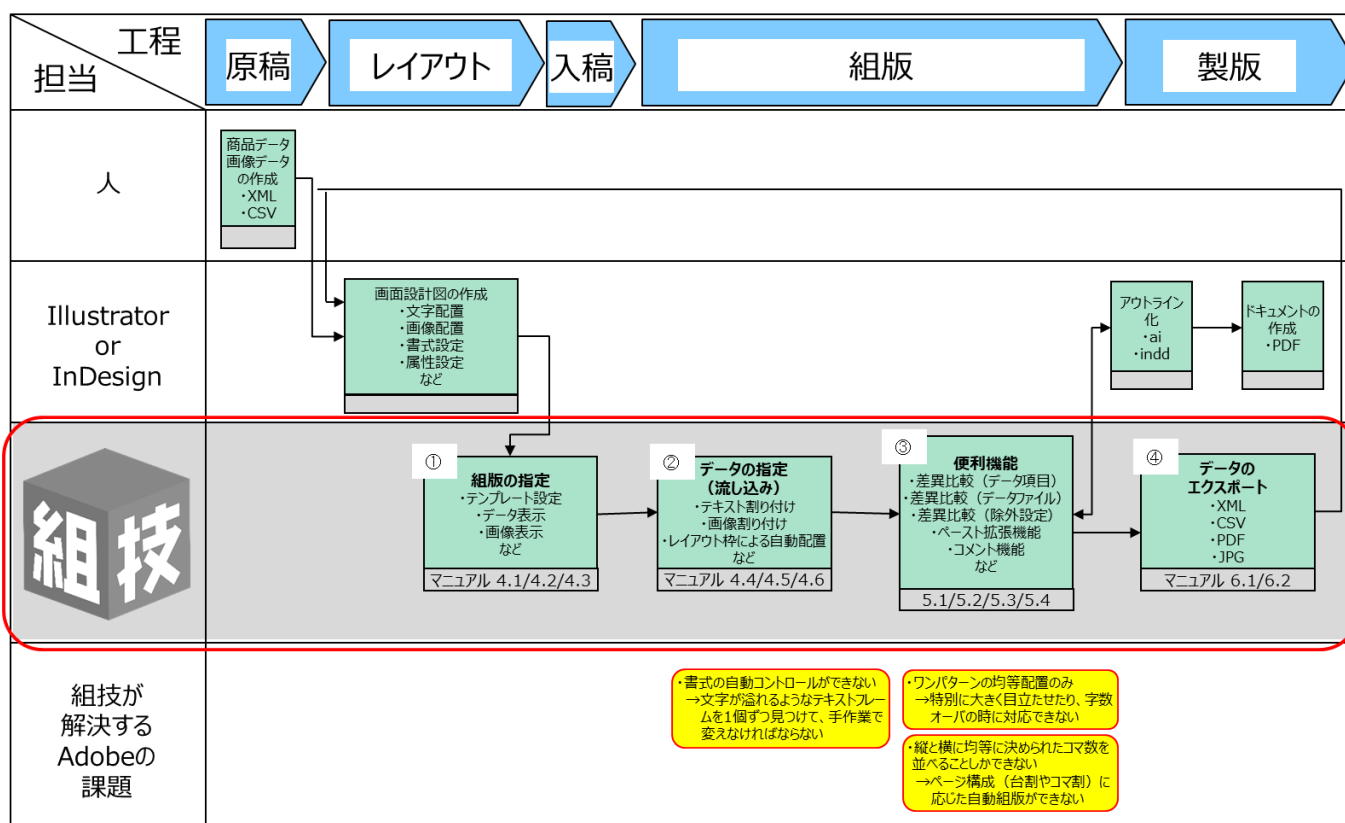


図 1. 組版作業の流れと組技の役割

1.3 動作環境・システム構成

Adobe InDesign CC2015.4 以上

対応 OS : Windows7 SP1、Windows10

他 : Java J2SE 5.0 以上

※ お使いの PC にインストールされている必要があります。

※ 対応 OS は、Adobe InDesign の各バージョンの仕様に依存します。

その他、動作に必要なシステム構成は、Adobe InDesign の必要システム構成に準じます。

1.4 ソフトウェアのライセンス情報について

この製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが含まれています。

(<http://www.openssl.org/>)

本ソフトウェアは、 expat (<http://expat.sourceforge.net/>) を使用しています。

この expat は MIT License によって配布されています。

以下は、 MIT License によって義務付けられている著作権表示およびライセンス文、免責条項です。

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd

and Clark Cooper

Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

2 用語説明

本書で使用する用語について説明します。

用語	意味
ドキュメント	InDesign のドキュメント 主に、拡張子 indd のファイルを指す
オブジェクト	InDesign の テキストフレーム、グラフィックフレームなど、ページ上に配置されるアイテムを指す。
データ	文字や、画像の集合体を指す 時に、校正済みの文字データ ドキュメントへ割り付けられる文字データを指す
文字データ	いわゆるテキスト
フィールド	データが割り付けられたテキスト範囲、グラフィックフレームを指す データ項目と関連付けられているテキスト範囲、グラフィックフレームを指す
テンプレート	1 つ以上のフィールドで構成されている
画像配置枠	データ項目と関連付けを持つグラフィックフレーム
割り付け	データを流し込むこと
パネル	CS2 までは、パレットと呼ばれていた CS3 からは、Adobe のドキュメント類では、パネルと書かれている。
差異チェック	ドキュメント上のオブジェクトとデータとの差異をチェックする
属性	CSV データにおけるデータ項目名を指す

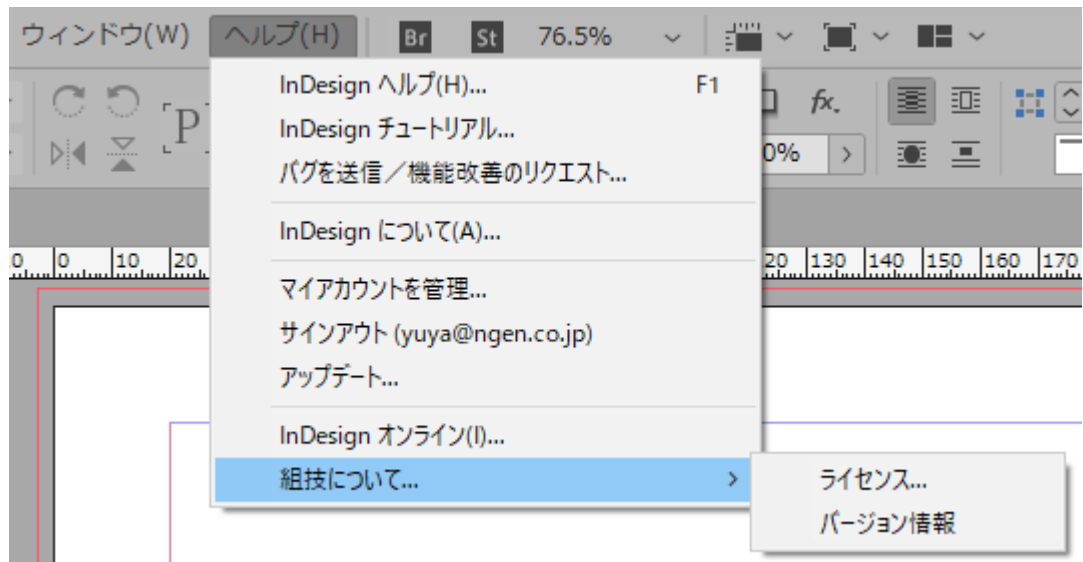
3 各部の名称

組技で追加されるメニュー及び、パネルについて

3.1 各メニューの構成

組技で追加されるメニューについて説明します。

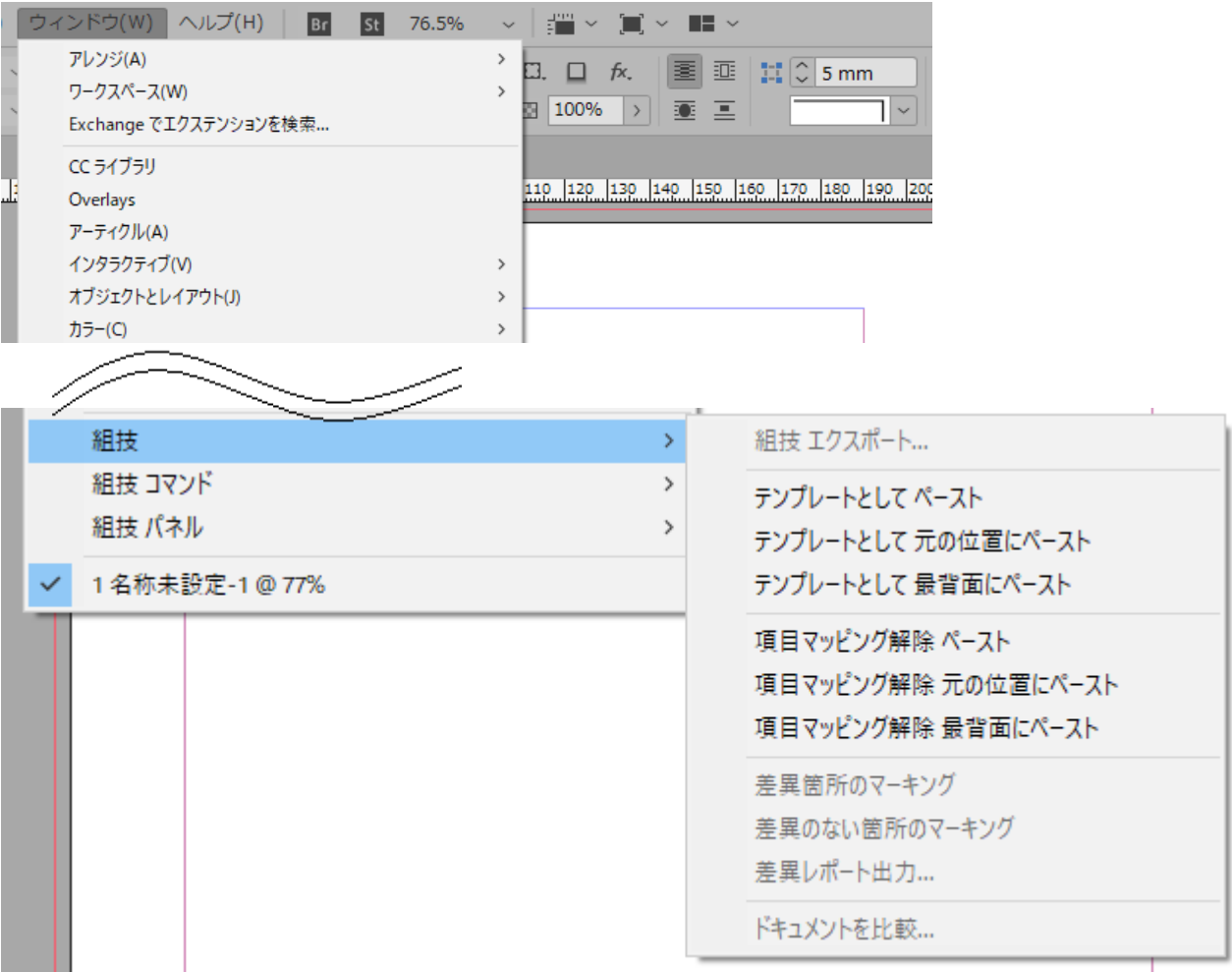
3.1.1 「組技について」メニュー



ライセンス	ライセンス認証画面を開きます。 ⇒ インストールマニュアル（別冊）を参照
バージョン情報	組技のバージョン情報を表示します。

3.1.2 「組技」メニュー

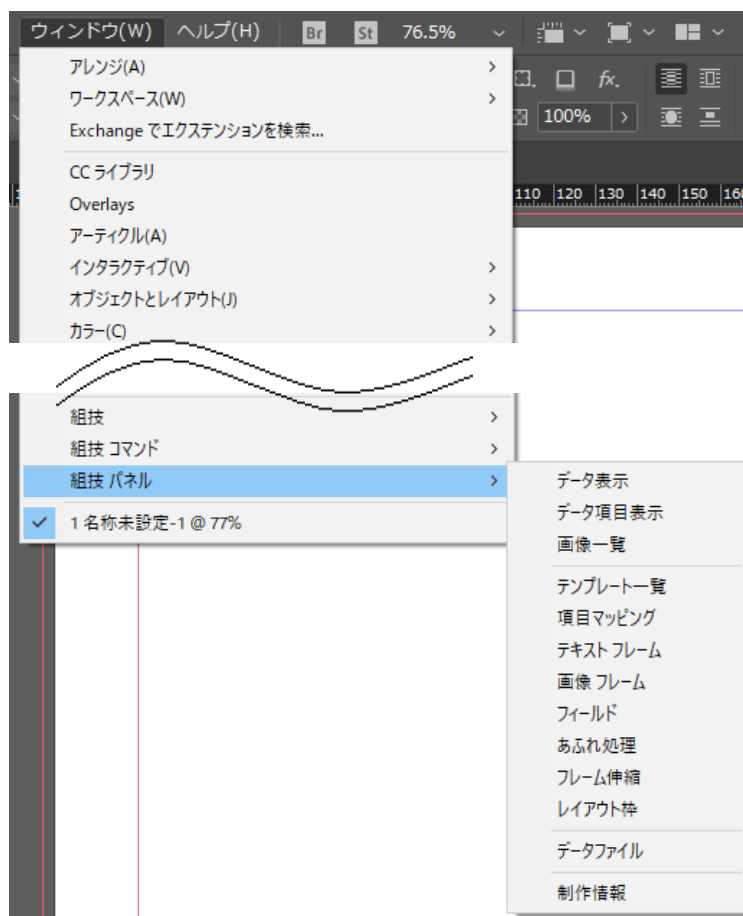
組技で追加される機能メニュー



テンプレートとして パースト	⇒ 65 ページを参照
テンプレートとして 元の位置にパースト	⇒ 65 ページを参照
テンプレートとして 最背面にパースト	⇒ 65 ページを参照
項目マッピング解除 パースト	⇒ 66 ページを参照
項目マッピング解除 元の位置にパースト	⇒ 66 ページを参照
項目マッピング解除 最背面にパースト	⇒ 66 ページを参照
差異箇所のマーキング	⇒ 68 ページを参照
差異のない箇所のマーキング	⇒ 69 ページを参照
差異レポート出力...	⇒ 69 ページを参照
ドキュメントを比較...	⇒ 71 ページを参照
構造を削除して複製を保存...	⇒ 79 ページを参照

3.1.3 「組技 パネル」 メニュー

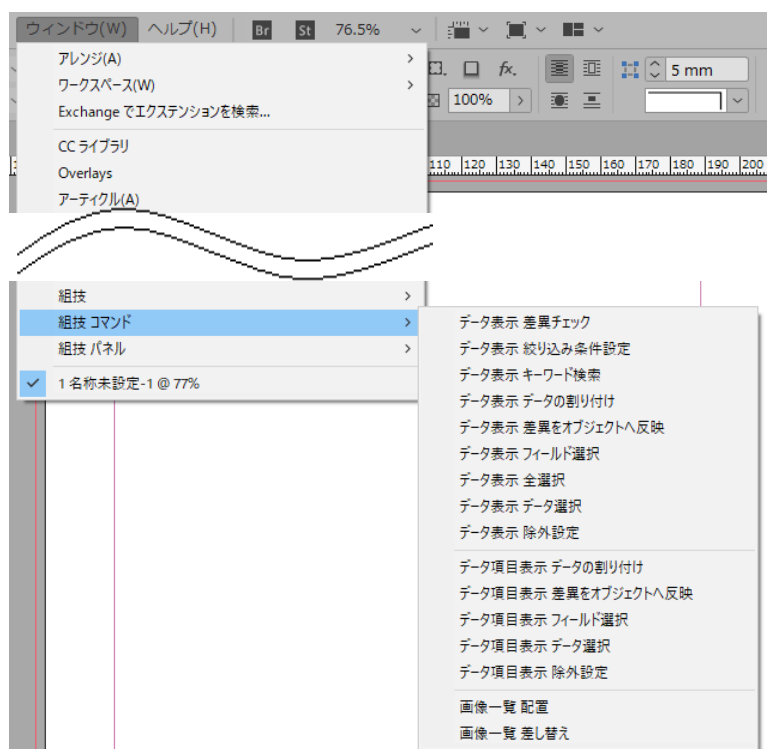
組技で追加されるパネルの表示/非表示を行います。



データ表示	データ表示 パネルの表示/非表示を行います。
データ項目表示	データ項目表示 パネルの表示/非表示を行います。
画像一覧	画像一覧 パネルの表示/非表示を行います。
テンプレート一覧	テンプレート一覧 パネルの表示/非表示を行います。
項目マッピング	項目マッピング パネルの表示/非表示を行います。
テキストフレーム	テキストフレーム パネルの表示/非表示を行います。
画像 フレーム	画像フレーム パネルの表示/非表示を行います。
フィールド	フィールド パネルの表示/非表示を行います。
あふれ処理	あふれ処理 パネルの表示/非表示を行います。
フレーム伸縮	フレーム伸縮 パネルの表示/非表示を行います。
レイアウト枠	レイアウト枠 パネルの表示/非表示を行います。
データファイル	データファイル パネルの表示/非表示を行います。
制作情報	制作情報 パネルの表示/非表示を行います。

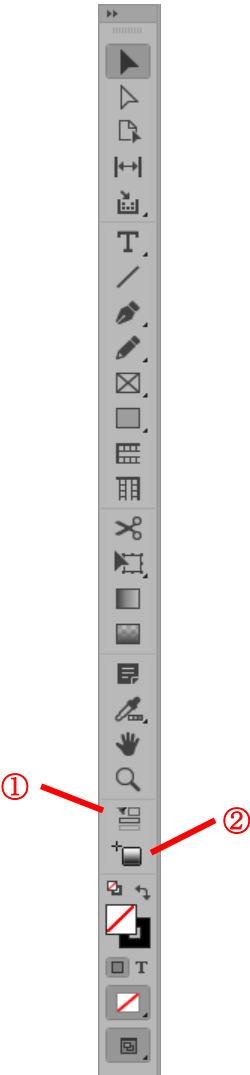
3.1.4 「組技 コマンド」 メニュー

組技で追加されるパネル上のボタンのうち、よく使われるものをキーボードショートカットとして割り当てを行えるように、メニュー項目として登録しています。



データ表示 差異チェック	データ表示 パネルの 差異チェック ボタンと同じ機能です。
データ表示 絞り込み条件設定	データ表示 パネルの 絞り込み設定 ボタンと同じ機能です。
データ表示 キーワード検索	データ表示 パネルの キーワード検索 ボタンと同じ機能です。
データ表示 データの割り付け	データ表示 パネルの データの割り付け ボタンと同じ機能です。
データ表示 差異をオブジェクトへ反映	データ表示 パネルの 差異をオブジェクトへ反映 ボタンと同じ機能です。
データ表示 フィールド選択	データ表示 パネルの フィールド選択 ボタンと同じ機能です。
データ表示 全選択	データ表示 パネルの 全選択 ボタンと同じ機能です。
データ表示 データ選択	データ表示 パネルの データ選択 ボタンと同じ機能です。
データ表示 除外設定	データ表示 パネルの 除外設定 ボタンと同じ機能です。
データ項目表示 データの割り付け	データ項目表示 パネルの データの割り付け ボタンと同じ機能です。
データ項目表示 差異をオブジェクトへ反映	データ項目表示 パネルの 差異をオブジェクトへ反映 ボタンと同じ機能です。
データ項目表示 フィールド選択	データ項目表示 パネルの フィールド選択 ボタンと同じ機能です。
データ項目表示 データ選択	データ項目表示 パネルの データ選択 ボタンと同じ機能です。
データ項目表示 除外設定	データ項目表示 パネルの 除外設定 ボタンと同じ機能です。
画像一覧 配置	画像一覧 パネルの 配置 ボタンと同じ機能です。
画像一覧 差し替え	画像一覧 パネルの 差し替え ボタンと同じ機能です。

3.2 各ツールの概要

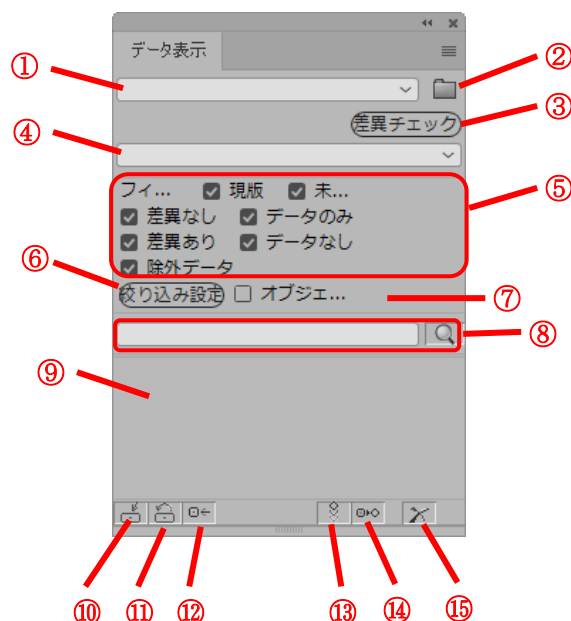


①	テンプレート配置 ツール	⇒ 26 ページを参照
②	レイアウト枠 作成ツール	⇒ 53 ページを参照

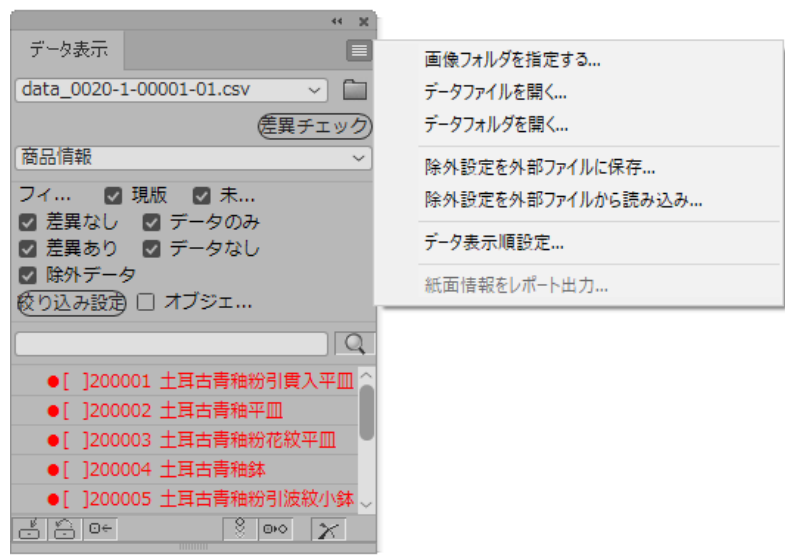
3.3 各パネルの構成

3.3.1 データ表示 パネル

データ表示 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



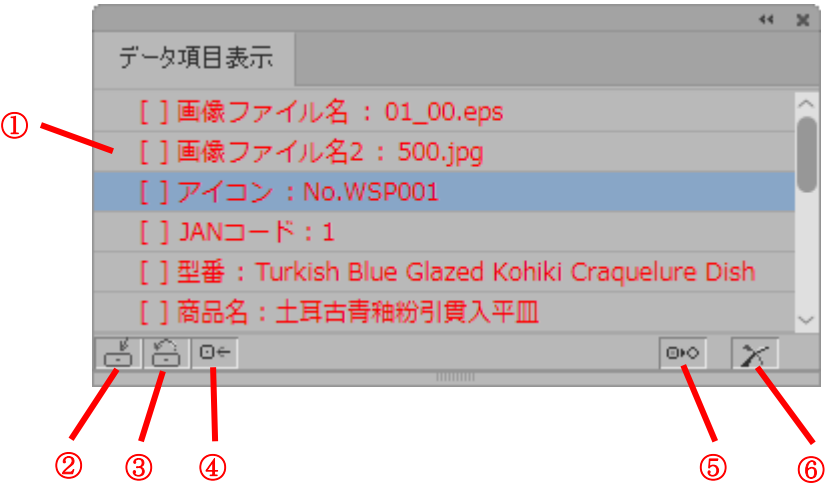
①	データファイル選択リスト	現在指定されているデータフォルダに格納されているデータファイルをリスト選択することができます。
②	データフォルダの指定 ボタン	⇒ 32 ページを参照
③	差異チェック ボタン	⇒ 67 ページを参照
④	データグループ 選択リスト	現在指定されているデータファイル内に含まれているデータグループをリスト選択することができます。
⑤	データ一覧表示フィルター	⇒ 34 ページを参照
⑥	絞り込み設定 ボタン	⇒ 35 ページを参照
⑦	オブジェクト同期 オプション	データ一覧の表示内容に合わせて、カレントドキュメント上のアートオブジェクトを表示/非表示します。
⑧	検索	⇒ 36 ページを参照
⑨	データ一覧	現在指定されているデータファイル内のデータを一覧表示します。 データファイル内に複数のデータグループが含まれている場合、パネル上で選択されているデータグループの内容が表示されます。
⑩	データの割り付け ボタン	⇒ 43 ページを参照
⑪	差異をオブジェクトへ反映 ボタン	⇒ 46 ページを参照
⑫	フィールド選択 ボタン	⇒ 47 ページを参照
⑬	全選択 ボタン	データ一覧の内容を全て選択/全て選択解除 ができます。
⑭	データ選択 ボタン	⇒ 49 ページを参照
⑮	除外設定 ボタン	⇒ 76 ページを参照



データファイルを指定する	⇒ 31 ページを参照
データフォルダを指定する	データフォルダの指定 ボタンと同じ機能です。 ⇒ 32 ページを参照
画像フォルダを指定する	⇒ 37 ページを参照
除外設定を外部ファイルに保存する	⇒ 77 ページを参照
除外設定を外部ファイルから読み込む	⇒ 78 ページを参照
紙面情報をレポート出力	

3.3.2 データ項目表示 パネル

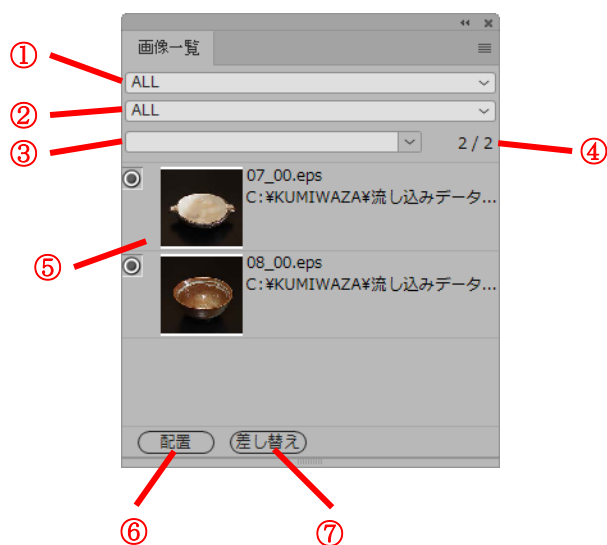
データ項目表示 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



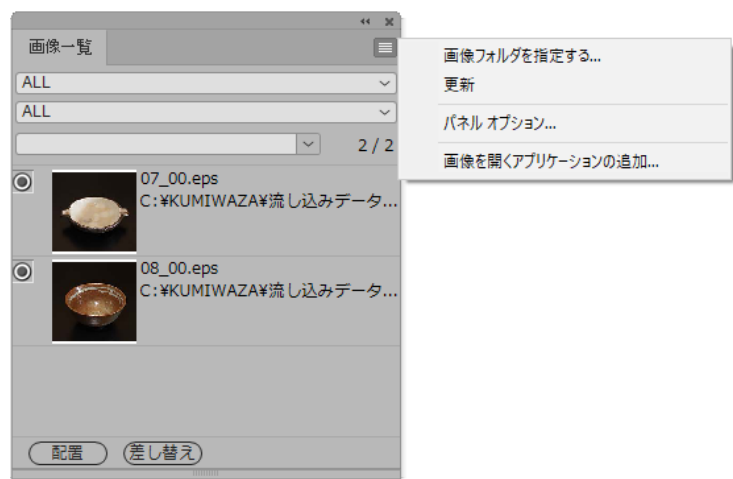
①	データ項目一覧	データ表示パネルのデータ一覧で選択されたデータの内容を表示します。
②	データの割り付け ボタン	⇒ 45 ページを参照
③	差異をオブジェクトへ反映 ボタン	⇒ 46 ページを参照
④	フィールド選択 ボタン	⇒ 48 ページを参照
⑤	データ選択 ボタン	⇒ 50 ページを参照
⑥	除外設定 ボタン	⇒ 77 ページを参照

3.3.3 画像一覧 パネル

画像一覧 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	項目名選択	画像 ID (もしくはファイル名) の項目として指定されている項目名をリスト選択できます。
②	画像 ID 選択	データー一覧で選択されているデータに含まれている画像 ID (もしくはファイル名) をリスト選択できます。 選択できる内容は、③で選択されている項目の内容になります。
③	画像絞り込み条件	キーワードによる絞り込みが可能。 画像ファイルのファイル名及び、格納されているフォルダ名の一部をキーワードとして使用できます。
④	画像数表示	データー一覧で選択されているデータに関連付く画像の件数を”n/m”の形式で表示します。 n・・・③④⑤の設定により、絞り込まれた結果の件数 m・・・現在指定されている画像フォルダ内に存在する画像数
⑤	画像一覧	画像のサムネイル、ファイル名、ファイルパスを表示します。
⑥	配置 ボタン	⇒ 51 ページを参照
⑦	差し替え ボタン	⇒ 51 ページを参照



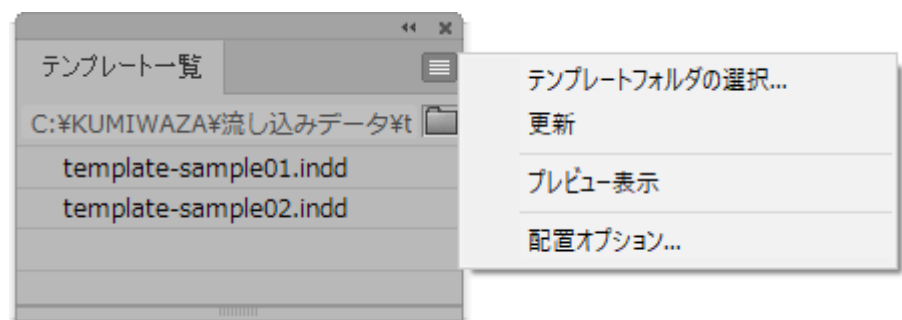
画像フォルダを指定する	⇒ 37 ページを参照
更新	⇒ 39 ページを参照
パネルオプション	⇒ 40 ページを参照
画像を開くアプリケーションを追加する	⇒ 41 ページを参照

3.3.4 テンプレート一覧 パネル

テンプレート一覧 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



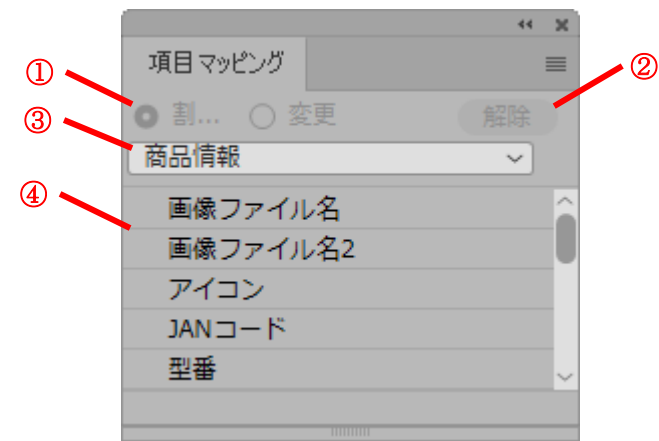
①	テンプレートフォルダパス表示	現在設定されているテンプレートフォルダのパスを表示します。
②	テンプレートフォルダの指定 ボタン	⇒ 25 ページを参照
③	テンプレート一覧	現在設定されているテンプレートフォルダ内に格納されているテンプレート・ファイル(*.indd)を一覧表示します。



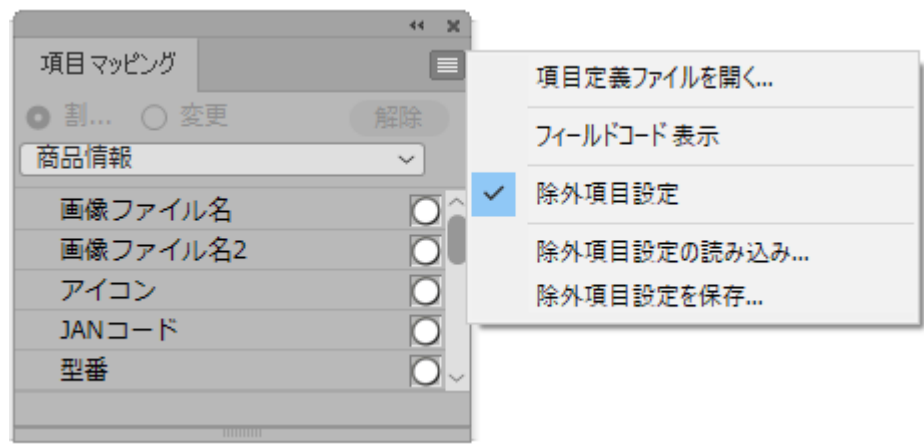
テンプレートフォルダの選択	⇒ 25 ページを参照
更新	⇒ 25 ページを参照
プレビュー表示	⇒ 25 ページを参照
配置オプション	⇒ 56 ページを参照 ⇒ 60 ページを参照

3.3.5 項目マッピング パネル

項目マッピング パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



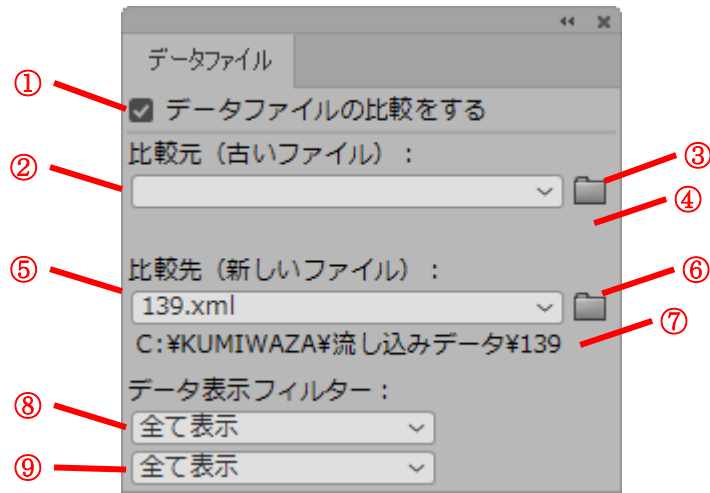
①	割り当て/変更	ユーザーが変更することはできません。
②	項目マッピング 解除 ボタン	⇒ 23 ページを参照
③	フォーマット選択リスト	読み込まれている項目定義が複数のフォーマットを持っている場合、リスト選択ができます。
④	項目一覧	読み込まれている項目定義の内容が表示されます。 複数のフォーマットを持っている場合、選択されているフォーマットの内容が表示されます。



項目定義ファイルを開く	⇒ 22 ページを参照
コード表示	項目に割り当てられているコードを表示します。
除外項目設定	⇒ 75 ページを参照
除外項目設定の読み込み	⇒ 75 ページを参照
除外項目設定を保存	⇒ 75 ページを参照

3.3.6 データファイル パネル

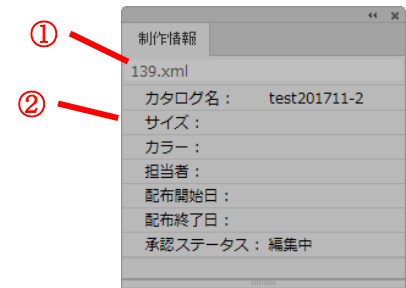
データファイル パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	データファイルの比較をする	データファイル同士の比較を行う場合、チェックを On にします。 ⇒ 73 ページを参照
②	比較元ファイル 選択リスト	⇒ 73 ページを参照
③	比較元データフォルダの指定 ボタン	⇒ 73 ページを参照
④	比較元ファイルパス 表示	現在選択されている比較元ファイルのファイルパスを表示します。
⑤	比較先ファイル 選択リスト	⇒ 73 ページを参照
⑥	比較先データフォルダの指定 ボタン	⇒ 73 ページを参照
⑦	比較先ファイルパス 表示	現在選択されている比較先ファイルのファイルパスを表示します。
⑧	表示データファイル選択リスト	⇒ 74 ページを参照
⑨	表示データ選択リスト	⇒ 74 ページを参照

3.3.7 制作情報 パネル

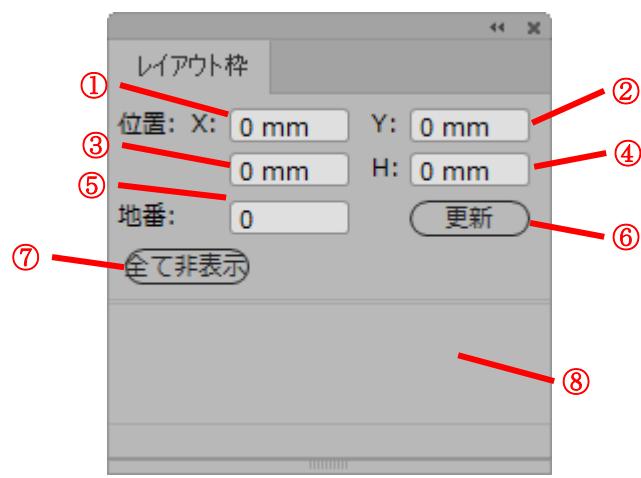
制作情報 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	データファイル名 表示	現在指定されているデータファイルのファイル名を表示する
②	制作情報一覧	現在指定されているデータファイルに含まれる制作情報を表示する

3.3.8 レイアウト枠 パネル

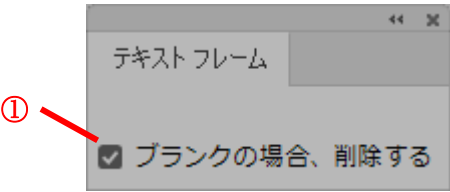
レイアウト枠 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	レイアウト枠 位置 座標 X	ドキュメント上で選択されているレイアウト枠の左上隅座標を表示します。(単位は、ミリメートルです。)
②	レイアウト枠 位置 座標 Y	ドキュメント上で選択されているレイアウト枠の左上隅座標を表示します。(単位は、ミリメートルです。)
③	レイアウト枠 横幅 W	ドキュメント上で選択されているレイアウト枠の横幅を表示します。(単位は、ミリメートルです。)
④	レイアウト枠 高さ H	ドキュメント上で選択されているレイアウト枠の高さを表示します。(単位は、ミリメートルです。)
⑤	レイアウト枠 地番	ドキュメント上で選択されているレイアウト枠に設定されている地番を表示します。
⑥	更新 ボタン	①～⑤の値を変更することができます。
⑦	全て表示/非表示 ボタン	ドキュメント上に配置されているレイアウト枠の表示/非表示を切り替えることができます。
⑧	レイアウト枠 リスト	ドキュメント上に配置されているレイアウト枠の一覧を表示します。

3.3.9 テキストフレーム パネル

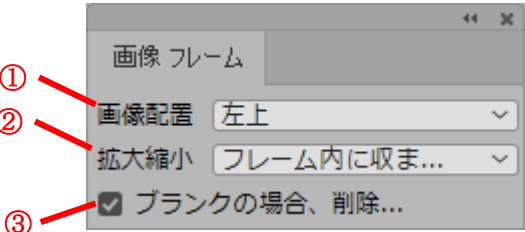
テキストフレーム パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	Blank case, delete	データを割り当てた結果、テキストフレームの内容が空になる場合、そのテキストフレームを削除します。
---	--------------------	--------------------------------------------------

3.3.10 画像フレーム パネル

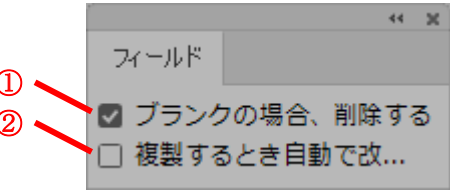
画像フレーム パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	Image placement selection list	Image placement selection list
②	Zoom selection list	Zoom selection list
③	Blank case, delete	Blank case, delete

3.3.11 フィールド パネル

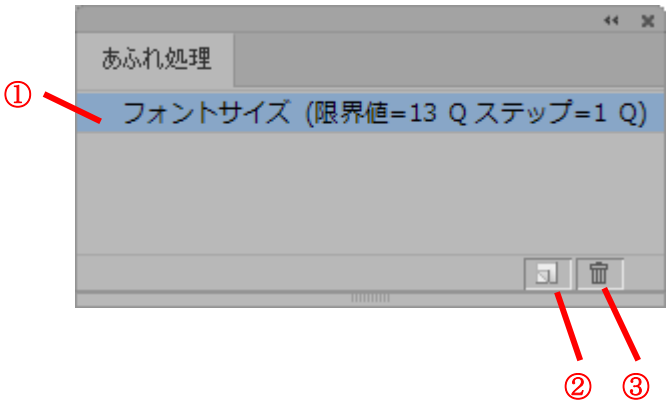
フィールド パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	Blank case, delete	Blank case, delete
②	Automatically add line break when copying	Automatically add line break when copying

3.3.12 あふれ処理 パネル

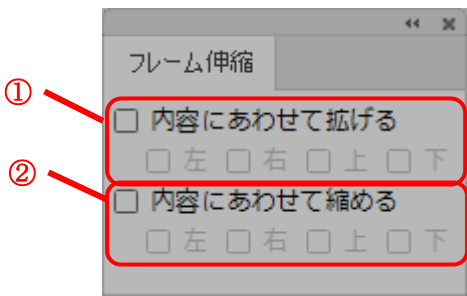
あふれ処理 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	あふれ処理 一覧	設定されているあふれ処理を一覧表示します。
②	あふれ処理追加 ボタン	あふれ処理を追加するためのダイアログを表示します。
③	あふれ処理削除 ボタン	一覧で選択されているあふれ処理を削除します。

3.3.13 フレーム伸縮 パネル

フレーム伸縮 パネルの各部の名称と、パネルメニューについて説明します。



①	内容に合わせて広げる	フレームの内容に合わせてフレームを広げます。
②	内容に合わせて縮める	フレームの内容に合わせてフレームを縮めます。

4 組版機能

テンプレートや、レイアウト枠を使用すると、レイアウトを決めてデータを割り付けることができます。

また、あらかじめ項目とのマッピングされたオブジェクトをあらかじめ作成しておかなくても、自動でマッピングできるため、いきなりデータを割り付けることができます。

データ形式に XML と CSV を採用しているため、複雑なデータ構造にも柔軟に対応できます。

また、テンプレートと言っても、単純な InDesign ドキュメントであるため、プラグインの機能に束縛されることなく、自由にデザインの変更ができます。

4.1 子組テンプレートの作成と利用

テンプレートを使用することで、同じようなデザインをデータ毎に作成する必要がなくなります。

テンプレートの作成手段は 2 通りあります。

- 項目マッピング パネルを使用して項目とマッピングされたアートオブジェクトを作成し、デザインを組む。
- データをドキュメント上に割り付けてデザインを組む。

いずれも、ファイル(*.indd)として保存するだけで、テンプレートとして利用できます。

テンプレートとして作成したファイル(*.indd)は テンプレート一覧 パネルに一覧表示できます。

4.1.1 項目マッピングパネルを使用して、子組テンプレートを作成する

項目マッピング パネルを使用して項目とマッピングされたテキスト範囲もしくは、グラフィックフレームを作成し、デザインを組みます。

項目とマッピングされたテキスト範囲もしくは、グラフィックフレームをフィールドと呼びます。

テキストフィールドには、ストーリー内のテキストを使用します。

画像を配置するためのフィールドには、長方形フレームツールを使用して配置されたグラフィックフレームを使用します。

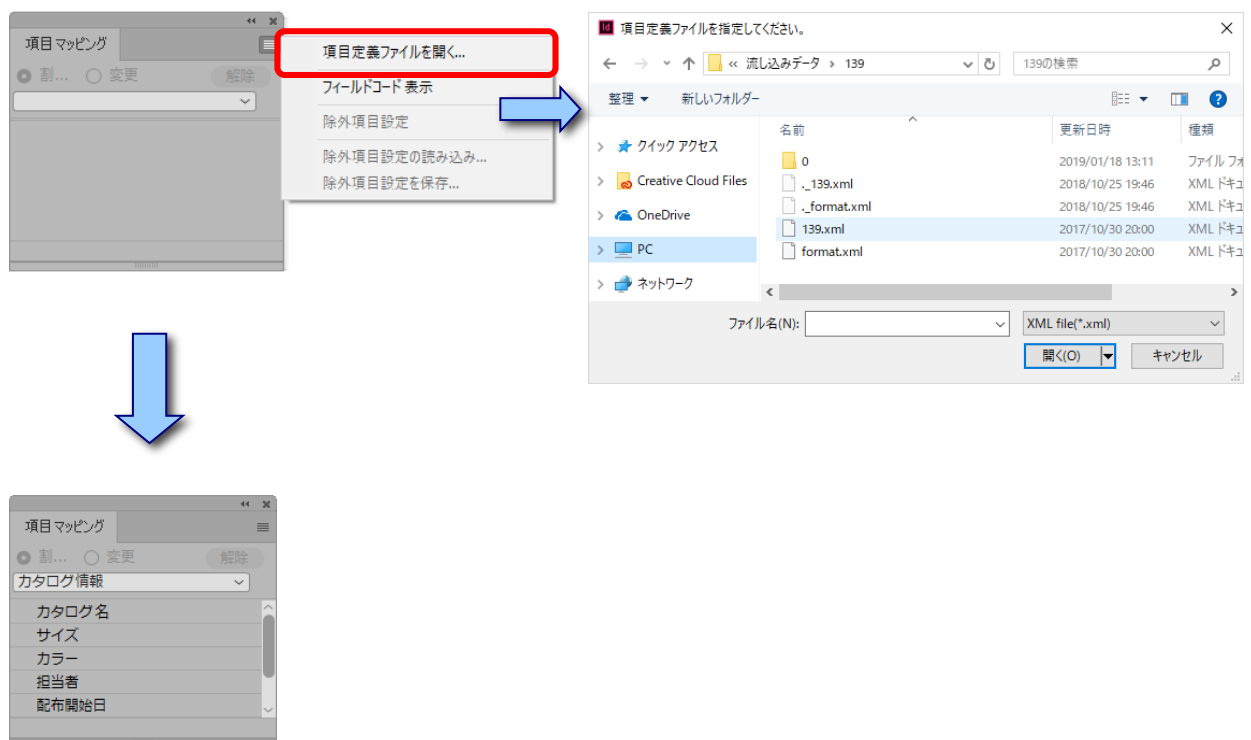
テンプレート・ファイルには、フィールドとして使用する以外のオブジェクトを含めることもできます。

データ項目定義ファイルの読み込み

「項目マッピング」パネルのパネルメニューから[項目定義ファイルを開く]を選択します。

「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、項目定義ファイル(format.xml)を選択します。

ファイルが指定されると、項目一覧にその内容が表示されます。



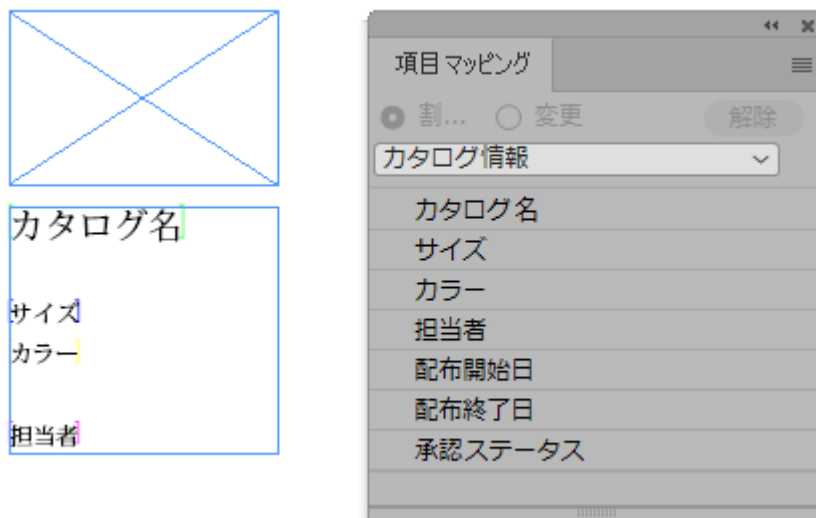
4.1.2 テキストフィールドの作成

ドキュメント上のマッピングを設定したいテキスト範囲を選択します。

「項目マッピング」パネルの項目一覧からマッピングしたい項目をダブルクリックします。

4.1.3 画像配置用フィールドの作成

画像を配置する場所に、グラフィックフレームを配置し、“画像名”の項目とマッピングを行います。



4.1.4 項目マッピングの解除

ドキュメント上のマッピングを解除したいフィールドを選択します。

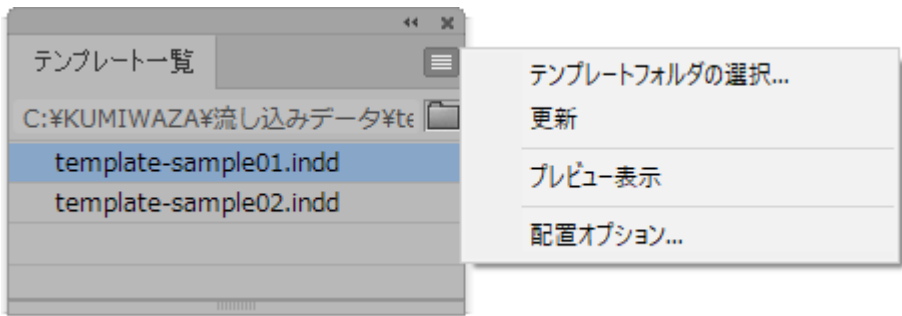
「項目マッピング」パネルの[解除]ボタンをクリックします。

項目マッピングを解除した場合、テキストに付けられているタグも解除されます。

データを割り付け（流し込み）済みのフィールドに対して、項目マッピングの解除を行うとデータとの関連付けも削除されます。

4.1.5 テンプレート・ファイルの一覧表示

テンプレートとして作成したファイル(*.indd)は テンプレート一覧 パネルに一覧表示できます。

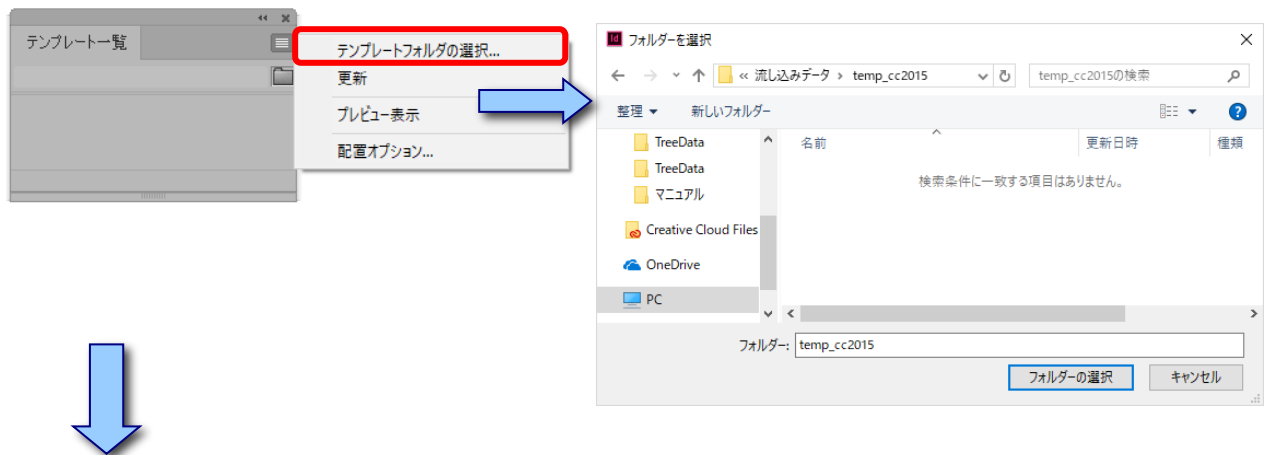


パネルメニュー：

テンプレートフォルダの選択	テンプレート・ファイル(*.indd)が格納されているフォルダを選択するため、フォルダ選択画面が表示されます。
更新	テンプレートフォルダ内に新しいファイルを追加した場合など、フォルダ内容の変更をパネルに反映します。
プレビュー表示	テンプレート・ファイル(*.indd)ファイルの内容を表示します。
配置オプション	<p>レイアウト枠（テンプレート配置枠）を使用した場合の動作設定を行うための画面を表示します。</p>

テンプレートフォルダの選択

「テンプレート一覧」パネルのパネルメニューから、「テンプレートフォルダの選択」をクリックします。
「フォルダ選択ダイアログ」が表示されますので、フォルダを選択します。
フォルダが選択されると、選択されたフォルダに格納されている INDD ファイル(*.indd)が「テンプレート一覧」パネルに表示されます。



テンプレート一覧の更新

「テンプレート一覧」パネルのパネルメニューにある「更新」を選択すると、パネルの内容が更新されます。
テンプレートフォルダ内に新しいファイルを追加した場合など、フォルダ内容の変更をパネルに反映します。

テンプレートのプレビュー表示

「テンプレート一覧」パネルのパネルメニューにある
「プレビュー表示」を ON にすると、テンプレート・ファイル
の内容がテンプレート一覧にサムネイル表示されます。




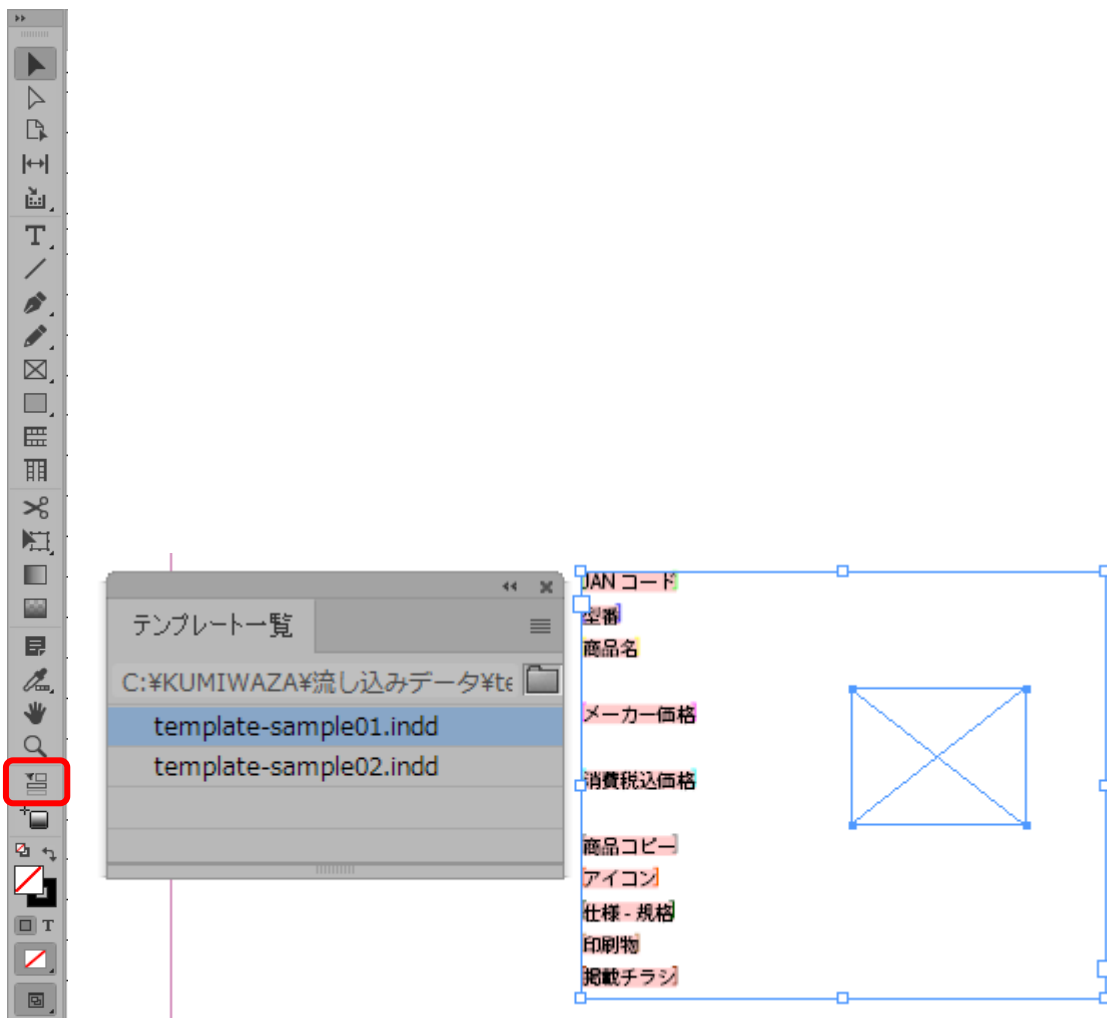
4.1.6 テンプレートをドキュメントに配置する

テンプレート配置 ツールを使用して、ドキュメント上をマウスでクリックします。クリックされた位置を左上隅の座標として、テンプレート一覧 パネル上で選択されたテンプレート・ファイルの内容を配置します。

この他にも、レイアウト枠を使用してテンプレートを配置する方法があります。

テンプレート配置 ツール

「テンプレート配置」ツールを選択すると、マウスカursorが になります。
テンプレートを貼り付けるには、「テンプレート一覧」パネルから貼り付けるテンプレートを選択し、ドキュメント上をクリックします。
選択されたテンプレート・ファイル(*.indd)の内容がドキュメント上に貼り付けられます。

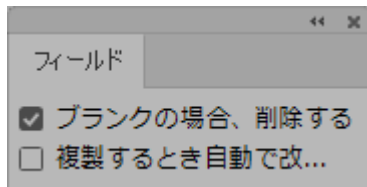


4.2 割り付け（流し込み）時のオプション

それぞれのオプションは、テンプレートの設定として保持します。

4.2.1 フィールドのオプション

フィールドのオプションは、それぞれのフィールドごとに設定します。



割り付けデータの無いフィールドを削除する

対象のデータ項目が無い場合や、空データの場合に、「フィールド」パネルの「空白の場合、削除する」にチェックが付いていれば、フィールドの削除を行います。

フィールド複製時に改行を追加する

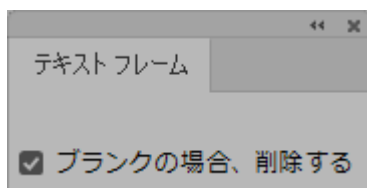
割り付け（流し込み）対象のデータに同じデータ項目が複数存在する場合、フィールドを自動で複製します。その際に、「フィールド」パネルの「複製するとき自動で改行を追加する」にチェックが付いていれば、複製されたフィールドの前に改行を追加します。

4.2.2 テキストフレームのオプション

テキストフレームのオプションは、それぞれのテキストフレームごとに設定します。

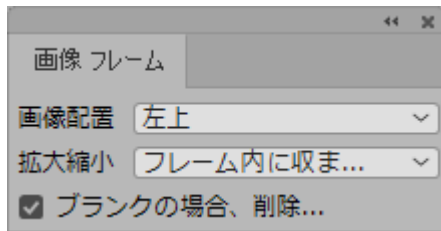
空のテキストフィールドを削除する

「テキストフレーム」パネルの「空白の場合、削除する」にチェックが付いていれば、割り付け（流し込み）実行後、空になったテキストフレームの削除を行います。



4.2.3 画像フレームのオプション

画像フレームのオプションは、それぞれの画像フレームごとに設定します。



画像配置の基準位置を設定する

「画像フレーム」パネルの「画像配置」リストから選択する事で、基準位置を変更できます。

画像の拡大縮小

「画像フレーム」パネルの「拡大縮小」リストから選択する事で、フレームに対して画像をどのように合わせるか設定できます。

次から選択できます。

拡大縮小しない

フレーム内に収まるように拡大・縮小する（縦横比維持）

フレームに合わせてトリミングする（縦横比維持）

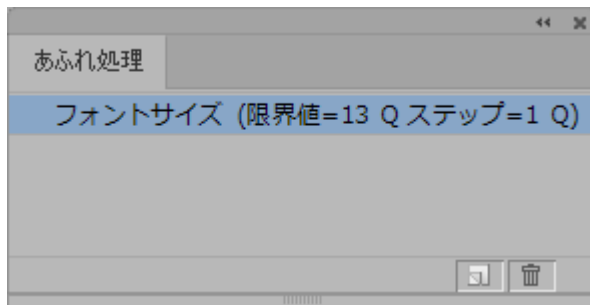
フレームサイズに合わせる（縦横比を維持しない）

使用しない画像フレームを削除する

「画像フレーム」パネルの「空白の場合、削除する」にチェックが付いていれば、割り付け（流し込み）実行時に、使用しない画像フレームを削除します。

4.2.4 あふれ処理の設定

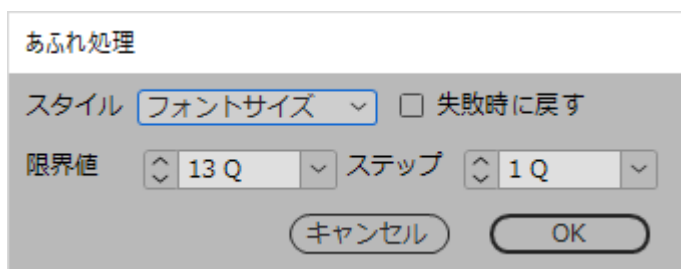
あふれ処理の設定は、それぞれのテキストフレームごとに設定します。



あふれ処理の追加

「あふれ処理」パネルの「あふれ処理追加」ボタンをクリックすると、「あふれ処理」ダイアログが表示されます。

「スタイル」を選択し、「限界値」、「ステップ」を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



選べるスタイルは、次のとおり。

フォントサイズ

垂直比率

水平比率

行送り

文字送り

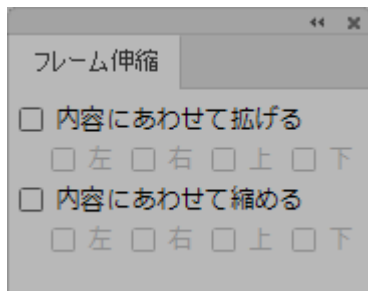
※ あふれ処理の限界値より、現在の値が小さい場合は処理されません。

あふれ処理の削除

「あふれ処理」パネルの「あふれ処理削除」ボタンをクリックすることで、「あふれ処理一覧」リスト上で選択されている行を削除できます。

4.2.5 フレーム伸縮の設定

フレーム伸縮の設定は、それぞれのテキストフレームおよび、画像フレームごとに設定します。



テキストフレームの伸縮

「内容に合わせて広げる」がチェックされている場合、フレームに内容が収まるまで広げます。ただし、ページサイズを超えて広がることはありません。

「左」「右」「上」「下」のうち、選択されている辺の方向へ広げます。

※ 「内容に合わせて縮める」はサポートされていません。

画像フレームの伸縮

「内容に合わせて広げる」がチェックされている場合、フレームに内容が収まるように広げます。ただし、ページサイズを超えて広がることはありません。

「左」「右」「上」「下」のうち、選択されている辺の方向へ広げます。

「内容に合わせて縮める」がチェックされている場合、フレームと内容との余白を無くすように縮めます。ただし、画像サイズを超えて縮むことはありません。

「左」「右」「上」「下」のうち、選択されている辺の方向へ広げます。

4.3 データの表示

4.3.1 データの一覧表示

データ表示 パネルに、指定されたデータファイル（「*.xml」または「*.csv」）の内容を一覧表示します。
また、プラグインを使用して作成したドキュメント(*.indd)を開いた際に、ドキュメント上に割り当てられた（流し込まれた）データがある場合、その内容も含めて一覧表示されます。

差異チェックの結果を元に、表示データの絞込ができます。

さらに、パネルの表示内容とドキュメント上の表示オブジェクトの同期が可能です。

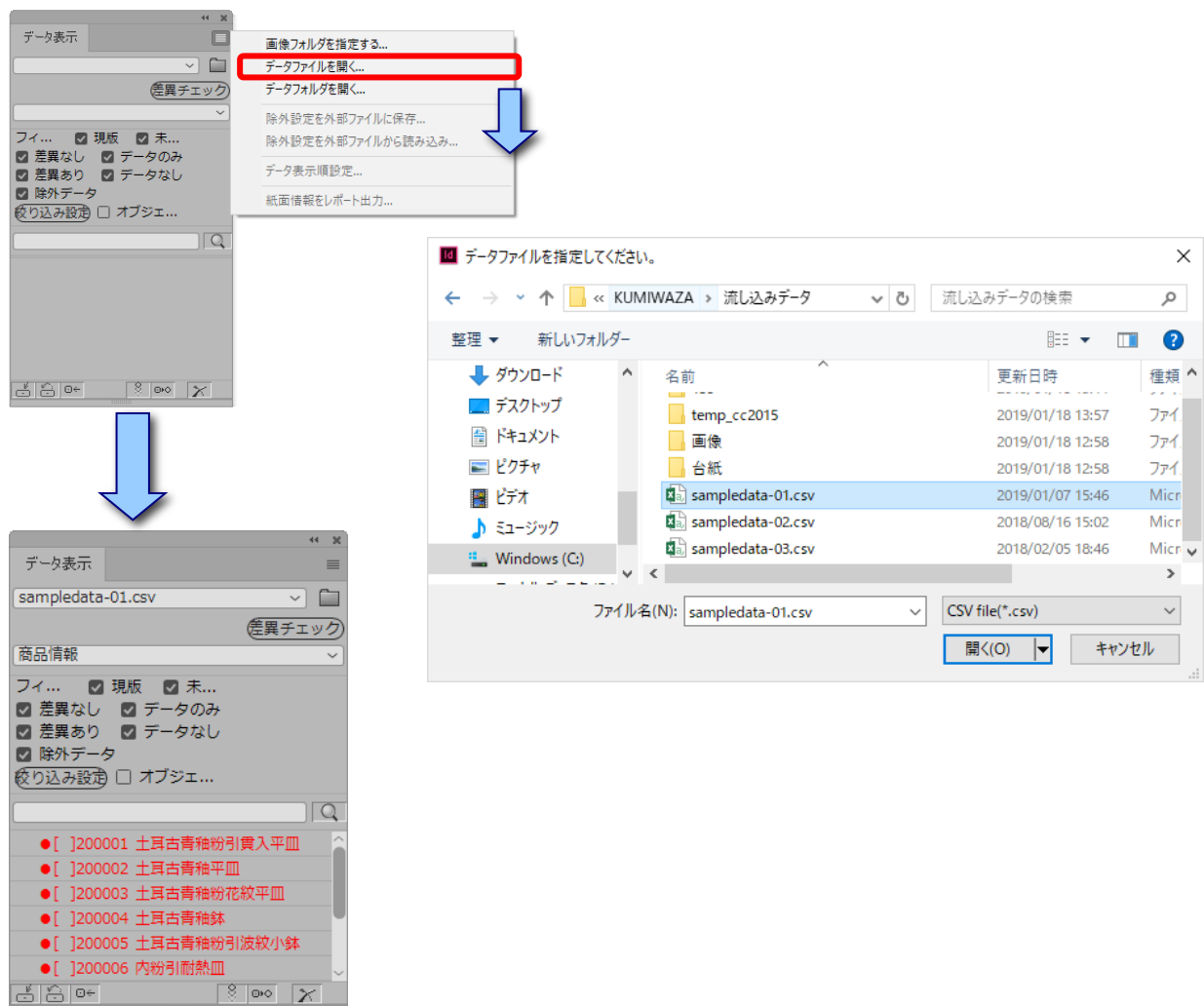
4.3.2 データファイルの読み込み

データファイルを指定する

「データ表示」パネルのパネルメニューから[データファイルを指定する]を選択します。

「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、データファイル（「*.xml」または「*.csv」）を選択します。

ファイルが指定されるとデータ一覧リストにその内容が表示されます。

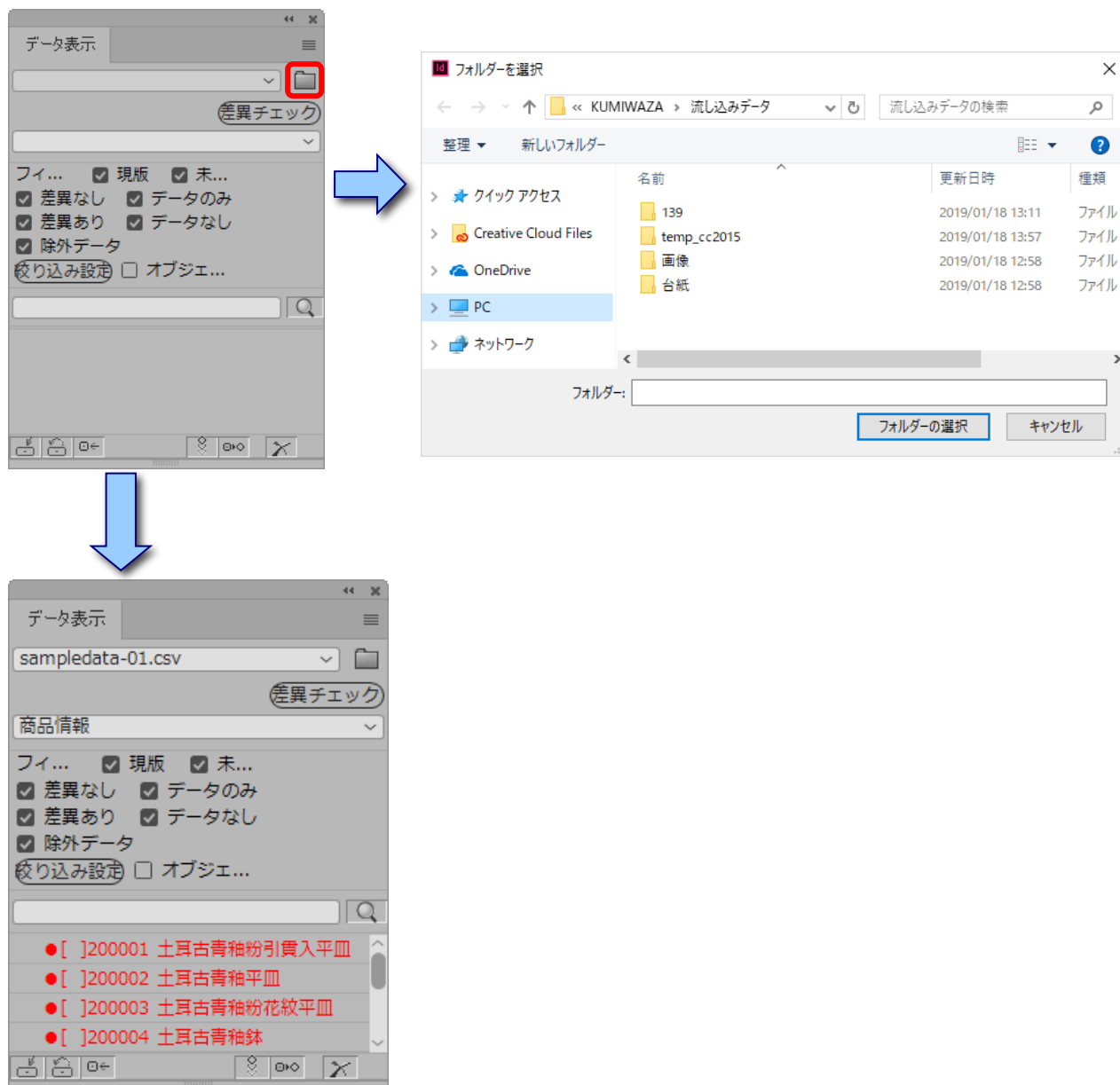


データフォルダを指定する

「データ表示」パネルの「データフォルダを指定する」ボタンをクリックします。

「フォルダ選択ダイアログ」が表示されますので、データファイル(「*.xml」または「*.csv」)が格納されているフォルダを選択します。

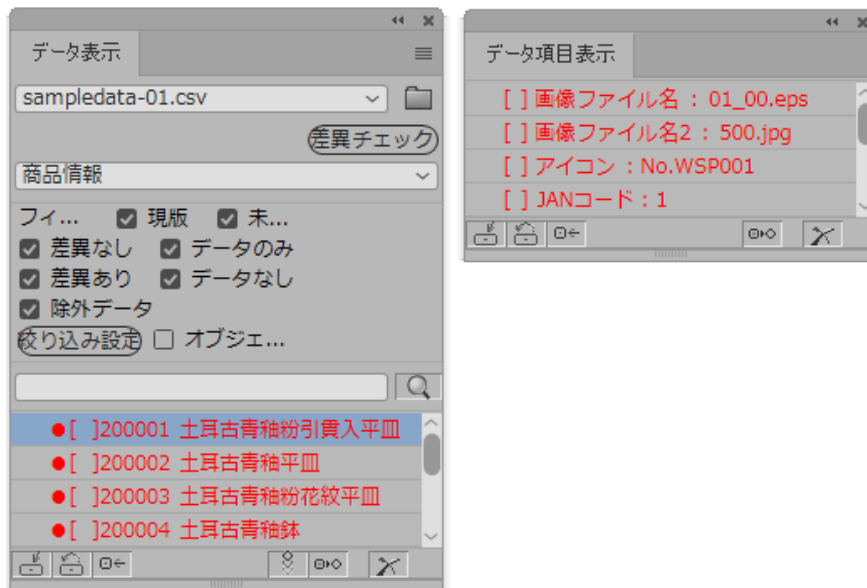
ファイルが指定されるとデータ一覧リストにその内容が表示されます。



4.3.3 データ項目の内容表示

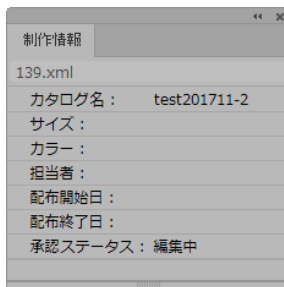
データ表示 パネル上で選択されたデータ（レコード）の内容を、データ項目表示 パネルに表示します。

※ データ表示 パネル上で、データ（レコード）が複数選択されている場合は、表示されません。



4.3.4 制作情報の表示

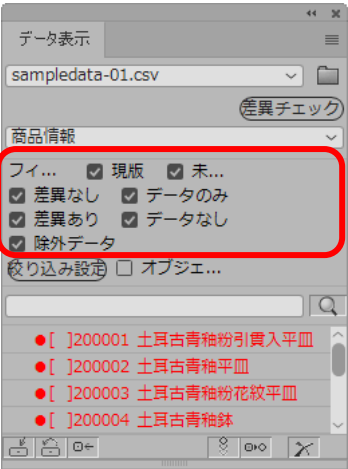
「制作情報」パネルには、現在読み込んでいる XML データに含まれる制作管理上のデータが表示されます。



4.3.5 差異チェック結果による表示フィルタリング

差異チェックの結果を元に、データの絞込ができます。

「データ表示」パネルのチェックボックスを On/Off することで、表示内容を切り替えることができます。



チェックボックス	説明
差異なし	差異なしのデータを表示します。
データのみ	データファイルのみに存在するデータを表示します。
差異あり	差異ありのデータを表示します。
データなし	カレントドキュメントのみに存在するデータを表示します。
除外データ	除外設定が設定されているデータを表示します。

差異 なし	データ のみ	差異 あり	データ なし	除外 データ	表示
					何も表示しない。
●					差異なしデータを表示する。 除外データは表示しない。
	●				データのみデータを表示する。 除外データは表示しない。
		●			差異ありデータを表示する。 除外データは表示しない。
			●		データなしデータを表示する。 除外データは表示しない。
				●	全ての除外データを表示する。
●				●	除外設定されている差異なしデータを表示する。(AND条件)
	●			●	除外設定されているデータのみデータを表示する。(AND条件)
		●		●	除外設定されている差異ありデータを表示する。(AND条件)
			●	●	除外設定されているデータなしデータを表示する。(AND条件)
●	●				差異なし及びデータのみデータを表示する。 除外データは表示しない。
	●	●		●	除外設定されているデータのみ及び差異ありデータを表示する。
●	●	●	●	●	全てを表示する

4.3.6 データの絞り込み

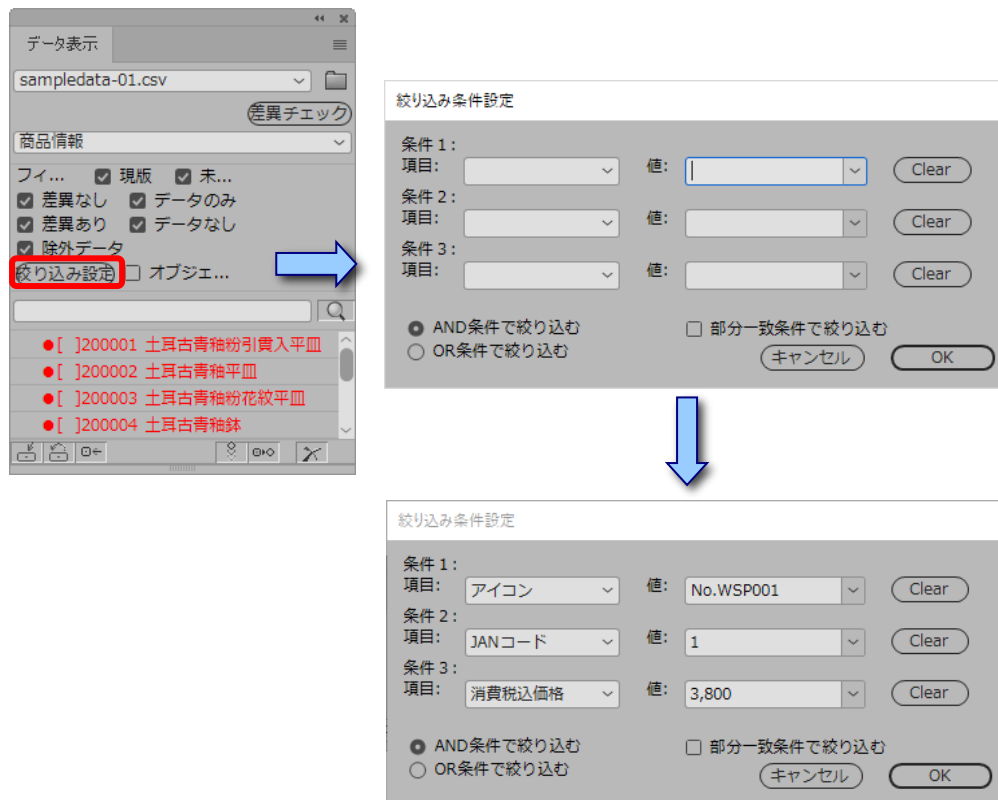
データ項目の値により、データを絞り込むことができます。

大規模で分業する場合などに、自分の作業担当分のデータのみを表示して作業できます。

「データ表示」パネルの[絞り込み設定]ボタンをクリックします。

「絞り込み条件設定」画面が表示されます。

条件を設定し、[OK]ボタンをクリックすることで、データ一覧リストの内容が絞り込まれます。



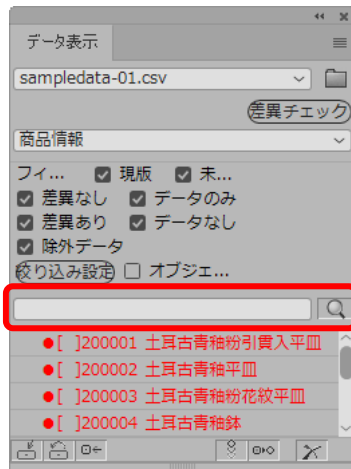
※ 設定できる条件は3つまでとなります。

※ それぞれ任意にデータ項目を選択することができます。

※ 値で選択できる内容は、データファイルの内容に存在するデータのみです。

4.3.7 フリーワード検索

データ一覧リストに表示されている内容を部分一致検索することができます。



検索ができるので、修正対象のデータをすばやく見つけることができます。

全ての校正項目を検索対象として、入力されたキーワードが部分一致するデータを検索します。

4.4 画像の表示

4.4.1 データとの自動マッチング

対応画像：EPS,TIFF,JPG,GIF 形式（拡張子で判別します）

【XML データを読み込んだ場合】

データファイル内に画像ファイル名があれば、指定された画像フォルダからファイルを探します。

⇒ フォルダ階層の深さ、フォルダ名に関係なくファイルを探します。

【CSV データを読み込んだ場合】

データファイル内に画像ファイル名があり、且つ画像ファイル名を指定している属性名が「画像定義ファイル」に記載されている場合、指定された画像フォルダからファイルを探します。

⇒ フォルダ階層の深さ、フォルダ名に関係なくファイルを探します。

4.4.2 画像フォルダを指定する

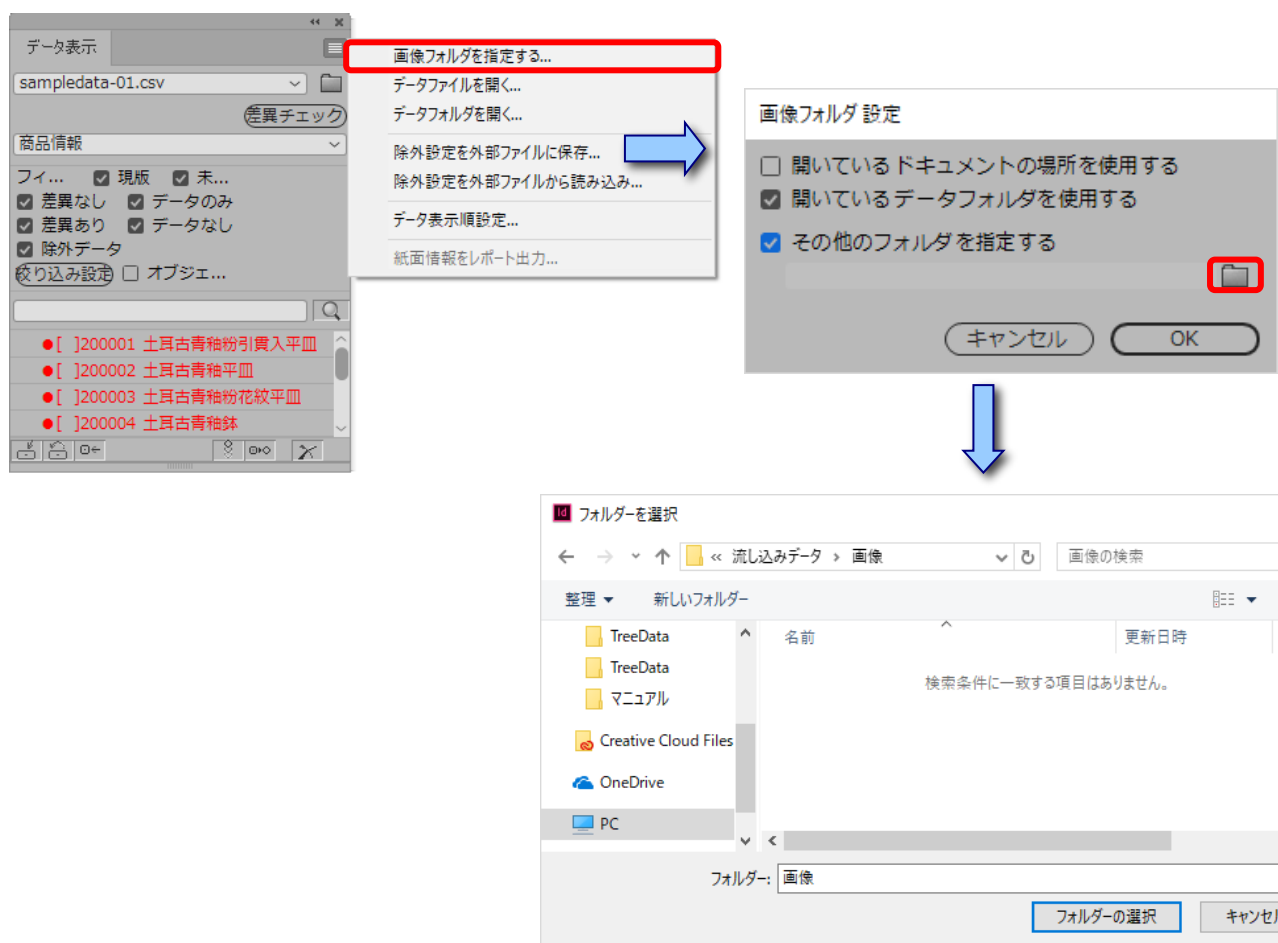
選択されたデータファイル（「*.xml」または「*.csv」）の格納フォルダを画像フォルダとして使用するよう初期設定されています。

データ表示 パネルから画像フォルダを指定する

「データ表示」パネルのパネルメニューから「画像フォルダを指定する」を選択すると、「画像フォルダ設定」ダイアログが表示されます。

「画像フォルダ設定」ダイアログの「その他のフォルダを指定する」にチェックを付け、「フォルダ選択」ボタンをクリックします。

「フォルダ選択ダイアログ」が表示されますので、画像の格納されているフォルダを選択します。



画像一覧 パネルから画像フォルダを指定する

「画像一覧」パネルのパネルメニューから「画像フォルダを指定する」を選択すると、「画像フォルダ設定」ダイアログが表示されます。

「画像フォルダ設定」ダイアログの「その他のフォルダを指定する」にチェックを付け、「フォルダ選択」ボタンをクリックします。

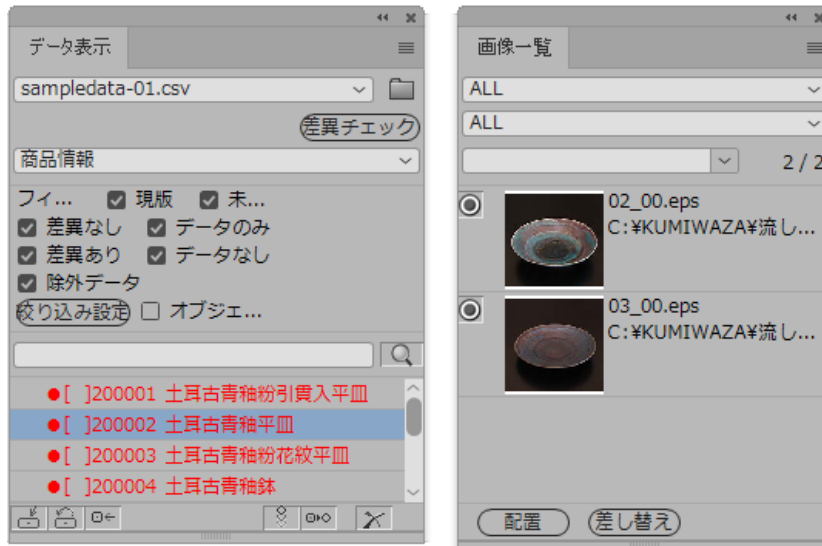
「フォルダ選択ダイアログ」が表示されますので、画像の格納されているフォルダを選択します。



4.4.3 画像のサムネイル表示

データ表示 パネル上で選択されたデータ（レコード）に関連付く画像を一覧表示します。

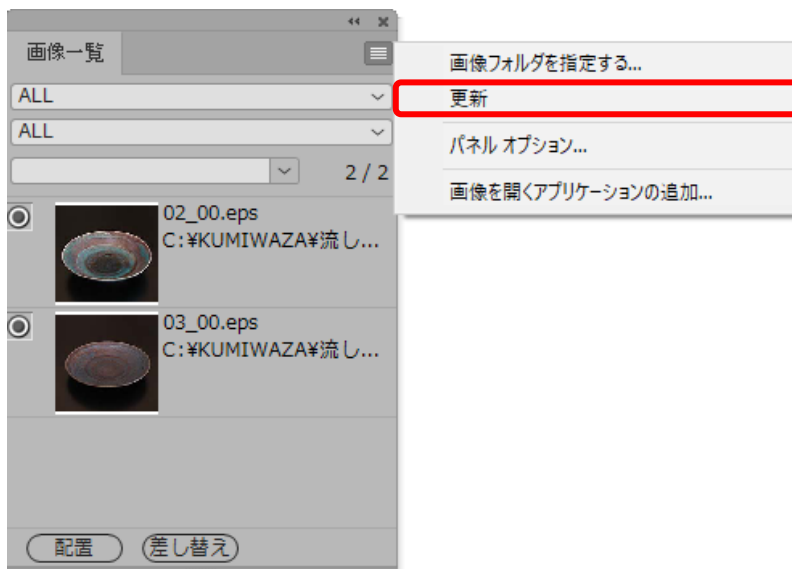
「データ表示」パネル上で、データを1件選択すると、「画像一覧」パネルにその内容が表示されます。



「画像一覧」パネルの更新

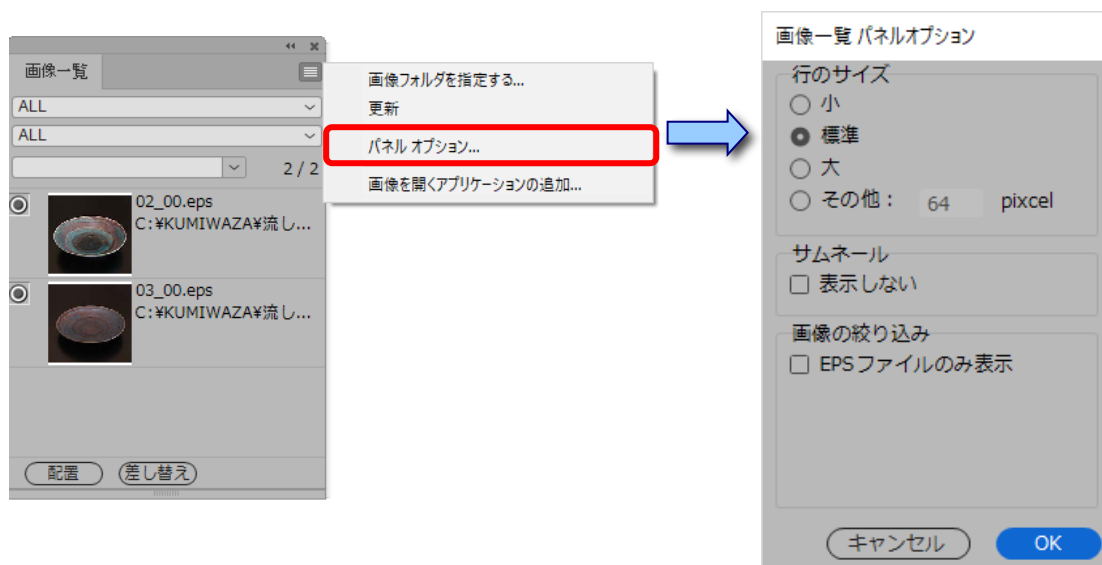
「画像一覧」パネルのパネルメニューから「更新」を選択します。

画像フォルダに格納されている画像を変更した場合や、画像ファイルを追加した場合などに、その内容を画像一覧パネルに反映することができます。



画像一覧パネルのパネルオプション

「画像一覧」パネルの「パネルオプション」を設定すると、サムネイル画像のサイズや、表示画像の絞込が行えます。

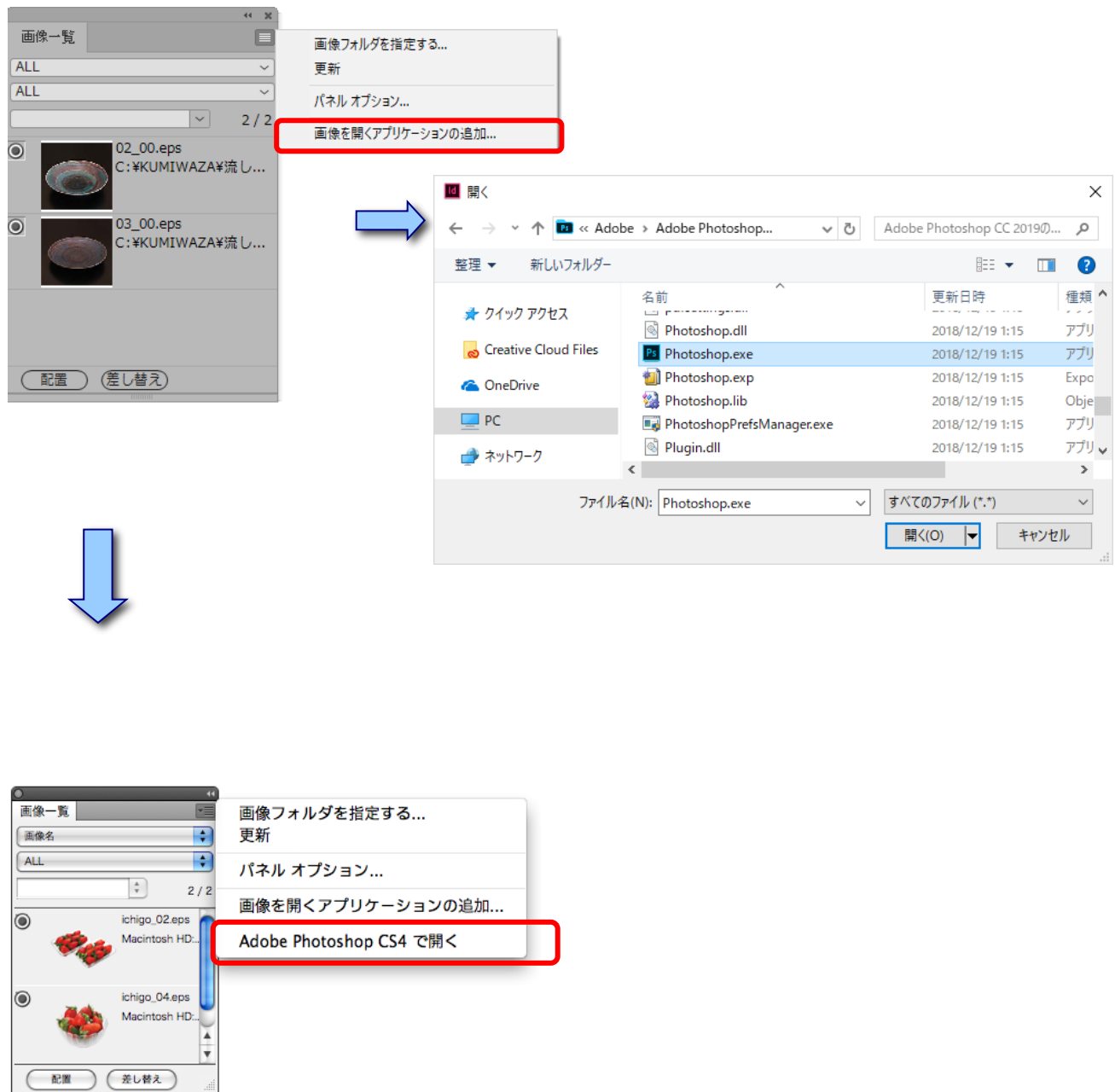


4.4.4 画像を開くアプリケーションを追加する

「画像一覧」パネルのパネルメニューから「画像を開くアプリケーションを追加する」を選択します。

「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、追加したいアプリケーションの実行ファイルを選択します。

選択したアプリケーションが「画像一覧」パネルのパネルメニューに追加されます。



4.4.5 登録したアプリケーションから画像を開く

「画像一覧」パネル上で画像ファイルを選択し、パネルメニューから使用するアプリケーションを選択します。



4.5 データの割り付け（流し込み）と更新

ドキュメント上へデータを割り付ける方法はいくつかありますが、いずれもデータとの紐付け情報を持つことができます。

あらかじめデータ項目とのマッピング設定をしておかなくても、データの割り付けと同時にマッピングを自動で行うこともできます。

4.5.1 子組テンプレートへデータを割り付ける

ドキュメント上のテンプレート（選択範囲）へデータを割り付けます。

（選択範囲は、1 つ以上のフィールドを含んでいる必要があります。）

テンプレートの貼付け

「テンプレート一覧」パネルから、使用するテンプレートを選択します。

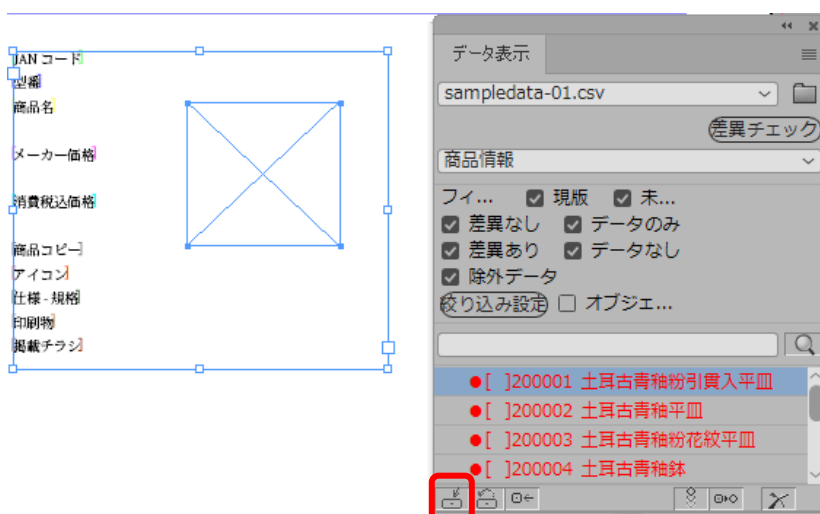
「テンプレート一覧」パネルで選択したテンプレートをドキュメントに貼り付けるには、「テンプレート配置」ツールを使用します。

テンプレートへのデータの割り付け

貼り付けられたテンプレートへデータを割り付けます。

1 件のデータを割り付ける

ドキュメント上の貼り付けられたテンプレートが選択されている状態で、「データ表示」パネルから割り付けたいデータを 1 件選択し、[データの割り付け]ボタンをクリックします。

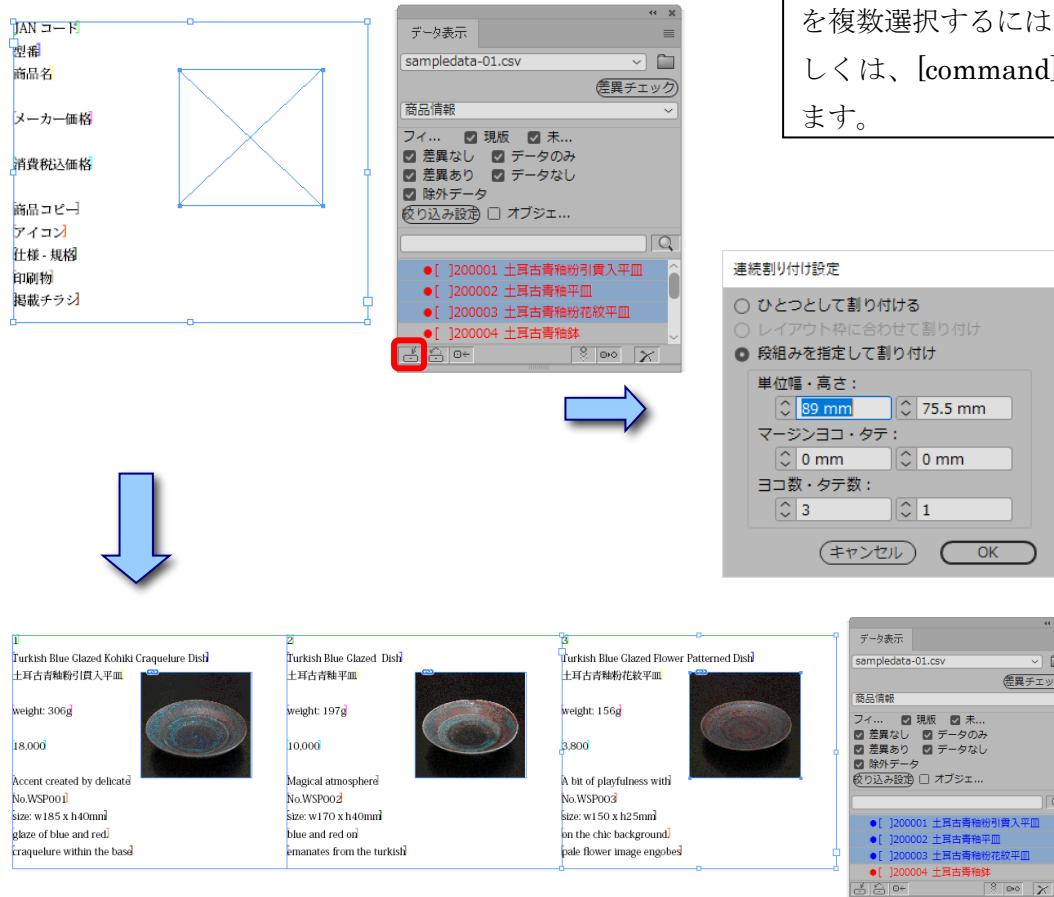


複数件のデータを割り付ける（連続流し込み）

ドキュメント上の貼り付けられたテンプレートが選択されている状態で、「データ表示」パネルから割り付けたいデータを複数選択し、[データの割り付け]ボタンをクリックします。

「連続割り付け設定」ダイアログが表示されます。

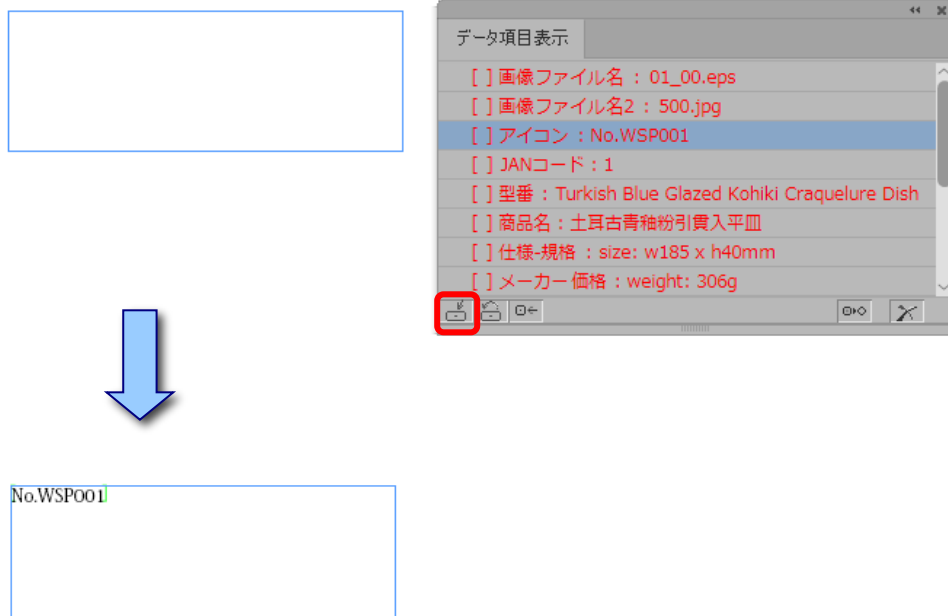
[OK]ボタンをクリックすると、設定内容に基づいて連続割り付けが実行されます。



4.5.2 項目データを直接割り付ける

この方法は、あらかじめオブジェクトを項目とマッピングしておく必要がありません。

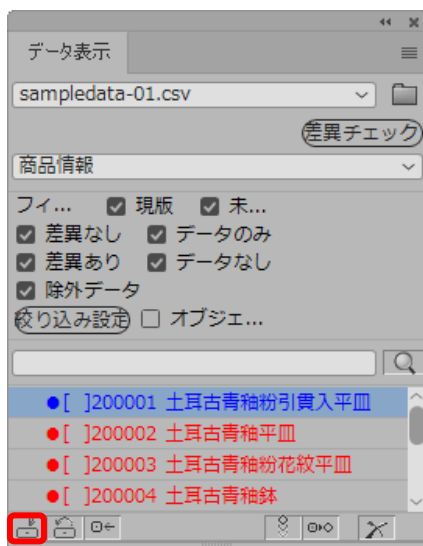
テキストの編集が可能な状態で、「データ項目表示」パネル上の「データの割り付け」ボタンをクリックします。



4.5.3 更新データをフィールドに反映する

データ表示 パネルからの反映

「データ表示」パネル上で反映を行うデータを選択し、[差異をオブジェクトへ反映]ボタンをクリックします。



「データ表示」パネル上でデータを複数選択するには、[shift]キーもしくは、[command]キーを使用します。

データ項目表示 パネルからの反映

「データ項目表示」パネル上で反映を行うデータを選択し、[差異をオブジェクトへ反映]ボタンをクリックします。

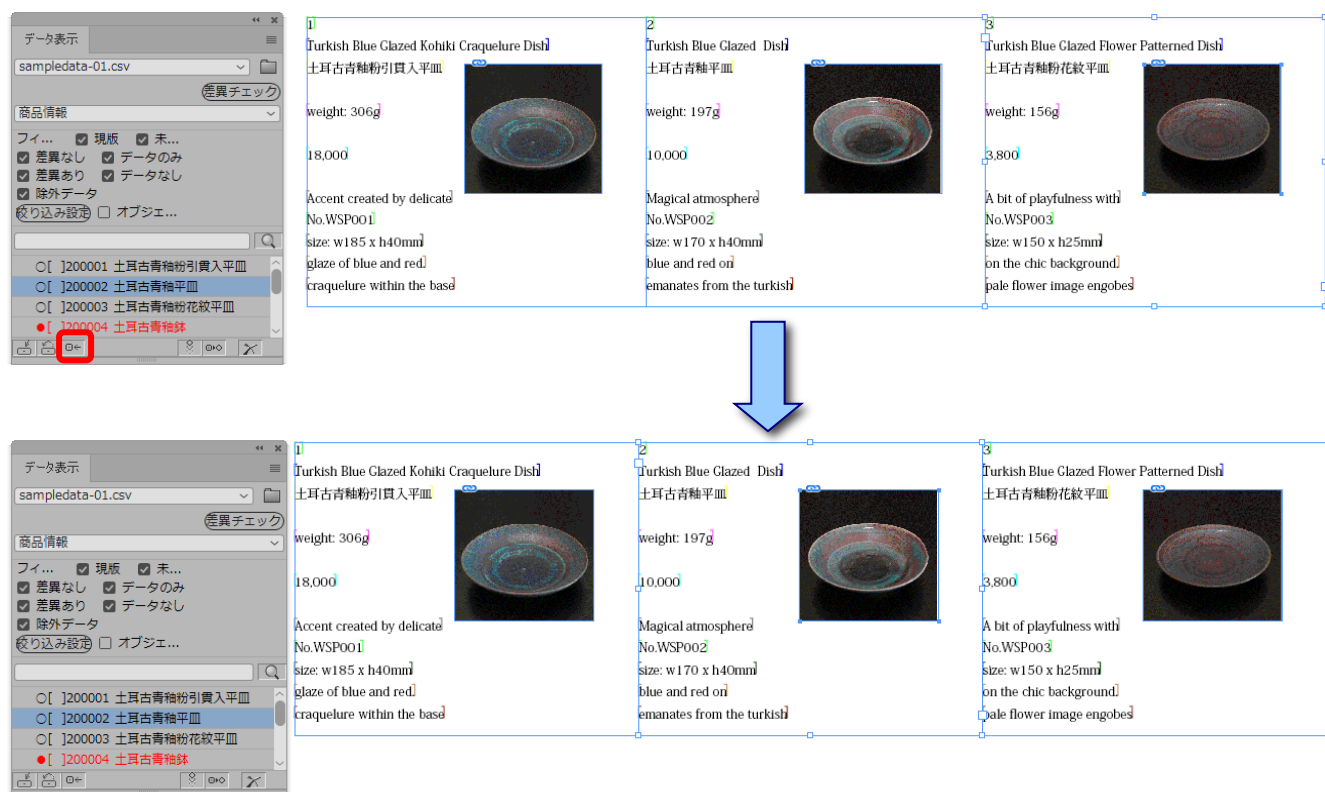


「データ項目表示」パネル上でデータを複数選択するには、[shift]キーもしくは、[command]キーを使用します。

4.5.4 データの割り付け先フィールド（アートオブジェクト）を探す

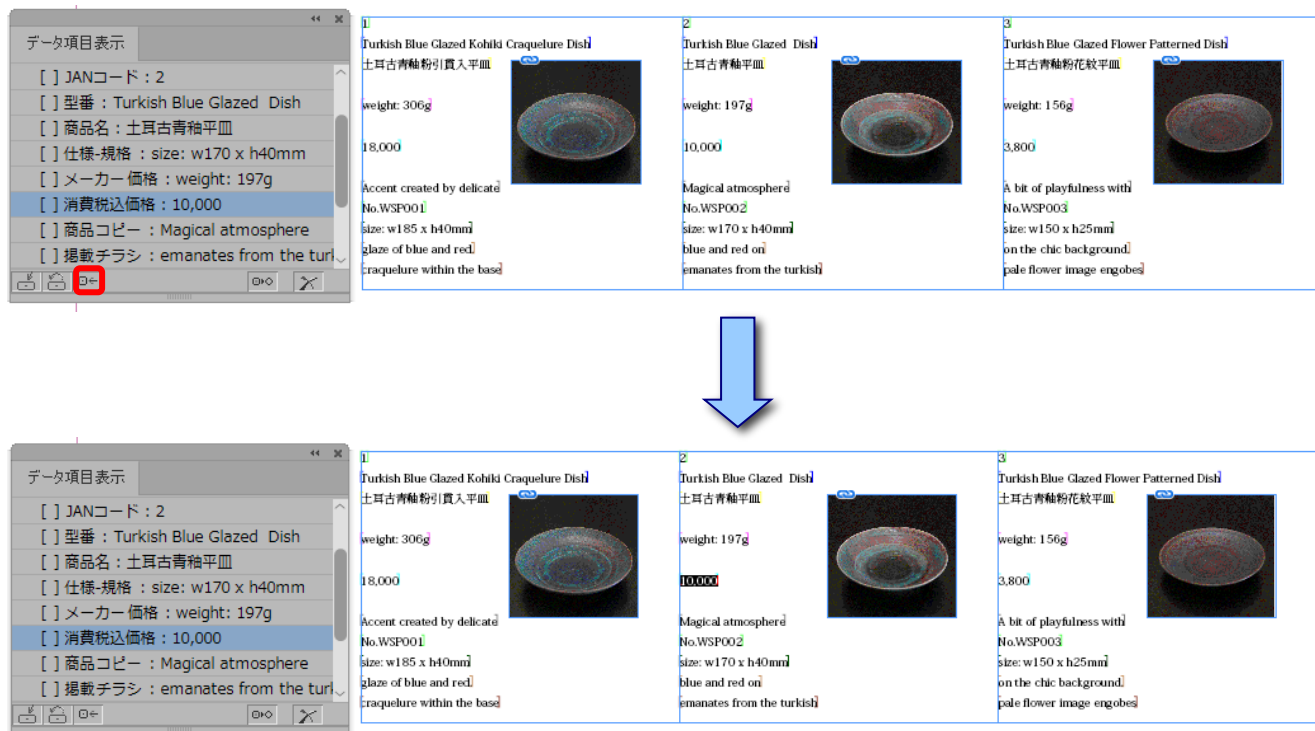
データ表示 パネルからフィールドを選択する

データ表示 パネルの「フィールド選択」ボタンをクリックすることで、データー一覧上で選択されているデータが割り付けられているオブジェクトを選択することができます。



データ項目表示 パネルからフィールドを選択する

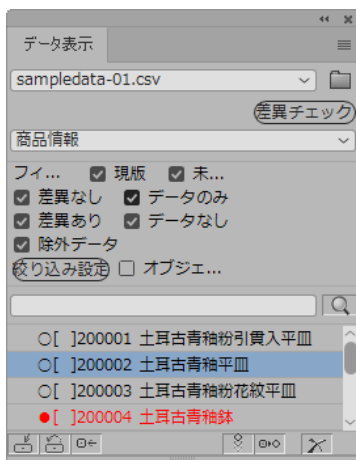
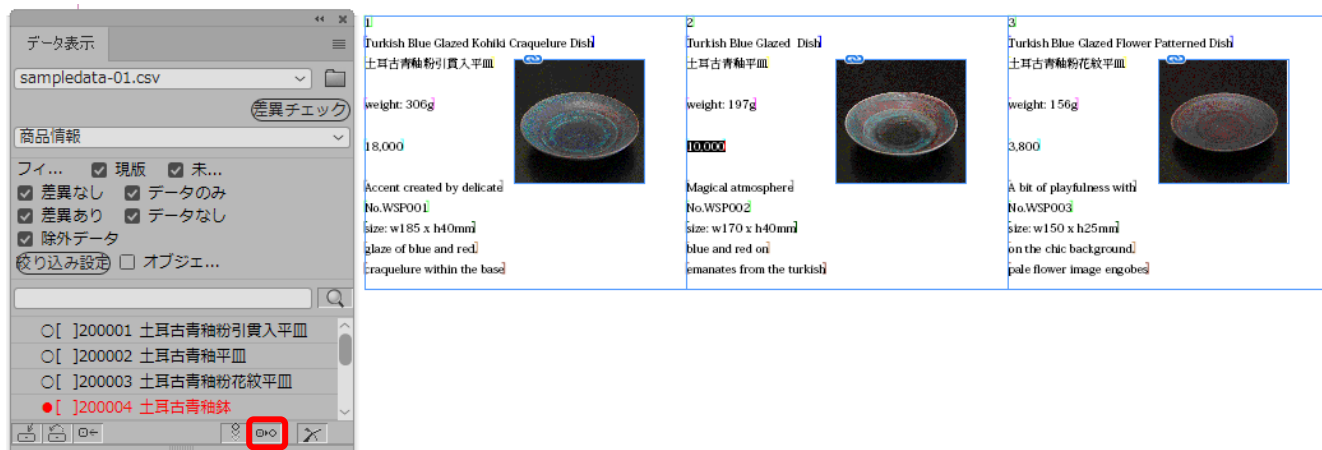
データ項目表示 パネルの「フィールド選択」ボタンをクリックすることで、データ項目一覧上で選択されているデータ項目が割り付けられているフィールドを選択することができます。



4.5.5 アートオブジェクトから割り当てられているデータを探す

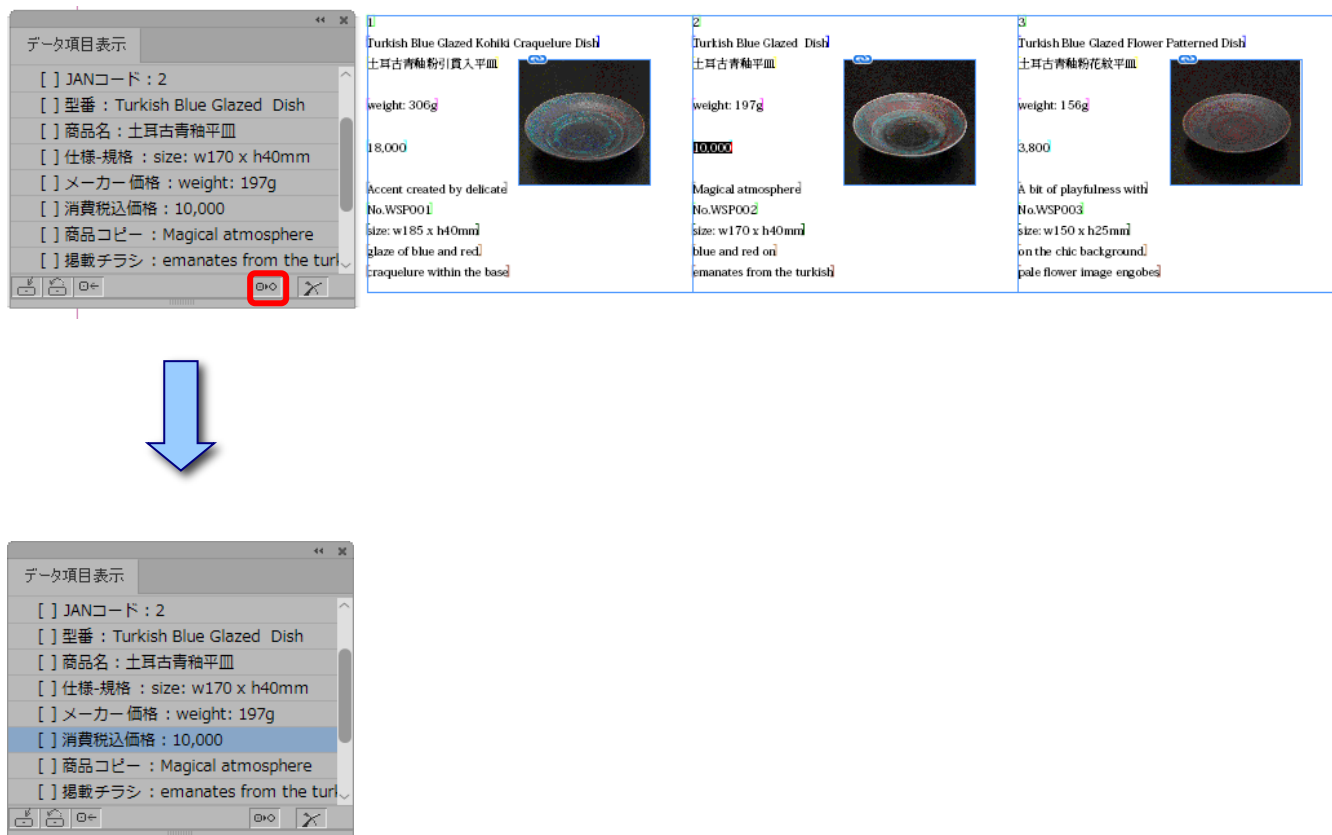
データ表示 パネルを使用してオブジェクトからデータを選択する

ドキュメント上でフィールドを選択し、データ表示 パネルの「データ選択」ボタンをクリックすることで、選択されているフィールドに割り付けられているデータを選択状態にすることができます。



データ項目表示 パネルを使用してオブジェクトからデータを選択する

ドキュメント上でフィールドを選択し、データ項目表示 パネルの「データ選択」ボタンをクリックすることで、選択されているフィールドに割り付けられているデータ項目を選択状態にすることができます。



4.6 画像の配置と差し替え

4.6.1 画像一覧パネルから画像を配置する

長方形フレームツールを使用して、画像の配置位置にグラフィックフレームを描きます。

作成したグラフィックフレームを選択した状態で、画像一覧パネル上で画像を選択し、[配置]ボタンをクリックします。

配置される画像は、リンク画像です。（埋め込みではありません。）

4.6.2 画像の自動配置

テンプレート作成時に、画像配置枠を作成しておくのと、テンプレートへのデータ割り付け時に、関連付く画像を配置します。

画像配置枠内に収まるように拡大・縮小をして画像を配置します。

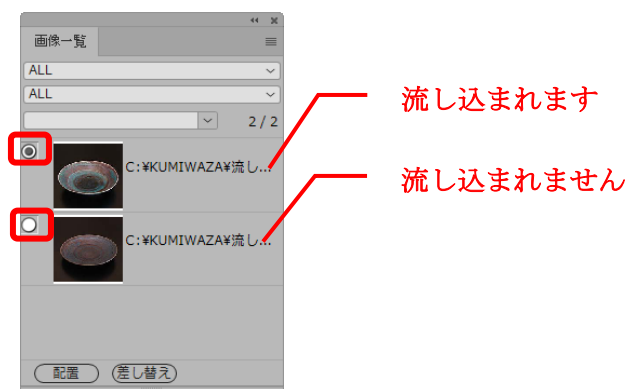
配置される画像は、リンク画像です。（埋め込みではありません。）

4.6.3 配置画像の選択設定

「画像一覧」パネル上で、配置画像の選択設定ができます。

1 つの商品に対して複数の画像が関連づいている場合、「データの割り付け」を行う前に設定しておきます。初期状態では、全て配置される設定になっています。

画像の左にある○をクリックすることで、設定ができます。



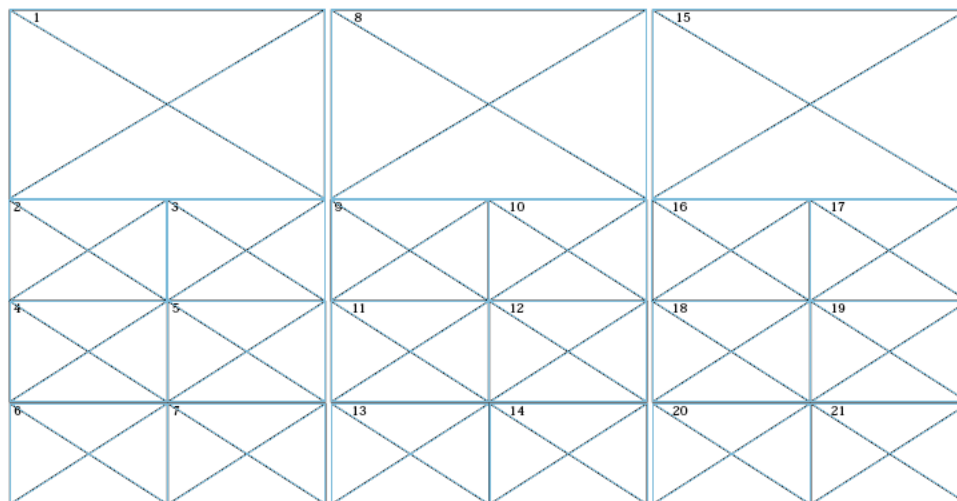
※ この設定は、「データ表示」パネル上の[データの割り付け]ボタン及び、[差異をオブジェクトへ反映]ボタンの処理において有効です。「画像一覧」パネル上の[配置]、[差し替え]ボタンは、この設定に影響されません。

4.6.4 配置画像の差し替え


ドキュメント上に配置済みの画像（リンク画像）を画像一覧パネル上で選択されている画像に差し替えます。

4.7 レイアウト枠を使用した割り付け（流し込み）**4.7.1 レイアウト テンプレートの作成****レイアウト枠の作成**

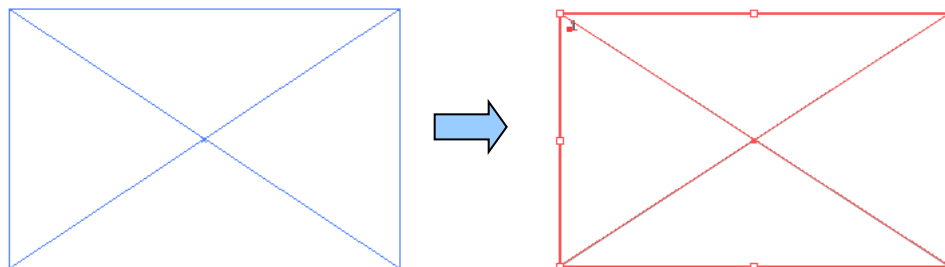
「レイアウト枠作成」ツールを使用して、レイアウト枠を作成します。



レイアウト枠作成 ツール

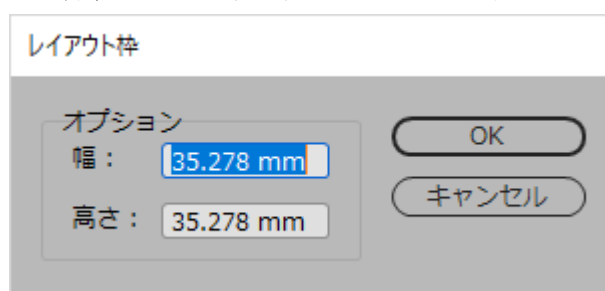
「レイアウト枠作成」ツールを選択すると、マウスカーソルが になります。

ドキュメント上でドラッグすると、ドラッグされた範囲の大きさでレイアウト枠(地番枠)を作成します。



ドキュメント上の余白をクリックすると、クリックされた位置を左上隅の座標としてレイアウト枠（地番枠）を作成します。

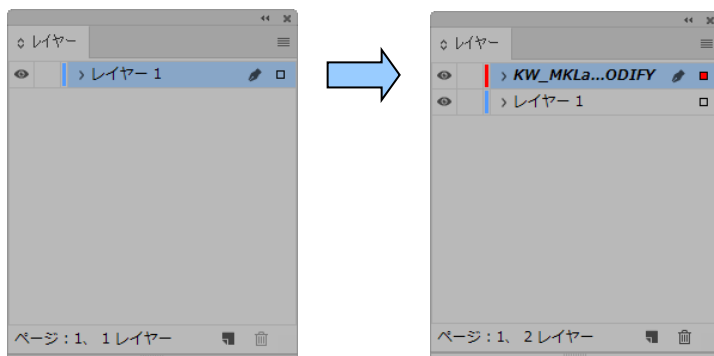
この際、サイズを指定するダイアログが表示されます。



幅と高さをミリメートル単位で指定し、[OK]ボタンをクリックすると、指定されたサイズのレイアウト枠が作成されます。

4.7.2 レイアウト枠配置レイヤーについて

レイアウト枠作成ツールを使用して、レイアウト枠を作成すると、レイアウト枠配置用の専用レイヤーが自動的に追加されます。



レイアウト枠配置用のレイヤーは、初期設定としてレイヤーを印刷しない設定になっていますが、用途に合わせて、任意に変更することができます。

レイヤーオプション

名前(N): KW_MKLayout DO NOT MODIFY OK

カラー(C): 赤 ▼ キャンセル

☒ レイヤーを表示(S) ☐ ガイドを表示(G)

☐ レイヤーのロック(L) ☐ ガイドをロック(K)

☐ レイヤーをプリント(P)

☐ レイヤーの非表示でテキストの回り込みを無効にする(T)

注意！：レイヤーの名前は変更しないでください。

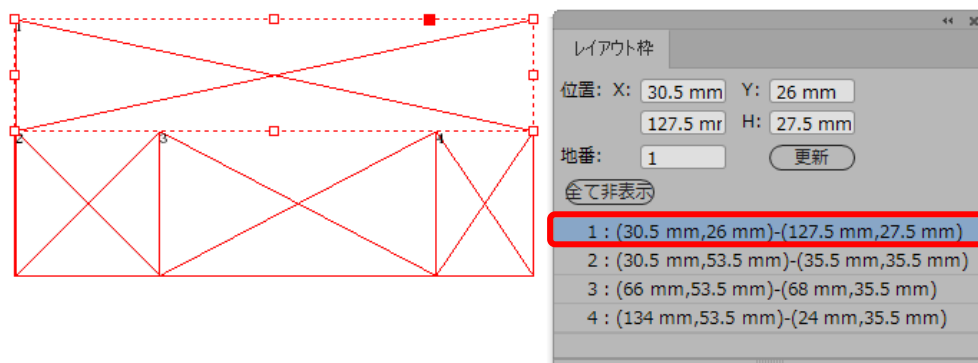
4.7.3 割り付け順の設定

割り付け順（地番）は、レイアウト枠 パネルから、地番を変更することで行います。

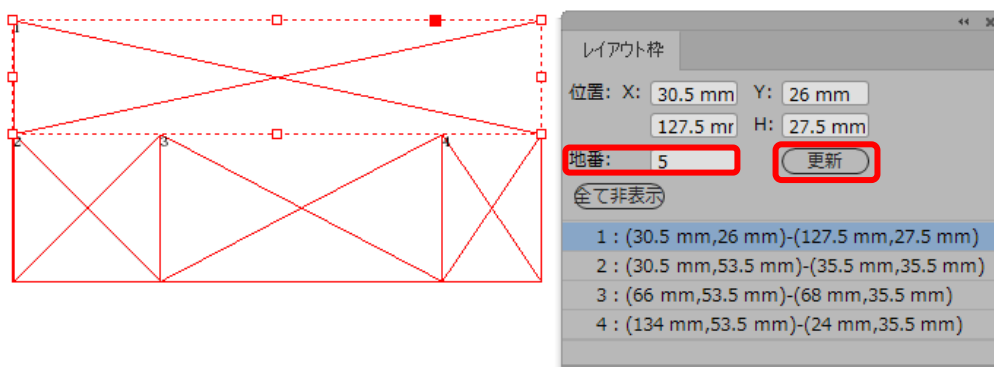
地番の変更

レイアウト枠 パネルから、地番の変更ができます。

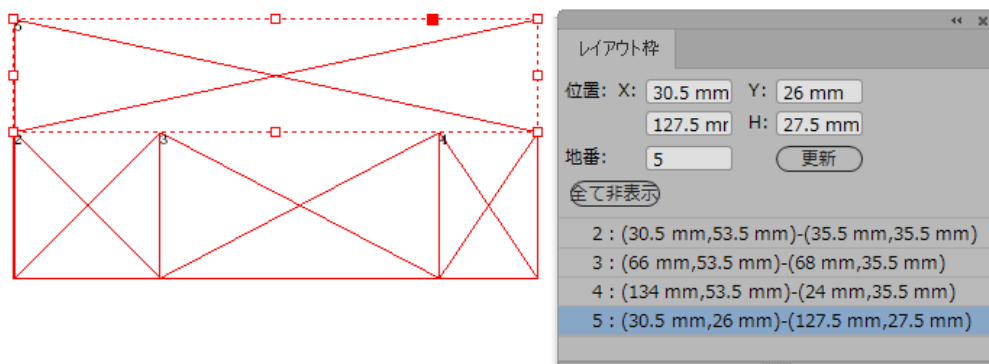
レイアウト枠 パネル上のレイアウト一覧から、地番を変更したいレイアウト枠を選択します。



地番を変更し、[更新]ボタンをクリックします。



変更した地番が反映され、レイアウト一覧上での並び順も変更された地番で整列されます。



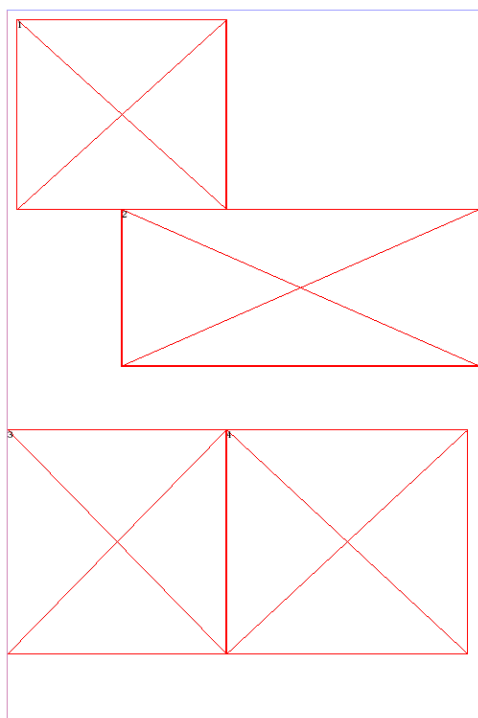
4.7.4 レイアウトテンプレートへのデータの割り付け（流し込み）

レイアウトテンプレートへのデータの割り付け（流し込み）

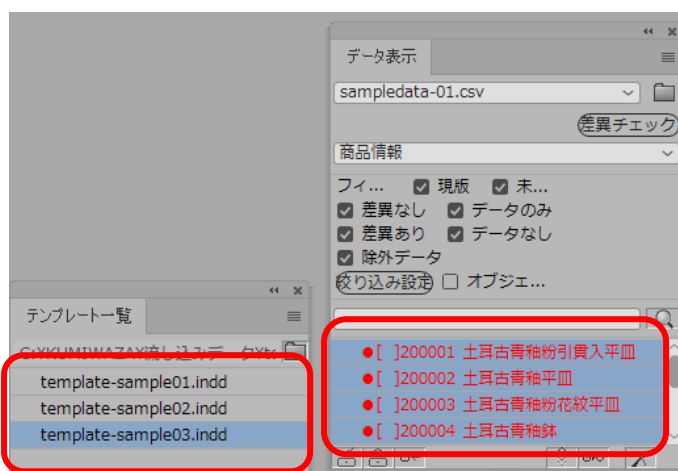
ドキュメントにレイアウト枠配置用レイヤーがある場合、配置されているレイアウト枠に合わせて、子組みテンプレートを配置し、データを割り付けることができます。

まず、あらかじめ作成されているレイアウトテンプレートファイル（*.indd）を開きます。

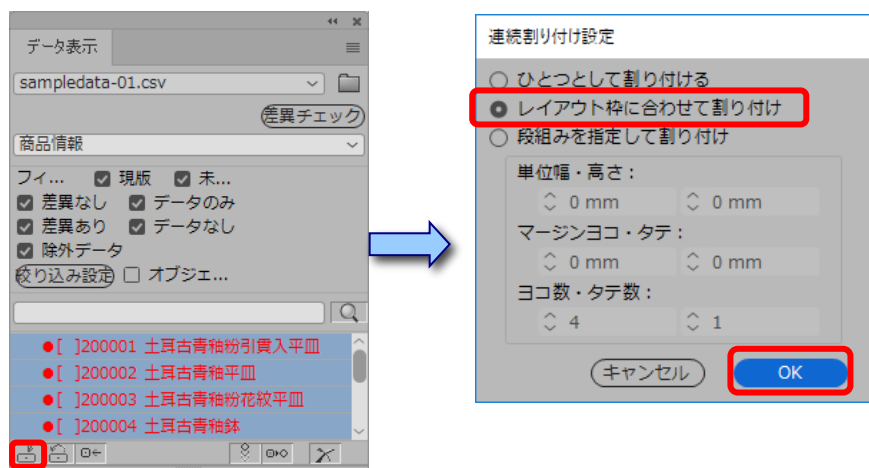
例として、下のようなレイアウトテンプレートがあるとします。



使用する子組みテンプレート及び、割り付けたい商品を選択します。



「データ表示」パネルの[データの割り付け]ボタンをクリックすると、「連続割り付け設定」画面が表示されますので、「レイアウト枠に合わせて割り付け」が選択されていることを確認して[OK]ボタンをクリックします。



「対象データ一覧」画面が表示されます。

ここで、商品の割り付け順をドラッグ&ドロップで変更することもできます。

対象データ一覧		
[1]	200001	土耳其青釉粉引貫入平皿
[2]	200002	土耳其青釉平皿
[3]	200003	土耳其青釉粉花紋平皿
[4]	200004	土耳其青釉鉢

キャンセル データの割り付け

対象データ一覧		
[1]	200001	土耳其青釉粉引貫入平皿
[2]	200004	土耳其青釉鉢
[3]	200002	土耳其青釉平皿
[4]	200003	土耳其青釉粉花紋平皿

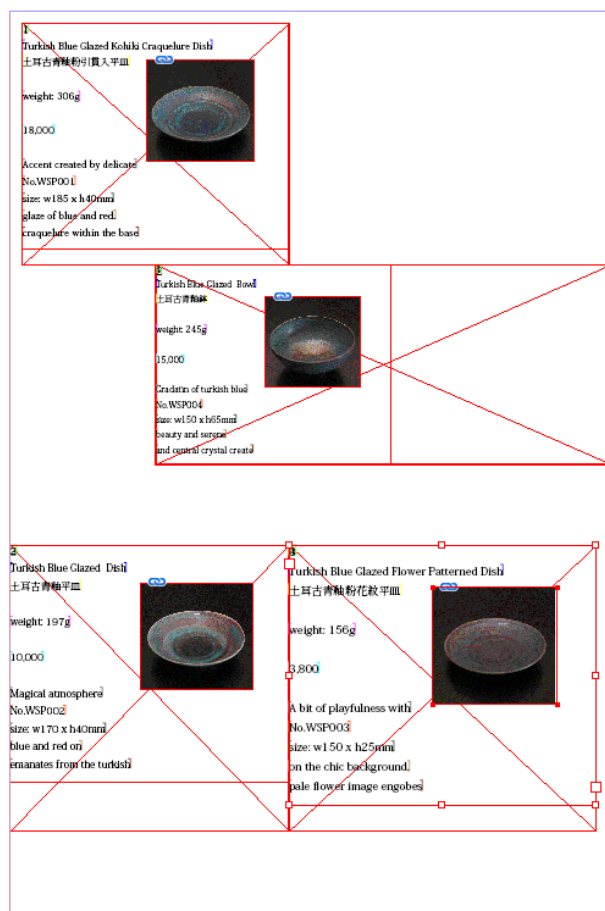
キャンセル データの割り付け

[データの割り付け] ボタンをクリックします。

対象データ一覧		
[1]	200001	土耳其青釉粉引貫入平皿
[2]	200004	土耳其青釉鉢
[3]	200002	土耳其青釉平皿
[4]	200003	土耳其青釉粉花紋平皿

キャンセル データの割り付け

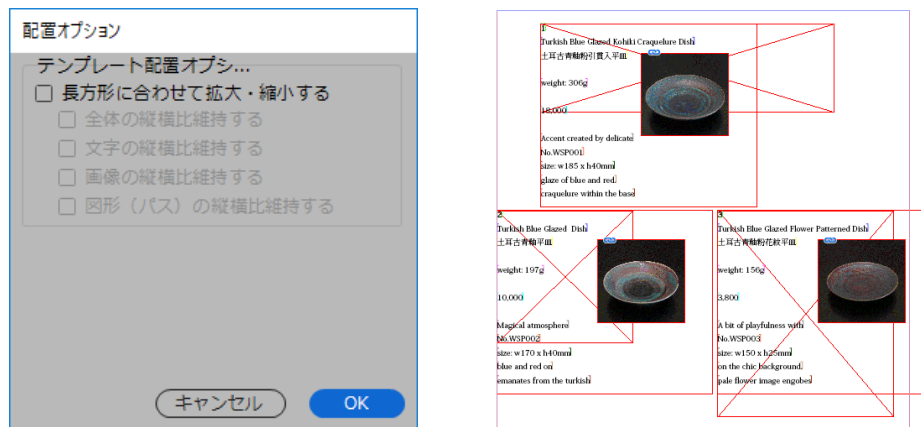
割り付けが完了すると、下のようになります。



4.7.5 テンプレート配置オプションの設定による違い

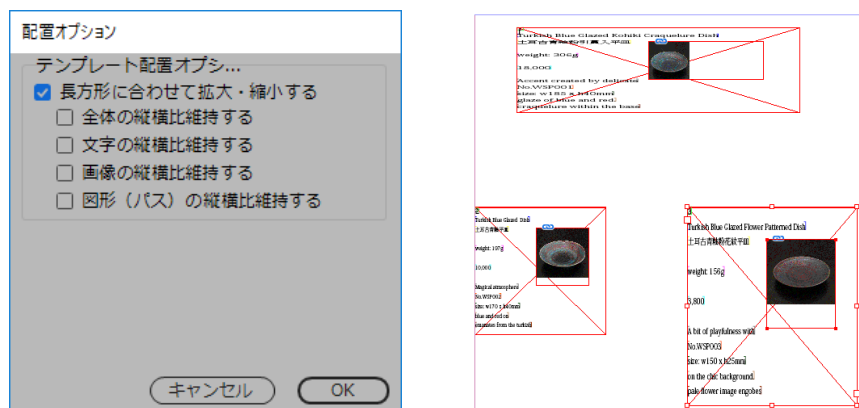
配置枠に合わせて拡大・縮小しない

拡大・縮小しない場合、使用する子組テンプレートのサイズのまま配置されます。



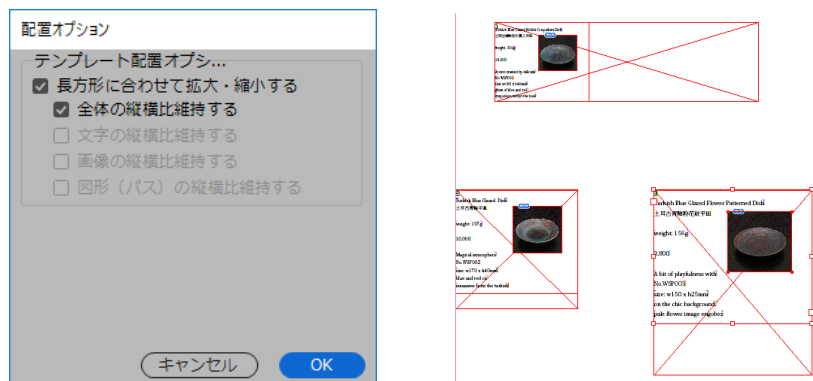
配置枠に合わせて拡大・縮小する

配置枠の大きさに合わせて、使用する子組テンプレートを拡大・縮小します。



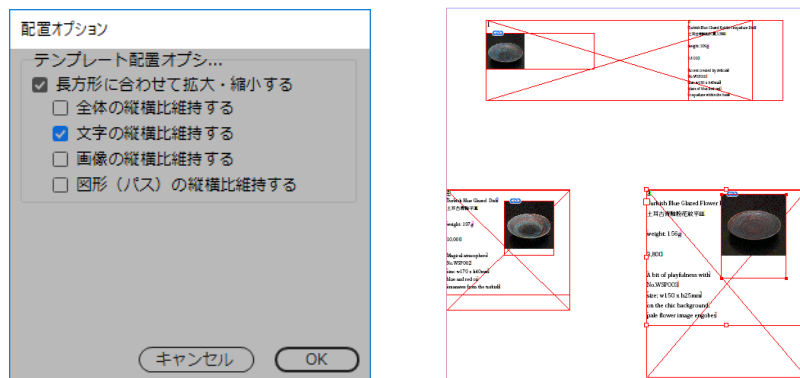
配置枠に合わせて拡大・縮小し、全体の縦横比を維持する

全体の縦横比を維持しつつ、配置枠の大きさに合わせて、使用する子組テンプレートを拡大・縮小します。



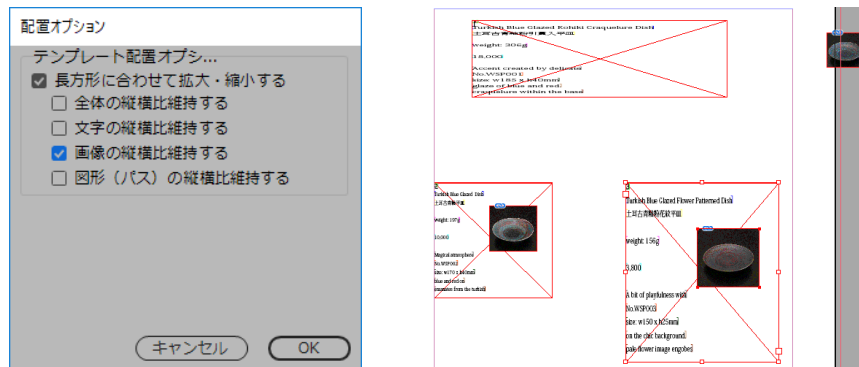
配置枠に合わせて拡大・縮小し、文字の縦横比のみ維持する

文字の縦横比を維持しつつ、配置枠の大きさに合わせて、使用する子組テンプレートを拡大・縮小します。



配置枠に合わせて拡大・縮小し、画像の縦横比のみ維持する

画像の縦横比を維持しつつ、配置枠の大きさに合わせて、使用する子組テンプレートを拡大・縮小します。

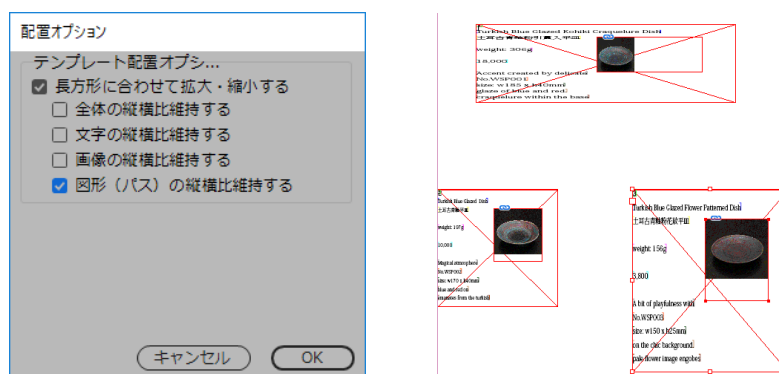


※ 子組テンプレートに画像が配置されている場合にのみ有効です。

※ 自動配置されるデータに関連付く画像は、このオプションには影響されません。

配置枠に合わせて拡大・縮小し、図形（パス）の縦横比のみ維持する

図形の縦横比を維持しつつ、配置枠の大きさに合わせて、使用する子組テンプレートを拡大・縮小します。



※ 子組テンプレートに図形が配置されている場合にのみ有効です。

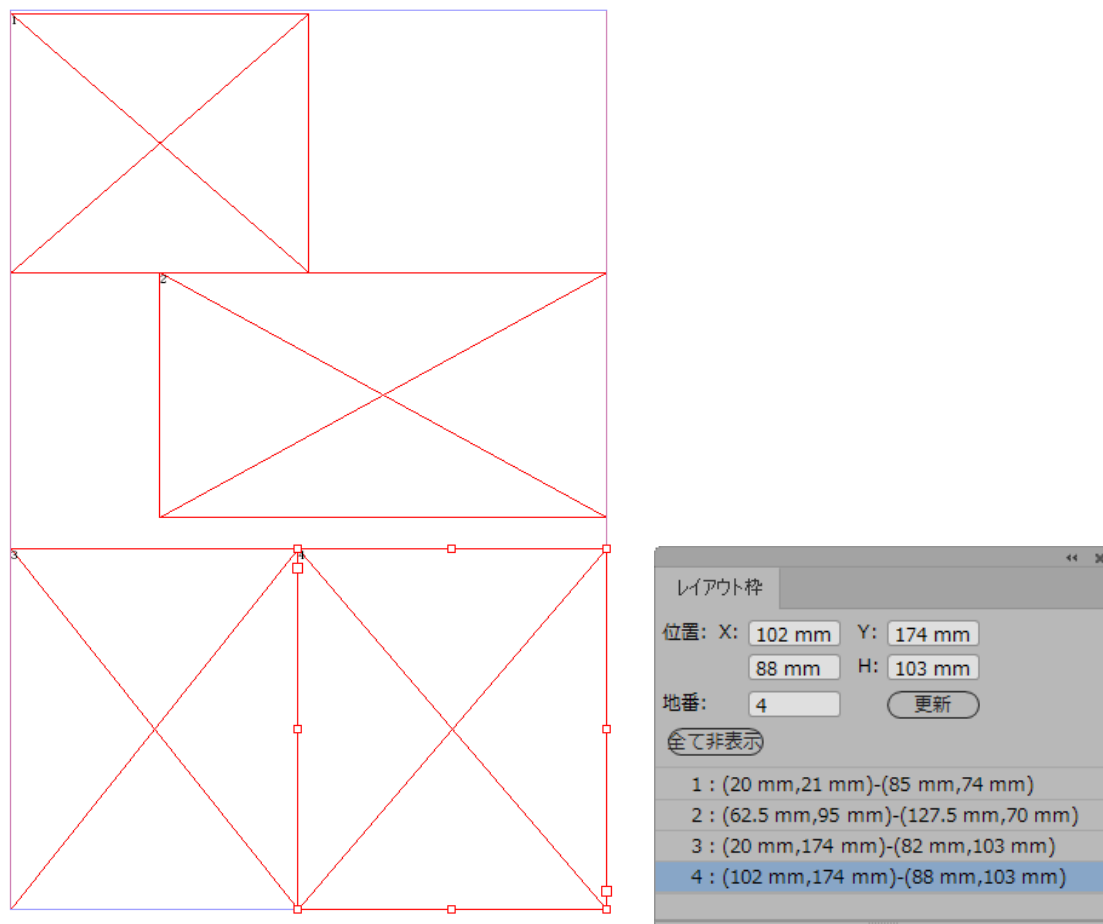
※ 自動配置されるデータに関連付く画像は、このオプションには影響されません。

4.7.6 地番レイアウトへのデータの割り付け（流し込み）

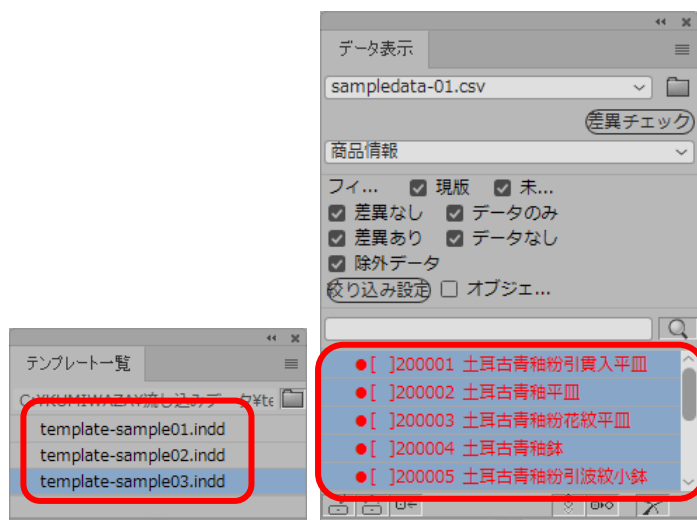
割り付け対象のデータが地番情報を持っている場合、ドキュメント上に配置されたレイアウト枠（地番枠）の地番に合わせて、子組みテンプレートを配置し、データを割り付けることができます。

まず、あらかじめ作成されているレイアウトテンプレートファイル (*.indd) を開きます。

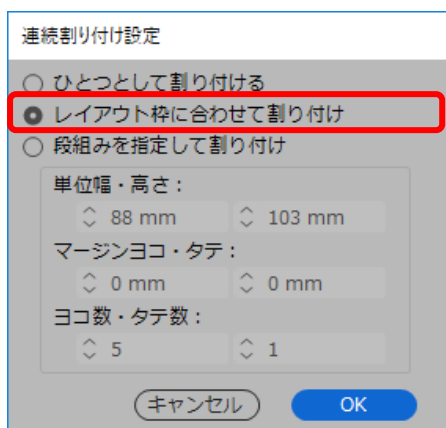
例として、下のようなレイアウトテンプレートがあるとします。



使用する子組みテンプレート及び、割り付けたい商品を選択します。



「データ表示」パネルの[データの割り付け]ボタンをクリックすると、「連続割り付け設定」画面が表示されますので、「レイアウト枠に合わせて割り付け」が選択されていることを確認して[OK]ボタンをクリックします。



連続割り付け設定

☐ ひとつとして割り付ける

☒ レイアウト枠に合わせて割り付け

☐ 段組みを指定して割り付け

単位幅・高さ：

◇ 88 mm ◇ 103 mm

マージンヨコ・タテ：

◇ 0 mm ◇ 0 mm

ヨコ数・タテ数：

◇ 5 ◇ 1

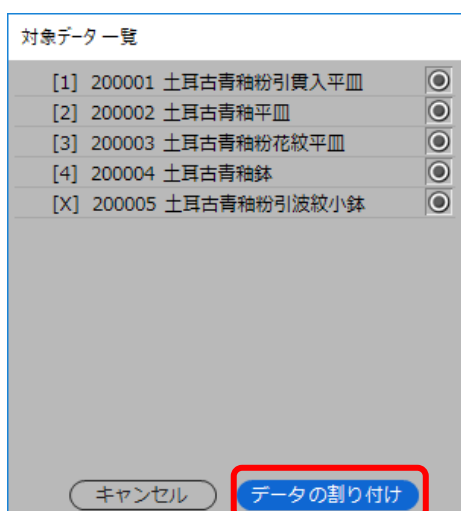
キャンセル OK

「対象データ一覧」画面が表示されます。

一覧の左側に地番が表示されます。それに対応する地番を持つ商品情報が右側に表示されます。対応する地番を持つ商品情報が無い場合は、ブランクになります。

対応するレイアウト枠（地番枠）が無い商品情報は、左側に×が表示され、割り付け対象となりません。

[データの割り付け] ボタンをクリックします。

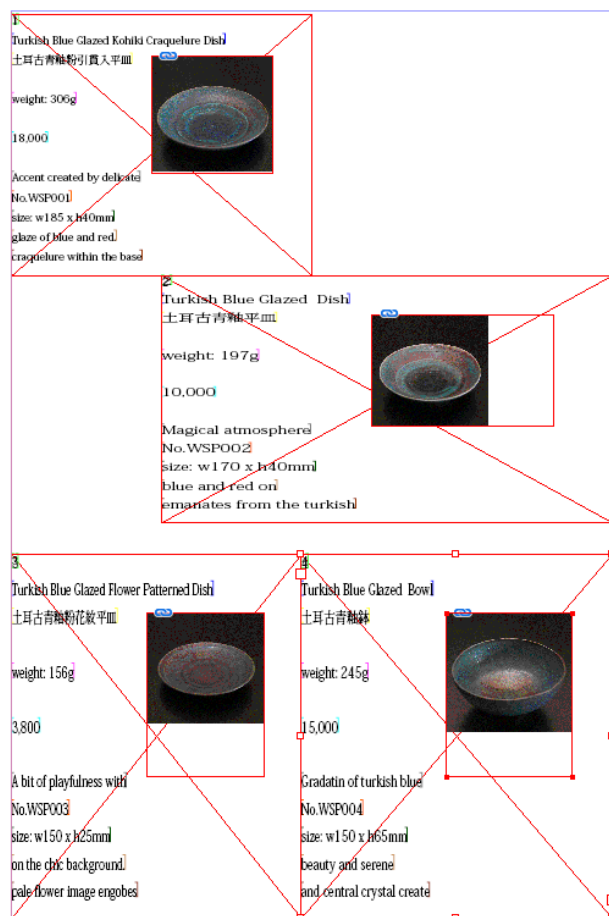


対象データ一覧

[1]	200001 土耳古青釉粉引貫入平皿	<input checked="" type="radio"/>
[2]	200002 土耳古青釉平皿	<input checked="" type="radio"/>
[3]	200003 土耳古青釉粉花紋平皿	<input checked="" type="radio"/>
[4]	200004 土耳古青釉鉢	<input checked="" type="radio"/>
[X]	200005 土耳古青釉粉引波紋小鉢	<input type="radio"/>

キャンセル データの割り付け

割り付けが完了すると、下のようになります。



4.8 ペースト機能の拡張

4.8.1 データとの関連付けを維持してペーストする

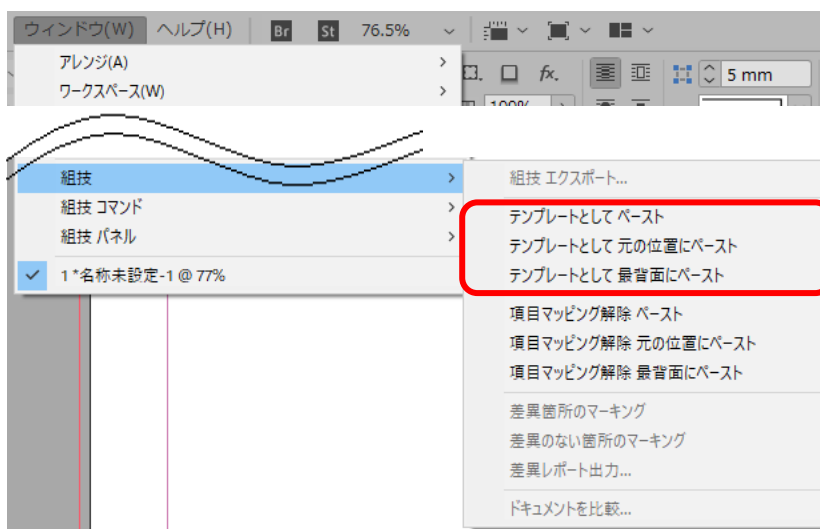
この機能は、InDesign 標準の[編集]メニューにある操作で行います。

- ◆ 注意！ 文字範囲のコピー&ペーストまたはカット&ペーストにおいて、データとの関連付けを維持する場合、コピーまたはカットの範囲にタグも含めてください。

4.8.2 テンプレートとしてペーストする

貼り付け時にデータとの関連付けを削除します。

項目とのマッピング情報は維持されますので、テンプレートとして再利用でき、データの割り当てができます。

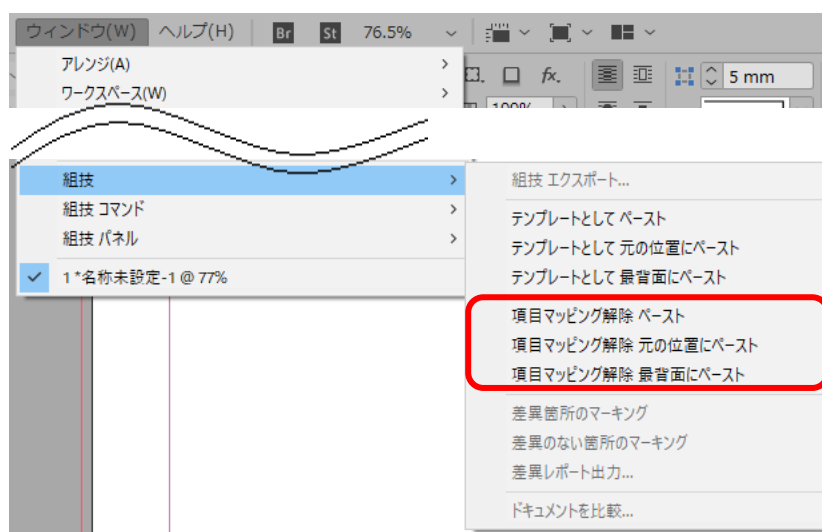


- ◆ 注意！ 文字範囲のコピー&ペーストまたはカット&ペーストにおいて、データ項目との関連付けを維持する場合、コピーまたはカットの範囲にタグも含めてください。

4.8.3 項目マッピングを解除してペーストする

貼り付け時に項目とのマッピング情報を削除します。

データとの関連付けが削除されます。



5 比較機能

データを取り込むだけの一方通行ではありません。

本プラグインでレイアウトされたフィールドは、取り込んだ入力データとの関連付けを持っているため、入力データの変更や、InDesign 上での変更をボタンひとつで確認することができます。

プリントアウトしたデータリストと InDesign で作成した原稿との目視でのチェック作業から開放されます。

5.1 データとの差異チェック

文字データと InDesign のドキュメント上のフィールドとを比較します。

変更が入った場合などの修正漏れをなくします。

InDesign のドキュメント上に相違点を色分けで明示することができます。

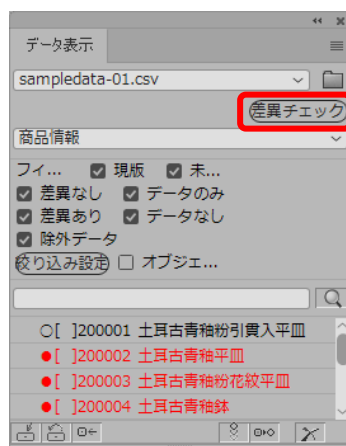
また、レポートとして別ファイル（Excel 形式）に出力することもできるため、校正元などへ提示するレポートとして使用することも可能です。

5.1.1 差異チェックの実行

ドキュメントの Open 時、データファイルの Open 時に差異チェックが自動的に実行されます。

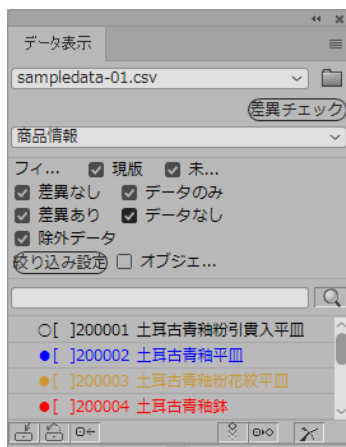
また、ドキュメントの切り替え時にも自動的に実行されます。

「データ表示」パネルの[差異チェック]ボタンをクリックすることで、ユーザーが任意のタイミングで差異チェックを実行することもできます。



5.1.2 パネル上での色分け表示

「データ表示」パネル及び、「データ項目表示」パネルにおいて、差異チェックでの色分け表示をします。



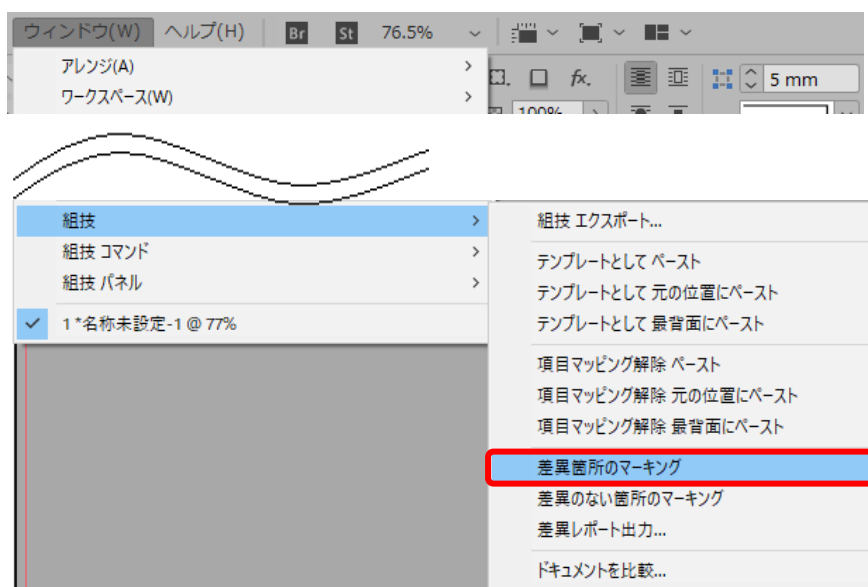
色	説明
黒	差異なし
赤	データのみ
青	差異あり
緑	データなし
橙	差異チェック未実行

5.1.3 ドキュメント上での色分け

ドキュメント上に、データとの差異を明示するためのレイヤーを追加し、マーキングします。

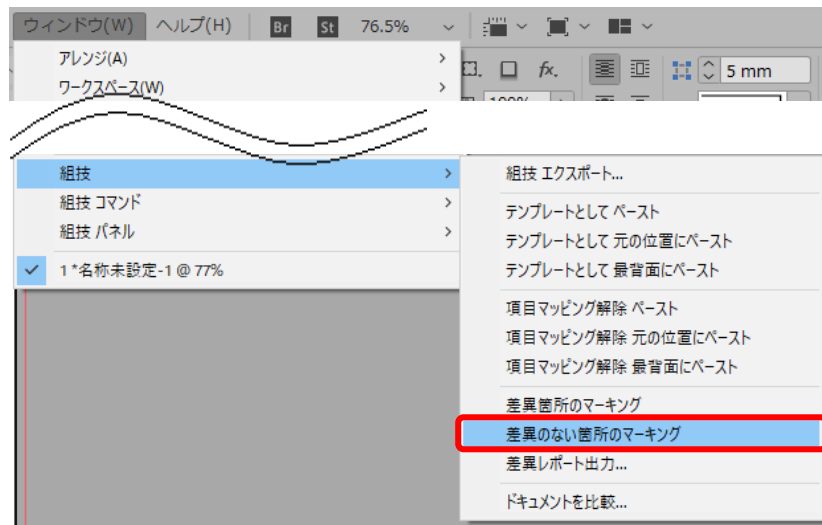
差異箇所をマーキングする

差異箇所をマーキングするには、「組技」メニューの「差異箇所のマーキング」を選択します。



差異のない箇所をマーキングする

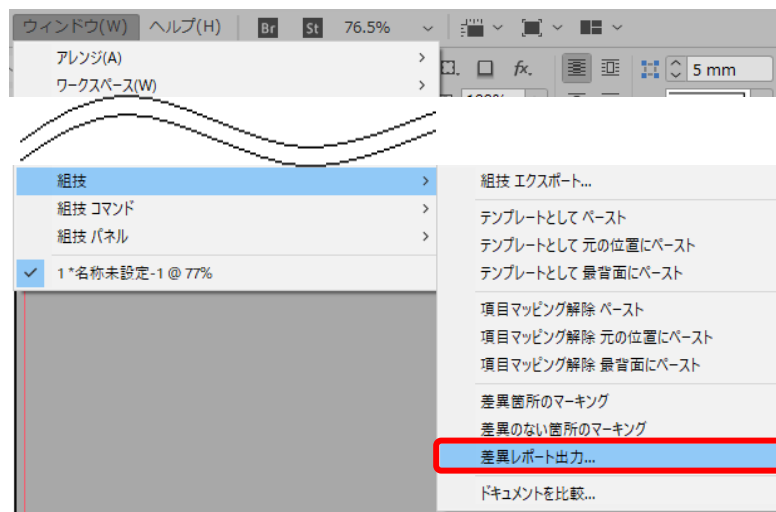
差異のない箇所をマーキングするには、「組技」メニューの「差異のない箇所のマーキング」を選択します。



5.1.4 レポート出力

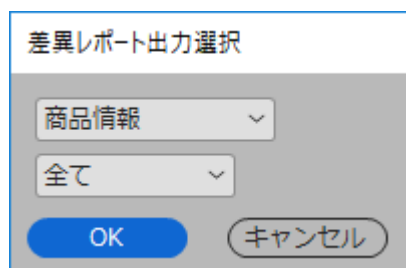
データとの差異を Excel ファイル形式で出力します。

「組技」メニューの「差異レポート出力」を選択します。

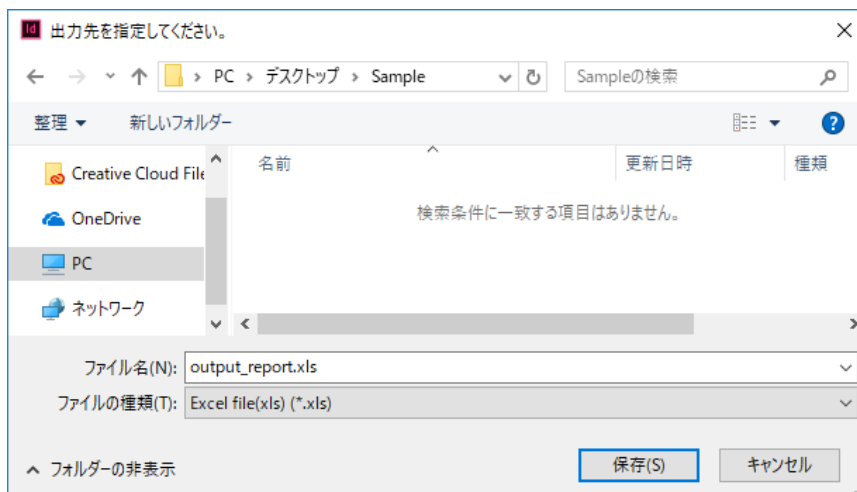


「差異レポート出力選択」画面が表示されます。

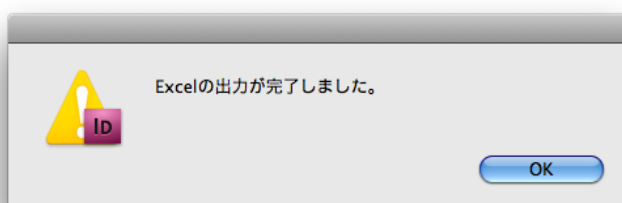
レポートに出力するデータグループ及び、範囲を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、出力ファイル名を指定してください。



レポートの出力が完了すると、次のようなメッセージが表示されます。



5.2 ドキュメント同士の比較

InDesign + 組技 で作成した原稿ファイル(indd)同士の比較ができます。

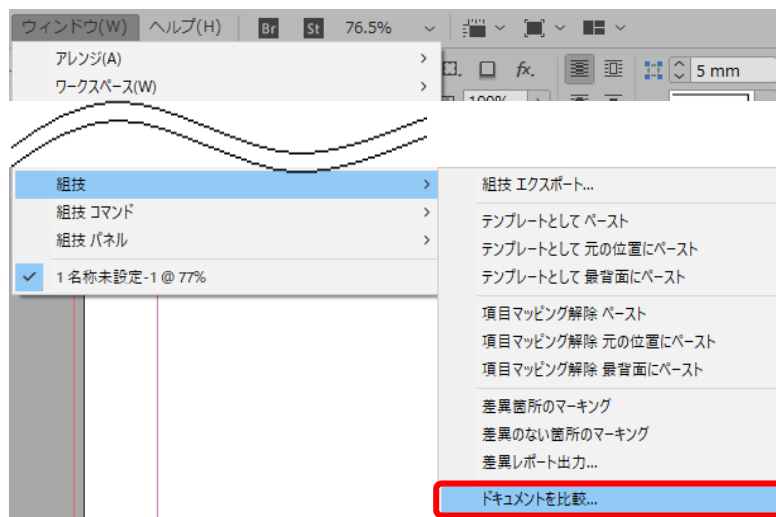
PDF に変換せずに、InDesign 上でドキュメント比較ができるので、製作現場内でのチェックが簡単に行えます。

レポートとして別ファイル（Excel 形式）に出力することができるため、クライアントなどへ提示するレポートとしても使用することも可能です。

5.2.1 レポート出力

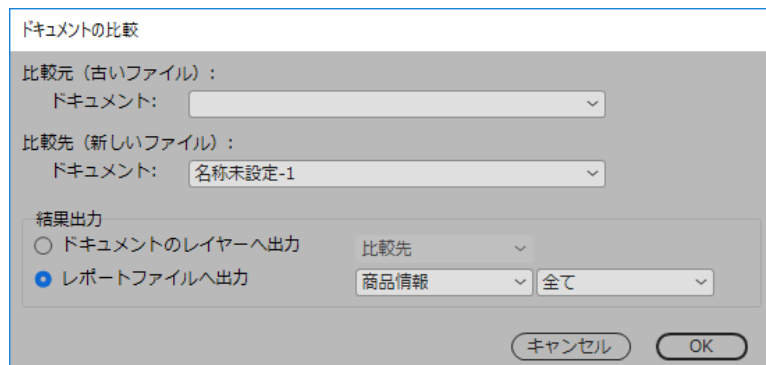
相違点を Excel ファイル形式で出力します。

「組技」メニューの「ドキュメントを比較...」を選択します。

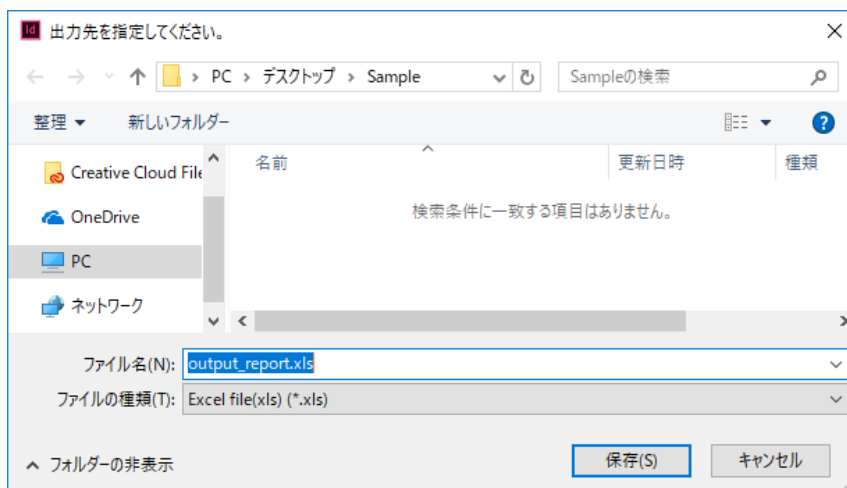


「ドキュメントの比較」ダイアログが表示されます。

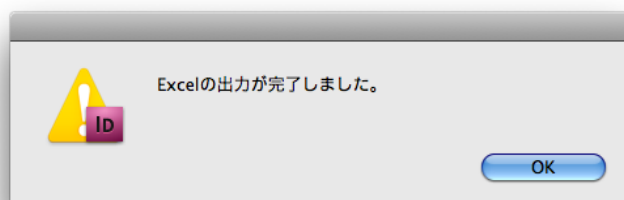
比較対象のドキュメントを設定し、「結果出力」のレポートに出力するデータグループ及び、範囲を選択します。



「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、出力ファイル名を指定してください。



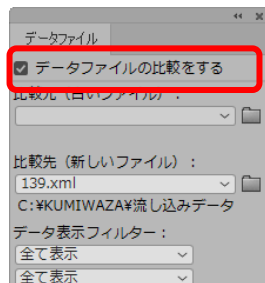
レポートの出力が完了すると、次のようなメッセージが表示されます。



5.3 データ同士の比較

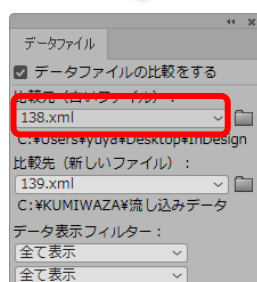
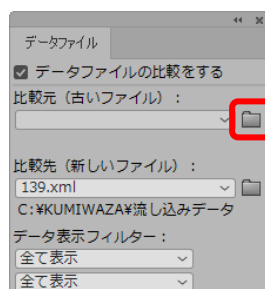
データファイル パネルを使用して、データファイル同士の比較を行うことができます。

データファイル同士の比較を行うには、データファイル パネルの「データファイルの比較をする」チェック Box にチェックを付けます。



5.3.1 比較元/比較先のデータファイルを指定する

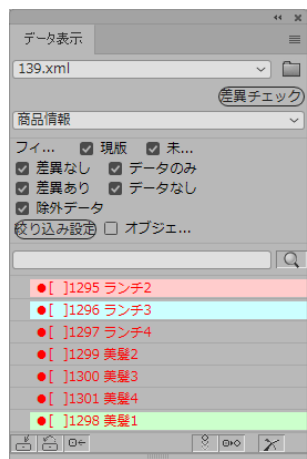
「データフォルダの指定」ボタンをクリックし、データフォルダを指定します。

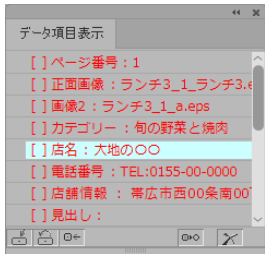


データフォルダが指定されると、フォルダ内のデータファイル(*.xml)がファイル選択リストで選択可能になりますので、比較したいファイルを選択します。

5.3.2 パネル上での色分け表示

「データ表示」パネル及び、「データ項目表示」パネルにおいて、色分け表示をします。

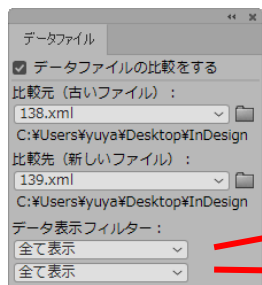




背景色	説明
白	差異なし
薄い赤	比較先データのみ
薄い青	差異あり
薄い緑	比較元データのみ

5.3.3 データ表示フィルター

「データファイル」パネルのデータ表示フィルターを設定することで、「データ表示」パネルの表示内容を絞ることができます。



① 表示データファイル選択リスト

全て表示	すべてのデータを表示します。
比較元のみ	比較元のデータのみを表示します。
比較先のみ	比較先のデータのみを表示します。

② 表示データ選択リスト

全て表示	すべてのデータを表示します。
差異のあるものを表示	差異なし（白背景）以外を表示します。
差異の無いものを表示	差異なし（白背景）のみ表示します。
差異 比較元のみ	比較元データのみ（薄い緑背景）のみ表示します。
差異 比較先のみ	比較先データのみ（薄い赤背景）のみ表示します。
差異データのみ	差異あり（薄い青背景のみ表示します。

5.4 差異チェック除外項目設定

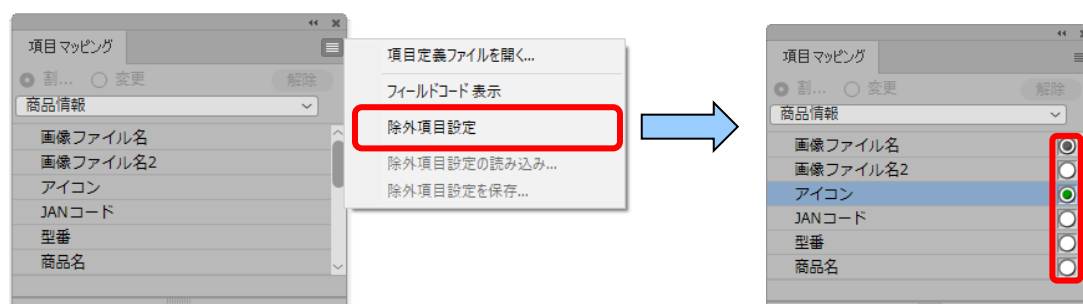
データの項目単位に設定することができます。

作業時にデータを識別するためのデータ項目や作業指示など、ドキュメント上に配置しないデータ項目を差異チェックの対象から除外し、必要なデータ項目だけをチェック対象とすることができます。

5.4.1 除外項目を設定する

「項目マッピング」パネルのパネルメニューから「除外項目設定」を選択すると、「項目マッピング」パネル上で除外項目の設定が可能になります。

リストの右端にある○をクリックすることで設定できます。



※ これらの設定は、ユーザーごとの環境設定として保存されます。

5.4.2 除外項目設定を外部ファイルへ保存する

除外項目設定が編集可能な状態の時、その設定内容を外部ファイルへ保存することができます。

外部ファイルへ保存するには、パネルメニューから「除外項目設定を保存」を選択します。

除外設定を他のユーザーと共有したい場合などに使用できます。

5.4.3 除外項目設定を外部ファイルから読み込み

除外項目設定が編集可能な状態の時、その設定内容を外部ファイルから読み込むことができます。

外部ファイルから読み込むには、パネルメニューから「除外項目設定を読み込む」を選択します。

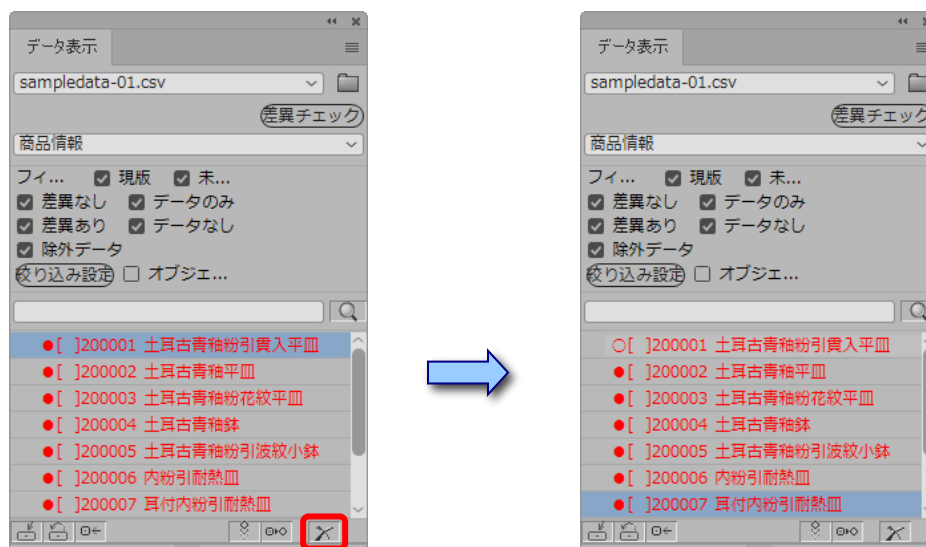
5.5 除外設定

除外設定は、INDD ドキュメントに保存されます。

5.5.1 データ表示 パネルでの除外設定

差異チェック対象外としてマーク付けを可能とします。

「データ表示」パネル上で除外設定したいデータを選択し、[除外設定]ボタンをクリックします。
除外設定されたデータはグレーの背景色で表示されます。



※ 除外設定を解除する場合も同様に、[除外設定]ボタンをクリックします。

5.5.2 データ項目表示 パネルでの除外設定

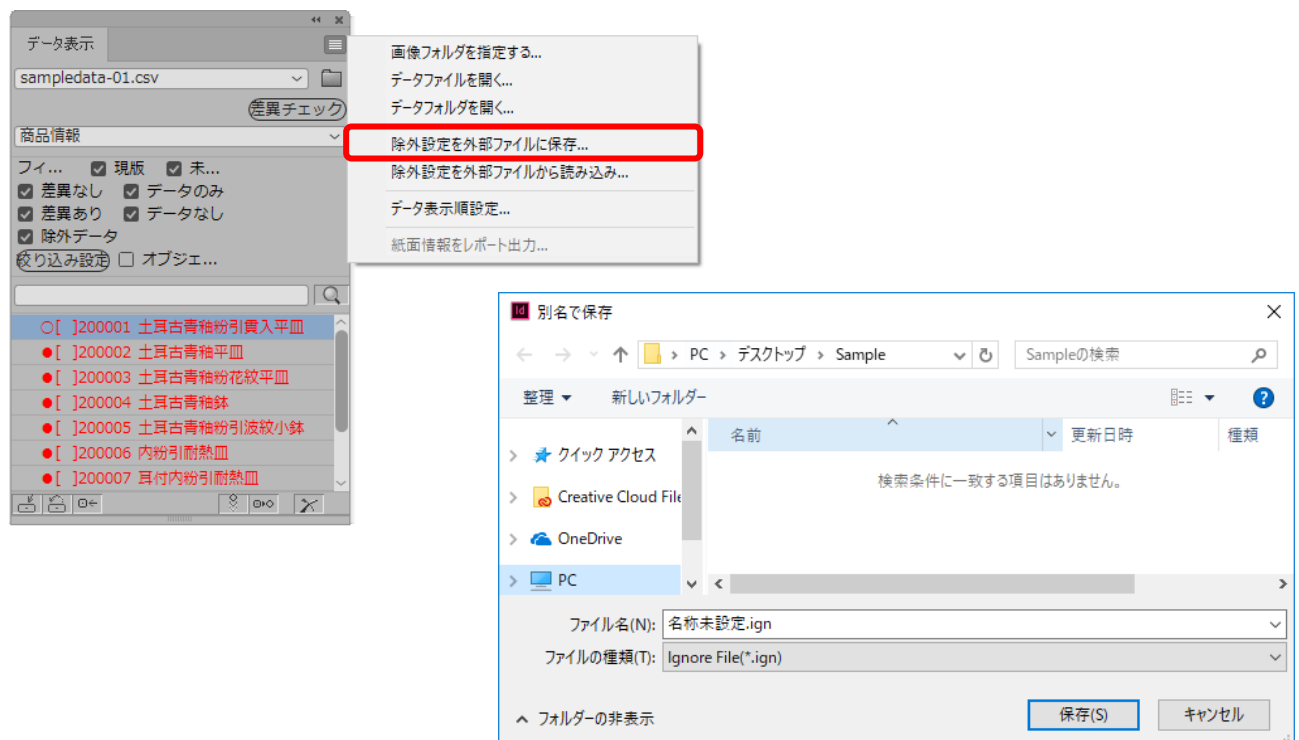
差異チェック対象外としてマーク付けを可能とします。

「データ項目表示」パネル上で除外設定したい項目を選択し、[除外設定]ボタンをクリックします。
除外設定されたデータはグレーの背景色で表示されます。



5.5.3 除外設定を外部ファイルに保存する

「データ表示」パネルのパネルメニューから「除外設定を外部ファイルに保存する」を選択します。
「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、保存先のファイル名を設定します。

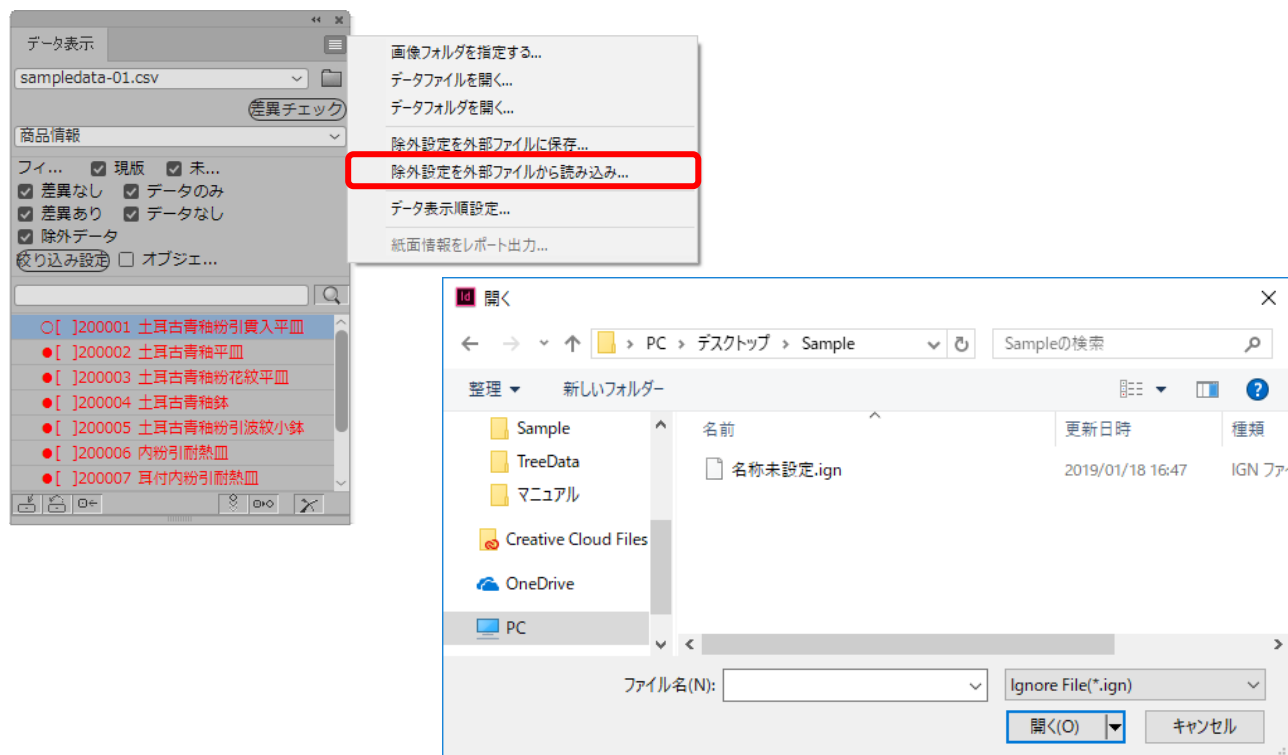


除外設定を別の INDD ドキュメントへ移行したい場合などに使用できます。

5.5.4 除外設定を外部ファイルから読み込む

データ表示 パネルのパネルメニューから、「除外設定を外部ファイルから読み込む」を選択します。

「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、保存した除外設定ファイルを指定します。



6 保存

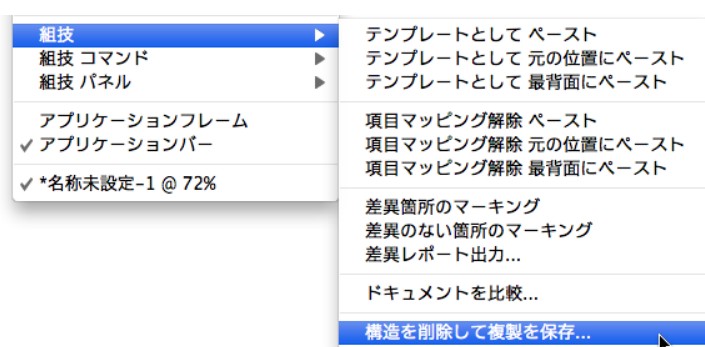
組技プラグインを持っていないパソコンで組版後のデータ開くとプラグイン警告が表示されますが、本機能を使用する事により警告を表示しない状態で組版後のファイルを保存できます。

6.1 構造を削除して複製を保存

6.1.1 構造を削除して複製を保存

メニューから、「構造を削除して複製を保存...」を選択します。

「複写を保存」ダイアログが表示されますので、必要な情報を設定し保存を行ってください。

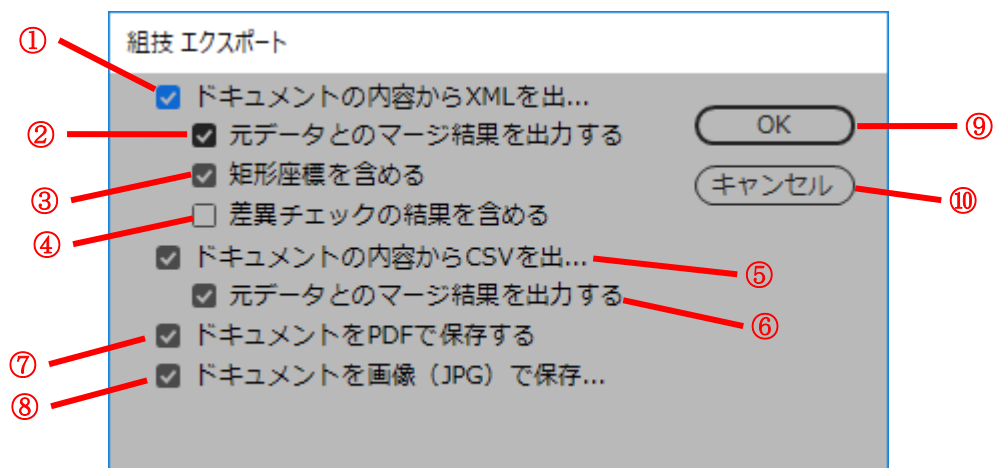


7 データのエクスポート

7.1 画面について

7.1.1 「組技 エクスポート」ダイアログ

「組技 エクスポート」ダイアログの各部の名称について説明します。

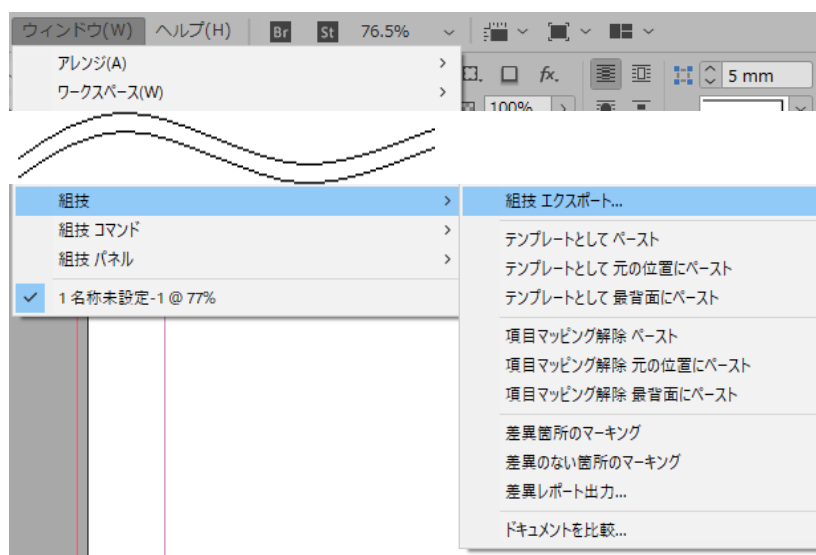


①	ドキュメントの内容から XML を出力する	XML を出力する場合、チェックを On にします。
②	元データとのマージ結果を出力する	チェックが Off の場合、ドキュメント上に配置されているデータのみを出力します。 チェックが On の場合、ドキュメント上に配置されていないデータ項目についても、出力する XML の内容に含めます。 ただし、使用されていないレコードについては、XML の内容に含まれません。
③	矩形座標を含める	ドキュメント上に配置されている各オブジェクトの座標を、出力する XML の内容に含めます。
④	差異チェックの結果を含める	データ項目単位での差異チェック結果ステータスを、出力する XML の内容に含めます。
⑤	ドキュメントの内容から CSV を出力する	CSV を出力する場合、チェックを On にします。
⑥	元データとのマージ結果を出力する	チェックが Off の場合、ドキュメント上に配置されているデータのみを出力します。 チェックが On の場合、ドキュメント上に配置されていないデータ項目についても出力する CSV の内容に含めます。 ただし、使用されていないレコードについては、CSV の内容に含まれません。
⑦	ドキュメントを PDF で保存する	PDF を出力する場合、チェックを On にします。
⑧	ドキュメントを画像 (JPEG) で保存する	JPEG を出力する場合、チェックを On にします。
⑨	OK ボタン	
⑩	キャンセル ボタン	

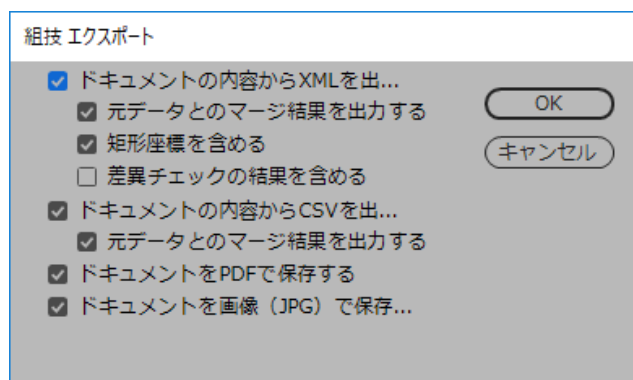
7.2 データの外部ファイル出力 (XML)

InDesign でデザインした各オブジェクトの座標をデータとの関連付けを含めて、XML 形式で出力します。この XML に含まれたオブジェクトの座標データは、魅技でのアイテムのクリック範囲として使用することができます。

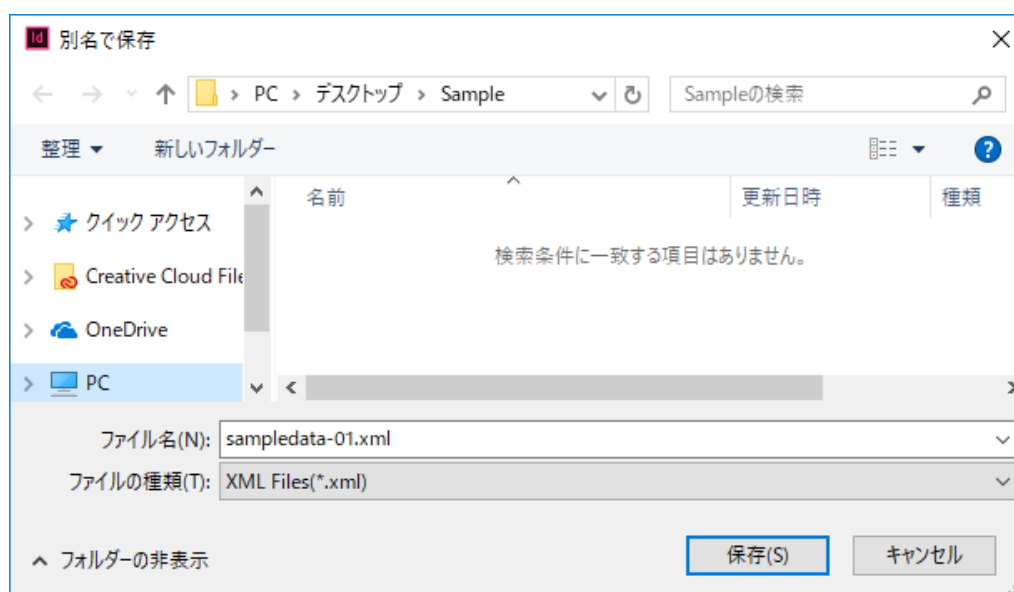
「組技」メニューの「組技 エクスポート...」を選択します。



「組技 エクスポート」ダイアログが表示されます。
出力したい内容を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、出力ファイル名を指定してください。



「ドキュメントを PDF で保存する」チェックを On に設定している場合、「Adobe PDF を保存」ダイアログが表示されますので、適宜設定を行い、[PDF を保存]ボタンをクリックしてください。

Adobe PDF を書き出し

PDF 書き出しプリセット(S): [雑誌広告送稿用]

標準(T): PDF/X-3:2002 互換性(C): Acrobat 4 (PDF 1.3)

一般

詳細(D): 雑誌広告デジタル送稿推進協議会によって策定されたデータ制作ルールに基づいて、雑誌広告送稿用の PDF ファイルを作成するために使用します。

ページ

☒ すべて(A) ☐ 範囲(R): 1

書き出し形式 ☒ ページ(G) ☐ 見開き印刷(E)

☐ 個別の PDF ファイルを作成(C)

サフィックス(X):

表示

倍率(V): デフォルト

レイアウト(U): デフォルト

☐ フルスクリーンモードで開く(M)

☐ 書き出した後 PDF を表示(W)

オプション

☐ ページサムネールを埋め込み(P) ☐ タグ付き PDF を作成(F)

☐ Web 表示用に最適化(O) ☐ Acrobat レイヤーを作成(L)

レイヤーを書き出し(Y): 表示中でプリント可能なレイヤー

読み込み

☐ ブックマーク(B) ☐ 印刷しないオブジェクト(N)

☐ ハイパーリンク(H) ☐ ガイドとベースライングリッド(U)

インタラクティブ(I): 含めない

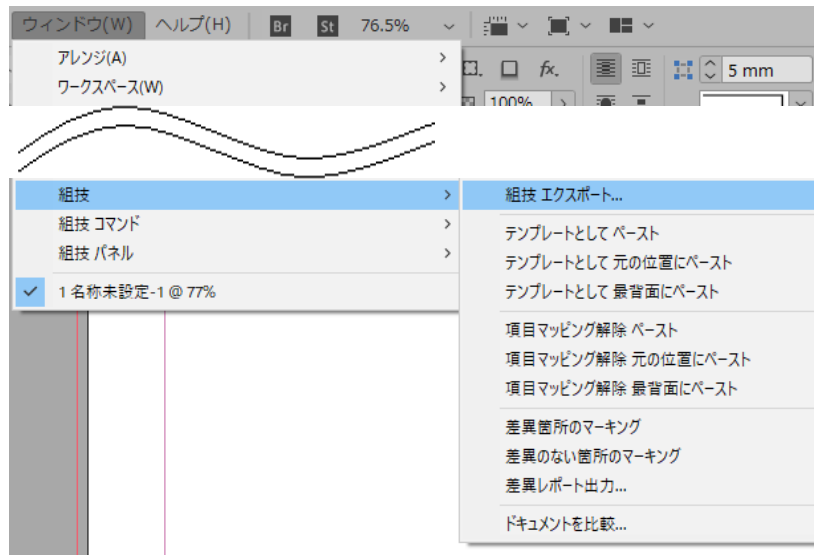
プリセットを保存(V)... 書き出し(X) キャンセル

※ ここで[キャンセル]ボタンをクリックすると、「組技 エクスポート」の実行は中断されます。

7.3 データの外部ファイル出力 (CSV)

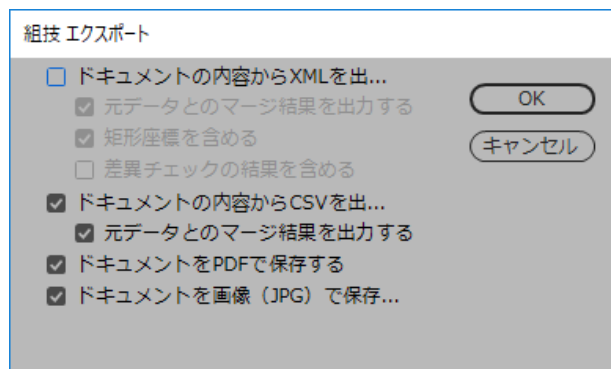
InDesign でデザインした各オブジェクトのデータとの関連付けを含めて、CSV 形式で出力します。

「組技」メニューの「組技 エクスポート...」を選択します。

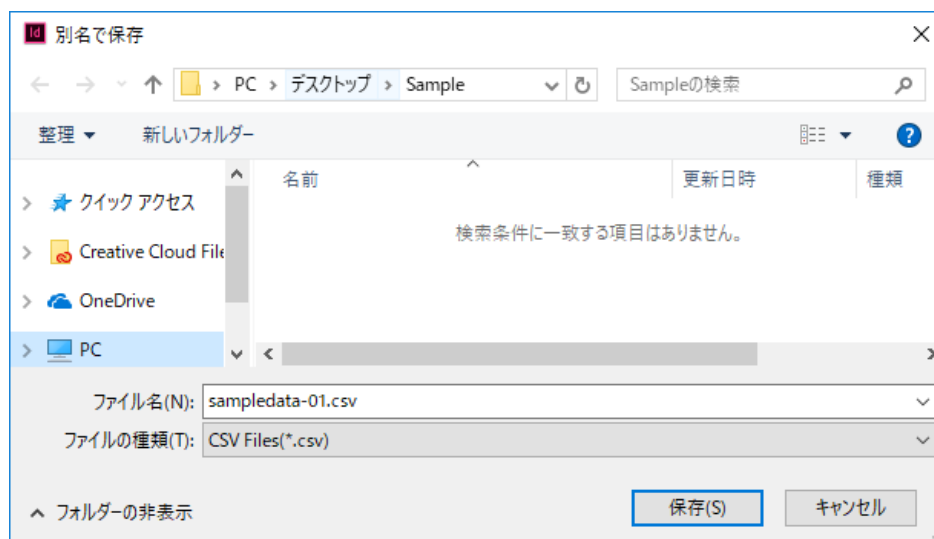


「組技 エクスポート」ダイアログが表示されます。

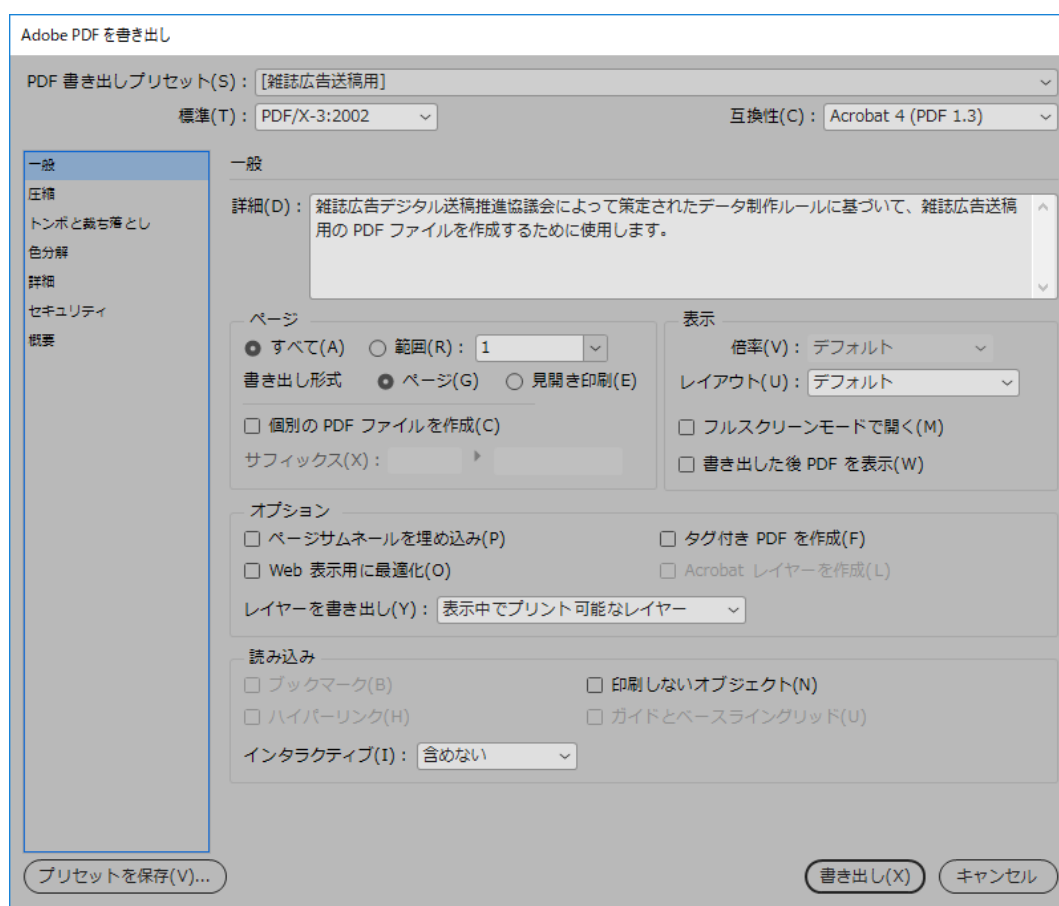
出力したい内容を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



「ファイル選択ダイアログ」が表示されますので、出力ファイル名を指定してください。



「ドキュメントを PDF で保存する」チェックを On に設定している場合、「Adobe PDF を保存」ダイアログが表示されますので、適宜設定を行い、[PDF を保存]ボタンをクリックしてください。



※ここで[キャンセル]ボタンをクリックすると、「組技 エクスポート」の実行は中断されます。

8 データについて

本プラグインは XML 形式のデータの他に、CSV 形式のデータも使用することができます。

また、CSV 形式のデータを使用する際には、「画像定義ファイル」というファイルが必要になります。

8.1 CSV データ

8.1.1 属性

CSV データを作成する際には 1 行目 (赤枠内) に「属性」と呼ばれる項目名を記載する必要があります。実際のデータは 2 行目以降に記載します。

```

1 ID,名称,ページ番号,正面画像,容量,成分,商品種別
2 1161,|メディカルパッド,2,nekusukea.jpg,10枚,絆創膏,320-1000
3 1162,オーキューバンエコ,2,oqbaneko.jpg,20枚,,640-7000
4 1163,キズナテープ,2,kizuna.jpg,,,409-3000

```

8.1.2 固定属性

1 行目に記載する属性のうち、最初の 2 属性については固定となっており、下記のように「ID,名称」の形で記載する必要があります。

```

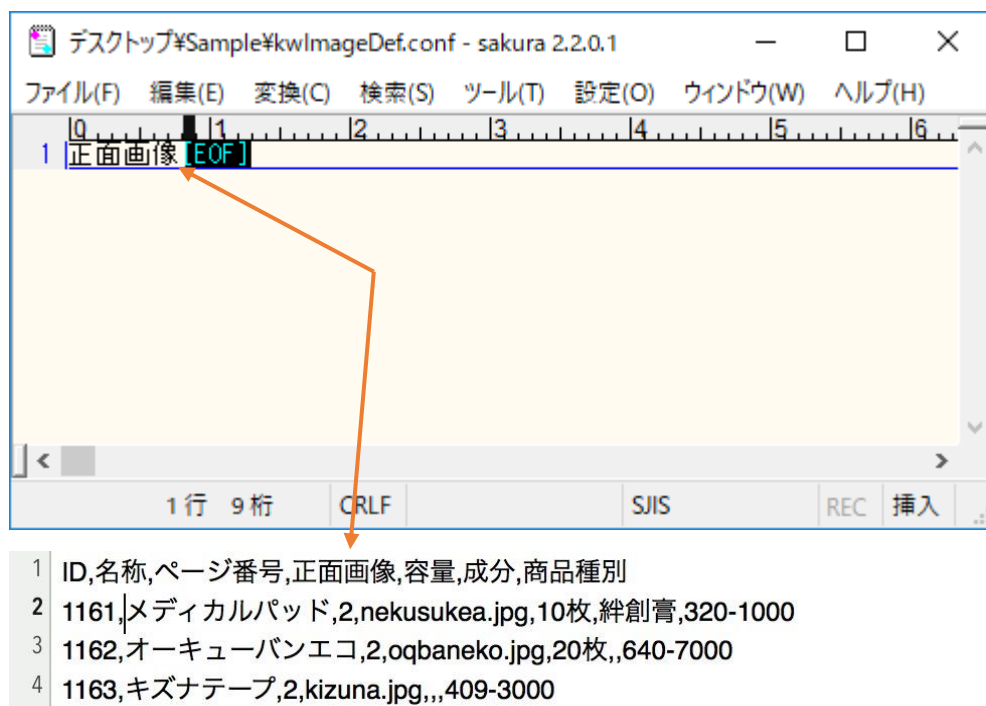
1 ID,名称|ページ番号,正面画像,容量,成分,商品種別
2 1161,|メディカルパッド,2,nekusukea.jpg,10枚,絆創膏,320-1000
3 1162,オーキューバンエコ,2,oqbaneko.jpg,20枚,,640-7000
4 1163,キズナテープ,2,kizuna.jpg,,,409-3000

```

8.2 画像定義ファイル

8.2.1 画像定義ファイルについて

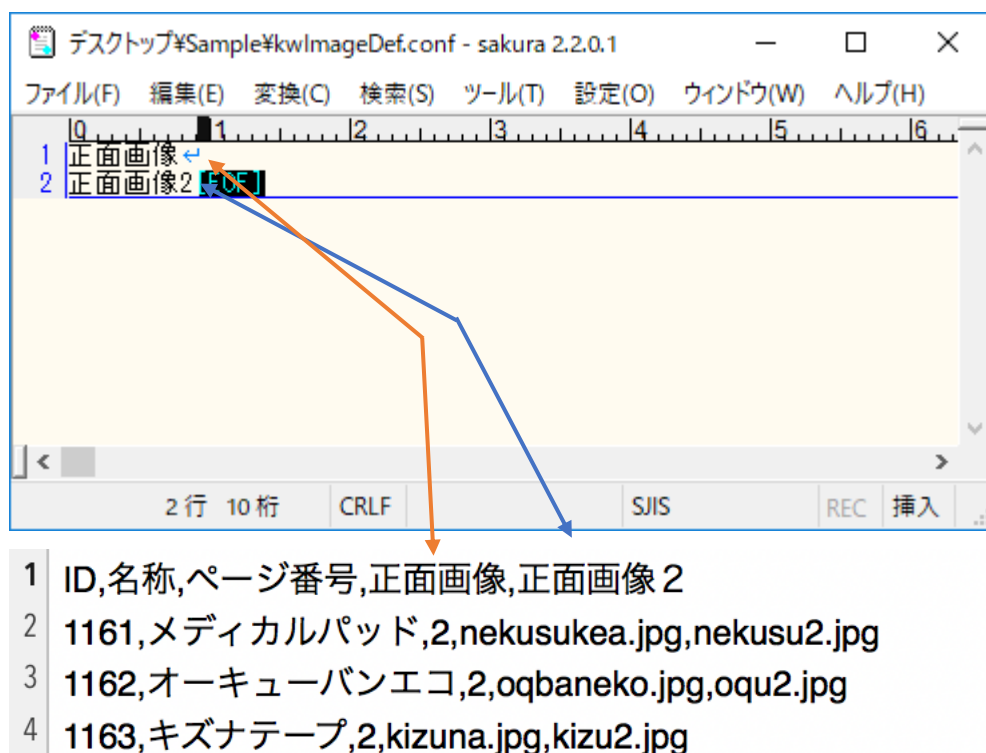
CSV データを使用するには「画像定義ファイル」というファイルが必要になります。
画像定義ファイルには「CSV データに記載した画像ファイルを指す属性名」を記載します。



※CSV に記載している属性名と画像定義ファイルの属性名は一致している必要があります。

8.2.2 画像ファイルの複数定義


複数の属性を指定したい場合は、改行区切りで記載します。



8.2.3 画像定義ファイルのファイル名について

画像定義ファイルのファイル名は「kwImageDef.conf」というファイル名に固定されています。
その為、他のファイル名をつけた場合、正しく画像が読み込まれません。

名前

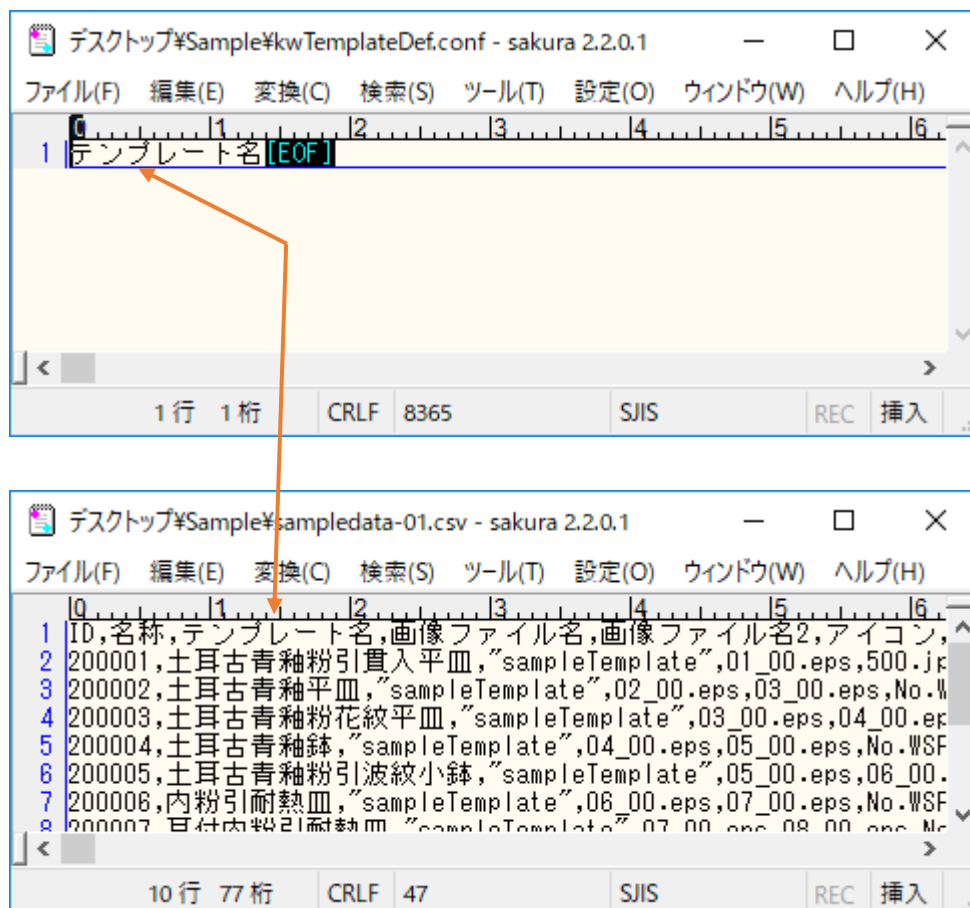
 kwImageDef.conf

8.3 テンプレート定義ファイル

8.3.1 テンプレート定義ファイルについて

テンプレート指定流し込みを使用するには「テンプレート定義ファイル」というファイルが必要になります。

テンプレート定義ファイルには「CSV データに記載したテンプレートファイルを指す属性名」を記載します。

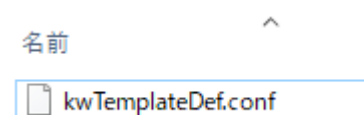


※CSV に記載している属性名とテンプレート定義ファイルの属性名は一致している必要があります。

8.3.2 テンプレート定義ファイルのファイル名について

テンプレート定義ファイルのファイル名は「kwTemplateDef.conf」というファイル名に固定されています。

その為、他のファイル名をつけた場合、正しくテンプレートが読み込まれません。



8.3.3 テンプレート名指定流し込みについて

テンプレート名指定流し込みは「レイアウト枠を使用した割り付け」の場合のみ使用できます。

/// N.GeN



2019.01

© Copyright N.GeN Corporation. All Rights Reserved.